

緑と水の森林ファンド公募事業報告集

Vol. 13



竹林整備によって作られる竹炭活用のサカキ（ヒサカキ）栽培
ちば里山・バイオマス 協議会（千葉県）

はじめに

昭和 63 年に 3 月に「緑と水の森林基金」が創設されてから、33 年余の歳月が経過しました。平成 23 年 7 月には、機構の組織が社団法人から公益社団法人に変更となったことに伴い「緑と水の森林基金」は「緑の水の森林ファンド」に名称を変更し、ファンドの運用収入を活用して森林資源の整備や水源かん養等の課題を中心に、「国民参加の森林づくり運動」推進のため幅広い事業を展開してまいりました。

平成 24 年 12 月「国際森林デー」の制定、平成 25 年 11 月「国連持続可能な開発のための教育 10 年 (ESD)」世界会議等の意義、さらに平成 27 年 9 月の国連サミットで採択された 17 の国際目標 (SDGs : 持続可能な開発目標) を念頭に、森林の重要性に対する理解の推進を図るとともに、森のようちえんなど新たな森林の利用や森林環境教育の推進を具体的に図っていくことが重要となっています。さらに、東日本大震災では海岸林が多大な被害を受け、森林復興への支援が引き続き求められています。

このような中で、当事業は、「国民参加の森林づくり」の一層の推進のための普及啓発、森林ボランティア活動への支援、森林環境教育を通じた次世代の育成などの課題を重点に、実施主体により中央事業、都道府県事業、公募事業の 3 つに区分し実施してまいりました。

本報告書は、このうち公募事業 (令和 3 年度) (令和 2 年度・事業期間延長分) の成果を報告集として取りまとめたもので、事業内容は多種多様な課題にわたっております。ご高覧いただき皆様の活動の一助としてご活用いただければ幸いです。

終わりに、本冊子のとりまとめに当たりまして、ご協力いただきました皆様方に心から御礼申しあげます。

令和 5 年 6 月

公益社団法人国土緑化推進機構

緑と水の森林基金・ファンド 刊行物一覧

「緑と水の森林基金」事業事例集	21世紀へ引き継ぐ森林づくり	平成2年版	(1992.4)
「緑と水の森林基金」事業事例集	21世紀へ引き継ぐ森林づくり	平成3・4年版	(1994.8)
「緑と水の森林基金」事業事例集	21世紀へ引き継ぐ森林づくり	平成5・6年版	(1996.3)

緑と水の森林基金	公募事業	調査研究成果選集	VOL1	緑と水のサイエンス	(1996.8)
緑と水の森林基金	公募事業	調査研究成果選集	VOL2	緑と水のサイエンス	(2001.7)
緑と水の森林基金	公募事業	調査研究成果選集	VOL3	緑と水のサイエンス	(2004.6)
緑と水の森林基金	公募事業	調査研究成果選集	VOL4	緑と水のサイエンス	(2007.8)
緑と水の森林基金	公募事業	調査研究成果選集	VOL5	緑と水のサイエンス	(2009.5)
緑と水の森林基金	公募事業	調査研究成果選集	VOL6	緑と水のサイエンス	(2010.4)

緑と水の森林基金	緑と水の森林基金公募事業報告集	VOL1	(2011. 3)
緑と水の森林基金	緑と水の森林基金公募事業報告集	VOL2	(2012. 3)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL3	(2012. 12)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL4	(2013. 12)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL5	(2015. 3)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL6	(2016. 2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL7	(2017. 2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL8	(2018. 2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL9	(2019. 2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL10	(2020. 2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL11	(2021. 2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL12	(2022. 3)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL13	(2023. 6)

緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL1	(2013. 3)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL2	(2013. 12)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL3	(2014. 12)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL4	(2016. 2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL5	(2017. 2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL6	(2018. 2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL7	(2019. 2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL8	(2020. 2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL9	(2021. 2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL10	(2022. 3)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL11	(2023. 6)

目次

普及啓発

添別ブナ林を活用した森林環境教育活動（森のようちえん）／黒松内ぶなの森自然学校運営協議会	8
青少年への緑を通じた環境教育推進事業／青森県緑の少幼年団連盟	9
五感で楽しく学ぶ里山 SDGs ／特定非営利活動法人おどろ木ネットワーク	10
里山整備に若い力を～きこのプロジェクト～／岩手県立大野高等学校	12
森から学び、行動しよう！ ESD for 2030 ▶ SDGs ／特定非営利活動法人水守の郷・七ヶ宿	13
自然にふれよう 山のがっこう／特定非営利活動法人 SCR	14
横手の山30座 選定報告書作成事業／横手山岳協会	15
フォレストサポート・2021／ガールスカウト山形県連盟	17
木のおもちゃ広場の開催／一般社団法人 子育てネットワーク ままもり	18
地域材による木工技術の普及と木材利用の普及促進事業／特定非営利活動法人 やみぞの森	19
高原山麓の森林の保全再生と利活用促進／くまの木里山応援団	20
森はともだち 楽しくまなぼう 森友 楽校／ぐんま森林インストラクター会	21
竹林整備によって作られる竹炭活用のサカキ（ヒサカキ）栽培／ちば里山・バイオマス協議会	22
第6回子どもと森をつなぐためのリーダー養成講座／特定非営利活動法人 観照ボランティア協会	24
「シンポジウム：森林資源の利用ー木質バイオマスの導入と地域循環の現状等について」 ／一般社団法人産業環境管理協会	25
森づくり体験による森林・林業の普及啓発と、森づくり団体の活動支援事業／NPO 法人森づくりフォーラム	26
「森から学ぶ」森林の生多様性と生態系を考える／公益財団法人 Save Earth Foundation	27
森林と人との関わりから、持続可能な社会の実現を市民協働で考える連続講座・意見交換会 ／「森づくり政策」市民研究会	28
身近な森林で自然遊びを体験し、森への関心を深めよう／NPO 法人くにたち農園の会	29
シンポジウム「森林（もり）へのまなざしー異分野共創・未来への投資ー」 ／「森林・林業・山村問題を考える」シンポジウム実行委員会	30
森の恵み自然の恵みを体験しよう／森のようちえん風のいろ	31
気遣いの森づくりプロジェクト／NPO 法人なかまフィールドうじゅうの森	32
そらしど森を楽しむ講座／のいちご会	33
新時代における財産区有林の役割／NPO 法人調和の響きエコツーリズムネットワーク	35
森林空間を活かした不登校児のための居場所と学び舎「森のかっこう」／森のかっこう	36
街中公園でのツリークライミング体験を通じて森と木が好きになるプロジェクト ／公益社団法人 静岡県林業会議所	37
小学校授業での森林体験学習／特定非営利活動法人 水とみどりを愛する会	38
地域産木材利用啓発事業／特定非営利活動法人 京都森林・木材塾	39
木育 森の恵み発信プロジェクト／やまぐに（林業女子会@京都）	40
森を楽しむワクワク育児！『森のようちえん体験会』と『おやこまつり』 ／一般社団法人森のようちえんどろんこ園	42
未来につなごう、都市近郊林 ～寺林の保全と利用を目指して～／フィールドソサイエティー	43
木づかい社会の定着を次世代の森づくりにつなぐ「木材コーディネーターオンライン講座」運営事業 ／NPO 法人サウンドウッズ	44

森林生態系から身近な自然を考える ESD ワークショップ～持続的な活用と地域住民の「親」林空間の形成に 向けて～／奈良教育大学附属中学校裏山クラブ	45
森のようちえん全国交流フォーラム in 奈良／森のようちえん全国交流フォーラム in 奈良 実行委員会	46
第 2 回日本伐木チャンピオンシップ in 鳥取／日本伐木チャンピオンシップ in 鳥取実行委員会	48
森林を活用したプレーパーク活動／特定非営利活動法人 隠岐しぜんむら	49
保育園・幼稚園等における森林環境教育の推進／（公社）島根県緑化推進委員会	50
里山保全の普及啓発事業／NPO 法人 ^{しとり} 倭文の郷	51
少年少女里山マイスター養成講座／特定非営利活動法人 徳島県森の案内人ネットワーク	52
第 26 回九州森林フォーラム in 大分県日田市～九州における小規模林業の役割と課題～ ／NPO 法人 九州森林ネットワーク	53
日本三大砂丘「吹上浜」の白砂青松再生事業～「森林ボランティアの日」森林づくり活動～ ／鹿児島県森林ボランティア連絡会	55
森を知り森に親しむ事業／特定非営利活動法人らんらんらん	56
森での学びと体験を楽しむ事業／特定非営利活動法人みどりの風かんかん	57

調査研究

森林空間を活用した健康活動と森のアクティビティの融合による森林での活動習慣の定着化に関する調査 ／一般社団法人全国森林レクリエーション協会	60
コンテナ苗の普及が林業用苗木生産と再造林の労働力需給に及ぼす影響の把握 ／一般財団法人林業経済研究所	62

活動基盤整備

まるごと大沼ラムサール探検隊→SKY キッズレンジャー養成塾／大沼エデュケーションパーク準備室	66
森でコミュニケーションしよう「里山再生プロジェクト」／学校法人尚綱学院	68
手入れされていない森林の再生整備と活用事業／なか自然の会	70
ヤマアジサイの森の調査隊と山のボランティア育成／倉渕ヤマアジサイの会	71
開発跡地での都市部と秩父の植樹・森林活動と交流促進／秩父 FOREST	72
大学生を対象とした森林環境教育プログラム／特定非営利活動法人 Peace Field Japan	73
子ども樹木博士認定活動を活用した森林環境教育の推進／子ども樹木博士認定活動推進協議会	75
ソフィアの森の整備／上智大学大学院地球環境研究科	76
安全で楽しい森林の保全・利用を指導できるリーダー養成講座／モリダス	77
森林空間を活かした不登校児のための居場所と学び舎「森のかっこう」／森のかっこう	78
森のようちえんと小規模特認校の連携による、保幼小中一環となった「森と自然を活用した保育・教育」 実践モデル構築事業／一般社団法人 びわ湖の森のようちえん	79
陀羅尼助（だらにすけ）の郷で森林づくり in 天川村洞川 part 2／奈良県森林ボランティア連絡協議会	81
里山・自然体験リーダー・インストラクター人材育成@東広島／森林ボランティア団体もりゆう	82
徳島県森林づくりリーダー養成講座／とくしま森林づくり県民会議	83
地域で育てる緑の少年団～森の学校の開催～／緑の少年団愛媛県連盟	84
令和 3 年度 森林ボランティアリーダー養成講座／情報交流館ネットワーク	85
宮崎県みどりの少年団総合研修大会／宮崎県みどりの少年団連盟	86
山村地域の森の循環を学ぶ体験事業／特定非営利活動法人もりびと	87
産学協同で取り組む「こどものけんちくがっこう」／NPO 法人 こどものけんちくがっこう	88

国際交流

「自然の力を活用した課題解決」による持続可能な社会づくりを目指すための国際シンポジウムの実施

／公益財団法人オイスカ……………90

令和2年度・事業期間延長分

学校演習林（大東農園）を活用した林業教育の推進／青森県立五所川原農林高等学校……………92

木育 Guidebook 制作／一般社団法人 子育てネットワーク ままもり……………93

「生物多様性のある里山の森づくり」／埼玉県立浦和第一女子高等学校麗風会……………94

日光ふるさとの森づくり／森びとプロジェクト……………96

「医師と歩く森林セラピーロード」／International Society of Nature and Forest Medicine (INFOM)……………97

健全な海岸林を将来に残すための啓発活動／公益財団法人オイスカ……………98

身近にあるエネルギーとしてみる森林資源の活用と森林環境教育

／特定非営利活動法人自然文化誌研究会……………99

都市部における若者による森林環境教育の実践／特定非営利活動法人こがねい環境ネットワーク……………100

少年少女里山マイスター養成講座／特定非営利活動法人徳島県森の案内人ネットワーク……………101

将来木施業の理解を深めるためのシンポジウムと現地研修会／四国の森づくりネットワーク……………102

人と森をつなぐ木材利用と木育事業／特定非営利活動法人とす市民活動ネットワーク……………103

SDGs を学び体験してみよう／特定非営利活動法人薩摩ワンダー村……………104

企業研修における森林の持つ複合的な効果について

／東京大学 未来ビジョン研究センター ライフスタイルデザイン研究ユニット……………105

「働き方改革実行計画」に合わせた、森林空間を活用したメンタルヘルス対策推進の仕組みづくり・プログラム

開発・効果検証／Momo 統合医療研究所……………107

宮城県沿岸部の在来植物を活用した屋敷林と沿岸植生の再生活動

／特定非営利活動法人山の自然学クラブ……………108

総合的な環境学習・研究・ESD のフィールドとしての「ソフィアの森」の整備

／上智大学大学院地球環境研究科……………109

能登半島の中山間地域における住民グループと都市住民の連携による地域活性化・グリーンビジネスのモデル

構築事業／早稲田大学地域・地域間研究機構……………110

蒼いウランバートル緑化技術等交流促進事業／蒼いウランバートル技術支援実行委員会……………111

連続セミナー「森林火災と地球温暖化ー燃える森から地球の未来を守れるか」開催事業（国際交流）

／一般財団法人地球・人間環境フォーラム……………112

普 及 啓 発

添別ブナ林を活用した森林環境教育活動（森のようちえん）

黒松内ぶなの森自然学校運営協議会
〒048-0127 北海道寿都郡黒松内町南作開76

1. 活動の概要

黒松内町の添別ブナ林の有効活用し、青少年を対象とする森林ESDの推進するため、近隣市町村の幼児、小学生、その保護者を対象に森のようちえん活動を行った。

2. 活動の成果

活動に参加した子どもたちは、森の魅力を体験的に知ることによって、森づくりの担い手となるきっかけとなった。

活動に参加した保護者は、メンタルヘルスケアになり、日常的に森へ関わるきっかけとなった。

身近な森林での地域内外の交流の場を創出することで、近隣市町村の住民へ森や川での活動の機運を高めることができた。

3. 参加者の声

- ・添別ブナ林が歩きやすく整備されていたので子供達とも歩くのにもとても歩きやすい場所だと思いました。また来たいです。
- ・黒松内にたくさんのきのこがあることがわかりました。
- ・馬に乗ったり、馬に引いてもらったりと馬にたくさん触れることができて良かった。
- ・初めて添別ブナ林に来たけど、とても気持ちいい森だった。
- ・春の川下りをして海まで行けてとても気持ちが良かった。
- ・初めてバームクーヘンを作ることができて、大変だったけど達成感があった。
- ・親子で初めてカヌーに乗って、川から見る景色がとても新鮮だった。

実績報告とりまとめ表

実施時期		10月31日	11月6、7日	5月4、5日	5月7日	6月19日	計
事業量 又は 事業内容		きのこ	馬	川下り と焚き火	デイキャン プ	親子カヌー	
参加者数	県内	27人	47人	9人	32人	25人	140人
	県外	人	人	人	人	人	人
	計	27人	47人	9人	32人	25人	140人
実施場所		北海道寿都郡黒松内町					

青少年への緑を通じた環境教育推進事業

青森県緑の少幼年団連盟
〒030-0813

1. 活動の概要

県内の緑の少幼年団育成強化を図るため、森林公園や地域の里山を活用して、野外教室や木工教室、交流会を実施し、次代を担う青少年の森林・緑に対する理解を深め、生物多様性の保全や地球温暖化防止の意義を学ぶ。また、緑の少幼年団に団服や図書を支給し、さらなる意識の高揚を図る。

2. 活動の成果

県内3地区5箇所で開催した。

地域の里山や県民環境林を活用し、参加した子供達が森林の多面的機能や地球温暖化防止等に重要な役割を果たしている事を学び、さらなる緑化意識の高揚を図ることが出来た。

3. 参加者の声

- ・森林が地球温暖化の進行を防ぐ効果があることを知った。
- ・人工林を手入れすると土砂崩れの防止に役立つことがわかった。
- ・林業という仕事は危険で大変だけど、とても大事なことがわかった。
- ・木工教室で作り方をやさしく教えてもらってとても楽しかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期		10月9日	8月4日～ 12月21日	7月27日	計	備考
事業量	箇所	1箇所	3箇所	1箇所	5箇所	
参加者数	県内	13人	230人	31人	274人	
	計	13人	230人	31人	274人	
実施場所		青森県 蓬田村・八戸市・新郷村・階上町・むつ市				

五感で楽しく学ぶ里山 SDGs

特定非営利活動法人おどろ木ネットワーク

〒038-0003 青森県青森市大字石江字江渡 106-227

1. 活動の概要

「知ることは感じることの半分も重要でない」(レーチェル・カーソン)。「間接体験」や「疑似体験」の機会が多くなっている現代社会において、直接体験によって得られる学習の機会が少なくなっています。このようなことから私たちは10年ほど前から、「森林体験」と「ものづくり体験」を併用した独自の体験イベントを開催してきました。「五感で楽しく学ぶ里山 SDGs」は、これまで私たちが培った経験と実績を發揮できる活動であり、青森の豊かな自然を背景に地域の持続可能性を考えるまたとない機会となるはずでした。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大により、延期・中止を強いられ、大幅な変更を余儀なくされました。本事業では、当初計画した屋外でのイベント中止の代替イベントとして「里山 SDGs 展」(屋内)を開催すると共に、「青森市環境フェア 2021」へも参加しました。「青森市環境フェア 2021」は11回目を迎える青森市主催の環境イベントであり SDGs がテーマであったことから、「木のものづくり」やパネル展示によって「五感で楽しく学ぶ里山 SDGs」の活動を PR しました(入場者 956 名)。「里山 SDGs 展」(屋内)は、令和4年6月10日～12日青森市民美術展示館で開催しました。展示内容は、① SDGs のカタチ展コーナー②森林体験写真コーナー③森林体験紹介動画コーナー④ものづくり体験コーナーで構成し、入場者に、里山という身近な視点から SDGs を考えてもらうことをテーマとしました(入場者 191 名)。

2. 活動の成果

「森林体験」イベントが出来なくなり、想定していたリアル体験が出来なかったのは残念だったが、コロナ禍だからこそと思われる以下のような成果もあった。次回はこれらの経験を生かし、リアル体験が出来る「五感で楽しく学ぶ里山 SDGs」を実現したい。

- ① 「里山 SDGs 展」の SDGs のカタチ展では、参加者それぞれが思い思いの作品を囲んでコミュニケーションの輪が出来、そこに観覧者加わり「SDGs」の話で盛り上がっていた。SDGs はカタチにすることで輪が広がり理解が深まることが分かった。
- ② 森林体験紹介動画の制作は、コロナ禍だからこそ出来たことであり大きな成果であった。動画は「里山 SDGs 展」の動画コーナーで放映した。
(YouTube で発信中 “私たちの里山体験学習” <https://youtu.be/P4nZiXu9bR0>)
- ③ おどろ木ネットワークのオリジナル「感染防止パネル」を作ったところ大評判だった。想定外の成果と言える。

3. 参加者の声

「SDGs」について理解が深まり共感する参加者や観覧者が多かったように思う。また、「青森市環境フェア 2021」では、「おどろ木」づくり体験が好評であった。環境関連の他団体とのパートナーシップの大切さをも感じた。

実績報告とりまとめ表

実施時期		令和3年12月12日	令和4年6月10日～ 6月12日	計	備考
事業量 又は 事業内容		<p>●青森市環境フェア2021 参加（主催：青森市）</p> <p>① おどろ木づくり体験 ② 県産材とSDGsのパネル展示</p> <p>入場者：956人 体験者・スタッフ：122人</p>	<p>●里山SDGs展開催</p> <p>① SDGsのカタチ展 ② 森林体験写真展示 ③ 森林体験紹介動画 ③ ものづくり体験</p> <p>入場者：191人 参加者・スタッフ：25人</p>		
参加者数	県内 県外 計	122人 0人 122人	25人 0人 25人	147人 0人 147人	
実施場所	青森県青森市				

里山整備に若い力を～きのこプロジェクト～

岩手県立大野高等学校

〒028-8802 岩手県九戸郡洋野町大野 58-12-55

1. 活動の概要

自然環境の復活や保全をとおして、青少年を対象に森林環境教育を促進することを目的としている。全校生徒で地域の里山を整備することにより、マツタケが発生しやすい里山の環境づくりを進め、秋の収穫を目指しながら、環境保全の重要性を学ぶ。

学校の北方約15kmに位置する久慈平岳（標高706.3m）の山麓に広がる約1haの里山を地元の方から借り受け、外部の指導者の方々から助言・指導をいただきながら、適度に枝打ちをし、堆積した落ち葉を除去するなどの整備を進めて18年目（準備段階1年を含む）となる。

また、整備で生じた間伐材を有効活用して栽培したシイタケ・ナメコの管理・収穫をとおして、持続可能な環境教育を継続した。

2. 活動の成果

里山整備に取り組むことにより、先人が守ってきた豊かな自然とその恵みについて見つめ直し、自然と共生する人間の生活を考えることができた。また、地域の活性化や未来についても考える機会となった。

地域住民との協働から、地域社会の一員であることを自覚し、郷土愛が喚起されるとともに、自己有用感を育むことができた。

3. 参加者の声

「初めてマツタケを採れた。落ち葉や木の枝を拾い、育ちやすいように努力した甲斐があった。」

「雨のため全校で整備できなかったのは残念だったが、秋の収穫を期待している」

「人が手入れすることで、里山もマツタケが育つ環境も維持されていくことが分かった。」

実績報告とりまとめ表

実施時期		9月28日	10月～11月	6月18日	6月28日	計	備考
事業量 又は 事業内容		収穫祭 (マツタケ狩り)	シイタケ・ナメコ不作により収穫できず	里山事前整備 (PTA参加)	里山整備 (全校参加) 悪天候のため中止		
参加者数	県内	80人	16人	9人	70人	175人	
	県外	人	人	人	人	人	
	計	80人	人	9人	70人	175人	
実施場所		岩手県九戸郡洋野町					

森から学び、行動しよう！ ESD for 2030 ▶ SDGs

特定非営利活動法人 水守の郷・七ヶ宿

〒989-0532 宮城県刈田郡七ヶ宿町字根添 26 番地 1

1. 活動の概要

宮城県刈田郡七ヶ宿町の当法人が管理する山林 1.6ha 並びに七ヶ宿湖をフィールドに地域の四季の素材を活かしたプログラムを開発し、毎月第3日曜日に森林体験学習を実施した。森は持続可能な資源であり温暖化ガスの吸収源でもある。また水源涵養、土砂等の流出防止、生物多様性の保全など多様な生態系サービスを提供してくれる。自然と共に「山がっこ」プログラムも進化を重ね、四季の森を生かしたプログラム、地域の旬と食文化を交えながら参加者自らが主体的に活動を行えるよう事前準備にも力を入れた。毎回取り入れている野外炊飯では災害時のスキルアップにもつながるよう火の使い方を実践指導した。新しい生活様式を取り入れ感染防止対策を順守する家族単位でのプログラム基本として実施した。

2. 活動の成果

With コロナで4家族限定とした森林体験活動もスタッフそれぞれがやりべきことを理解し主体的に動くことで毎回スムーズに事業を実施することが出来た。参加者が恒常化とする時期もあったが、参加者に対して常に新鮮な気持ちで対応し活動を行った。これまでにとらわれずというSDGSの理念を受けて常に考え続け変化しながら新しい様式の「山がっこ」は進化を続けている。

3. 参加者の声

親からの意見：子供が楽しい！から出来た！という自信を持ったことが見受けられ大変うれしい。
珍しい生き物がたくさんいるから森が大好き。
森に入るととっても涼しいのが不思議だ。

実績報告とりまとめ表

月 日	事業内容	参加者	備考
7月18日	カヌー体験&沢登りハット汁	28	N03, 4, 6, 13, 14, 15
8月15日	山歩き&水生生物探し	20	N03, 4, 6, 7, 13, 14, 15, 17
9月17, 18日	森の音楽祭	180	N03, 7, 11, 15, 17
10月17日	草木染め&栗拾い栗ご飯	18	N02, 3, 4, 6, 7, 8, 11, 13, 15
11月21日	ツリークライミング&森林体験	43	N03, 4, 7, 15, 16, 17
12月19日	きりたんぼ棒作り&きりたんぼ鍋	11	N03, 6, 7, 12, 15
1月16日	かまくら作り&餅つき	21	N02, 3, 7, 12, 15
2月20日	かんじき体験&オリエンテーリング	7	N04, 7, 11, 15
3月20日	森林オリエンテーリング&ホットサンド	8	N04, 7, 15
4月17日	ツリークライミング&森林体験	39	N03, 4, 7, 8, 12, 15
5月15日	大工体験、木の実の工芸	10	N03, 4, 6, 12, 15
6月19日	笹刈り&笹巻つくりなめこの植菌	11	N03, 4, 7, 12, 15
参加者数	県内計	396	

自然にふれよう 山のがっこう

特定非営利活動法人 SCR

〒981-3341 宮城県富谷市成田7丁目23-21

1. 活動の概要

- ・目的 山の日を記念し、地元の野鳥の森ウォーキングコースを散策し自然にふれ、森林の役割や重要性について学び、森林を身近に感じてもらい、山の恵みに感謝する一日にすることを目的とする。
- ・内容 お茶畑見学、野鳥の森散策、森の案内板製作、富ヶ岡公園での植樹及び花苗植え、親子竹あかり作成、記念の餅まき

2. 活動の成果

- ・地域の自然豊かな環境を知り、活用するとともに、家族で森の恵みに感謝する活動につながった。
- ・竹あかり作りは、森林資源有効利用と、地球環境に負荷をかけない「持続可能な再生資源活動」になり、森を知り、森林環境に興味をもつこともできた。

3. 参加者の声

- ・雨の中、なかなかハードなプログラムでしたが、「すご〜く楽しかった！」と子供達も、喜び有意義な時間を過ごしました。
- ・普段味わえない地域の事、森林の事を体験できた。
- ・親子で製作した「竹あかり」夏の良い思い出になりました。

実績報告とりまとめ表

実施時期		8月8日	計	備考
事業量 又は 事業内容	自然にふれよう 山のがっこう	森林散策 案内板製作、設置 山の日記念植樹 竹あかり製作		
参加者数	県内	46人	46人	
	県外	0人	0人	
	計	46人	46人	
実施場所		宮城県 富谷市		

横手の山30座 選定報告書作成事業

横手山岳協会

〒013-0521 横手市大森町字大森10

1. 活動の概要

日本では、山に畏敬の念を抱き、森林の恵みを受け、日常生活とかかわりながら、山の自然と共に生きてきました。私たちの横手周辺にも山があり、山からの恵みは、清流を生み、田畑を潤し、私たちはその恩恵を受け、豊かな心をも育んできました。しかし、私たちは、横手市を囲む山のことをほとんど知りません。周囲の山からの恩恵を受け、生活しているものの、横手の山を知らずに過ごしてきました。山にまつわる地形も歴史も自然も知らないことばかりです。

そこで、横手山岳協会30周年を記念して、「横手の山30座」を選定し、横手にも素晴らしい山々が存在することを市民が認識することが大切と考えました。特に子供たちが山や森林に対し愛着を持ち森林を大切にすることを育むため報告書を作成し、学校や図書館などに広く配布しました。また、同時に、里山の自然を題材にした「四季の森の生き物たち」と題した講演会を、秋田県森の案内人協議会副会長を講師に開催し、市民に森の魅力を再認識していただきました。

2. 活動の成果

横手の山30座選定報告書策定事業では、山の品格・歴史・個性を重視して30座を選定し、会員などによる募集登山も実施して、すべての山に登り、それぞれの山の歴史、動物の生息状況、植生環境など横手市を取り囲む山々からの恩恵を再認識した。そして「横手の山30座 選定登頂報告書」を作成し、市内全小中学校、高等学校、図書館、公民館、報道関係機関、県立図書館などに、自然学習会や生涯学習の参考資料として配布しました。

また、秋田県森の案内人協議会副会長 酒井浩先生の講演会では、「四季の森の生き物たち」についてお話していただいた。里山の春は花、夏は野鳥と昆虫、秋はキノコと木の実、冬はウサギやリスなど初めて見る映像に、里山の多様性に非常に感心させられました。会場では緑の羽根募金も実施し、ファンドの助成を受けていることを広報しました。

横手の山30座の締めくくりに、古来、羽宇志別神社を祭る保呂羽山の募集登山をコロナ禍であり会員限定で実施しました。

登山道としては一般にあまり利用されていない表参道を登りましたが、様々な植生を観察することができた。

3. 参加者の声

「横手の山30座選定登頂報告書」を活用して、子供たちに身近な山々の森林資源について学習する機会をつくりたい。(市内小学校長)

登山といえば1000mを超える山が対象であったが、横手市内の山々もそれぞれ歴史があり、動植物も多様で、水環境など常に恩恵を受けていることを実感した。(市内登山愛好者)

今まで横手市内の山を紹介する冊子を見る機会がなかったので、非常に貴重な報告書だと思います。(報道関係者)

四季の森の生き物たちの講演会では、様々な動植物の実際の映像を見ることができ、横手の里山にも多くの動植物が生活していることが理解できた。(講演会参加小学生)

講演会講師は1年のうち100日以上里山に登って花や動物を観察しているとのことで、身近にリスやウサギやカモシカが生息していることに驚いた。(講演会参加者)

実績報告とりまとめ表

実施時期		7月7日から 11月9日	9月12日	11月13日	計	備考
事業量 又は 事業内容		報告書作成作業 検討会等 6回 編集作業 4回	横手 30 座 保呂羽山 募集登山	記念講演会 「四季の森の生き 物たち」		
参加者数	県内	81人	29人	78人	188人	
	県外 計	人 81人	人 29人	人 78人	188人	
実施場所		横手市 あさくら公民館	横手市 保呂羽山	横手市 松與会館		

フォレストサポート・2021

ガールスカウト山形県連盟

〒990-0031 山形県山形市十日町 1-6-6

山形県保健福祉センター 4F

1. 活動の概要

目的：2015年に植樹した「森」の下刈り等の手入れをし、森づくり保全活動に取り組む。森や木にふれる森林体験学習を通じ、より森林を理解し環境問題への理解を深め、SDG13、15に貢献する。

内容：育樹活動（葛の根駆除・下刈り・青苧刈り・補植）

森林体験学習（森のクラフト：自生している青苧から糸を引き、ブローチを作る）

2. 活動の成果

- ・森づくり活動（下刈り / 葛の駆除）により地域の里山保全に寄与できた。
- ・「育樹」の大切さを学び、「美しい豊かな自然」を守るために、より森林を理解し環境問題（地球温暖化等）への理解を深める姿勢を養うことができた。特に、SDG13・15について意識を高め、行動を起すきっかけになった。
- ・日頃使う事のない鋏を使つての活動では、技術の習得や安全について学ぶ事ができた。
- ・森に自生している青苧から繊維を取り出す作業や、繊維糸を使つてのクラフトづくりは五感が養われた。また「自然の恵み」を活かす体験ができた事は、子どもたちの健全な成長に寄与できた。
- ・一般参加者が少なかったが協働する事によって、「森づくり」に対する関心を促すと共に、SDG13・15について意識を高めることに寄与できた。
- ・育樹活動、森林体験学習ともに成果を上げているので、木が育つまで継続していきたい。

3. 参加者の声

- ・3回目ともなると、葛の根をさがすのもとても慣れた感じだった。
- ・気に絡まった葛は固く取り除くが大変だった。
- ・人に鎌の刃を向けないように周り気をつけて扱った。
- ・鎌を片づける時、刃の汚れを拭いてカバーにしまった。後片づけも大事だと学んだ。
- ・青苧お引きは、白くなるまで何回もそがなければいけなく手が疲れた。昔の人はすごい！
- ・青苧という織物は聞いたことがあったが、目の前の植物を見て感激した。伝統工芸です。
- ・ビーズクラフトで青苧を使ったら素敵になりこんな風にも使えるとわかった。
- ・キンコウカの黄色、ヤマゴボウの赤紫、ブルーベリーの酸味等、自然だからこそ見つけられる美しさを体験できた。
- ・短い時間だったが、森を守って育てることの大切さを感じる事ができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7/10 10/2	9/11 10/10	9/11 10/16	10月17日	1月31日	計	備考
事業量 又は 事業内容	事前準備		現地踏査 (下見)	<育樹活動> ・葛の根駆除 ・下刈り ・補植活動 (5本植え付け)	<森林体験学> ・森のクラフト 青苧お引き 青苧糸クラフト	報告書整理	報告書整理
参加者数	県内 県外 計	7人 0人 7人	7人 0人 7人	7人 0人 7人	54人 0人 54人	7人 0人 7人	75人 0人 75人
実施場所	山形県山形市市有地蔵王みはらしの丘地内（ガールスカウトの森） 山形県山形市立みはらしの丘小学校多目的ホール 県連盟事務局						

木のおもちゃ広場の開催

一般社団法人 子育てネットワーク ままもり
〒302-0109 茨城県守谷市本町 260

1. 活動の概要

木のおもちゃで遊ぶことを通して、木の良さ（手触り、香り、音など）・木の持つ効果（リラックス効果や癒し、集中力アップなど）を体感し、森林・樹木への関心を高めるとともに、木材利用は森、海及び人々の生活を守ることに繋がるという環境教育のひとつとして、木のおもちゃ広場を開催いたしました。

2. 活動の成果

コロナ禍のため2年間、開催が不可能な状況でありましたが、感染対策（人数を制限しての事前予約・総入替制の導入、体調チェック、入替毎の消毒等）を十分に行い、3年ぶりに実施することが出来ました。開催に当たっては、木のおもちゃを提供している東京おもちゃ美術館木育キャラバンをはじめ、実施施設のイーアスつくば、すくすく子育てフェスタを同時開催のため茨城県林政課、教育庁及びつくば市等の行政機関、出展企業と連携し、久々の開催にも関わらず、多くの皆様にご来場いただき、改めて木の持つ良さ、効果を実感して頂けたかと思えます。

前年度助成金をもとに作成した木育 Guidebook も来場の皆様に配布することが出来ました。

3. 参加者の声

（来場者の声）

- ・赤ちゃんから小学生の兄弟まで、集中して遊べました。
- ・たくさんの木のおもちゃに触れ合えて、大人まで癒され、温もりがあり、よかった。
- ・これから子どものうちから、自然素材での玩具に触れる機会を作っていきたい。

（開催施設、すくすく子育て広場出展行政、企業様の声）

- ・SDGsに力を入れている今、まさにタイムリーなイベントとなりました。

実績報告とりまとめ表

実施時期		6月3日	6月4日	6月5日	合計	備考
事業量 又は 事業内容	木のおも ちゃ広場	木のおも ちゃ広場 の開催	木のおも ちゃ広場の開催 ※同時開催 すくすく子育 てフェスタ	木のおも ちゃ広場の開催 ※同時開催 すくすく子育 てフェスタ		チラシ配布つくば市内、事前予約時点で各回満員のため、ほぼつくば市民でした。
参加者数 (入場者)	県内 県外 計	108人 人 108人	207人 人 207人	276人 人 276人	591人 人 591人	入場者は、先の通りですが、周りで見えていた家族等を合わせると三日間で延べ約800名程度の来場となりました。
実施場所		茨城県 つくば市				

地域材による木工技術の普及と木材利用の普及促進事業

特定非営利活動法人 やみぞの森
〒310-0011 茨城県水戸市三の丸 1-3-2
茨城県林業会館 4F

1. 活動の概要

- (1) 木工技術の普及を目的として、地域材を活用したDIY塾を毎月1回、年間12回開催した。専門技術者の指導の下で基本から学び、各自が自由な発想で家具づくりを楽しんだ。
- (2) エコプロ2021へ出展し、森林整備や環境教育などの活動状況、間伐材によるベンチ等を展示した。例年好評な「やみぞの森の自然素材によるワークショップ」も実施し盛況だった。
- (3) 森林環境保全のため実施している様々な活動の情報発信として、パンフレットを更新し増刷した。さらにニューズペーパーを年間2回発行し、イベント会場等やDMで配付した。
- (4) 研修会として日立市にある林木育種センターを見学した。様々な原種、無花粉スギの品種改良、エリートツリー植栽地、特定母樹原種苗等増殖温室など興味深く学ぶ機会となった。

2. 活動の成果

- (1) DIY塾では、専門技術者の指導を受けた結果、参加者全員が自身でテーブル、小椅子、棚などを作るまでになった。このような木工技術の普及は、地域を活性化し、地域材の利用拡大も期待でき、継続する意義は大きいと考えられる。
- (2) パネル展示だけでは分からない実物見本を見て触ってもらう実体験と共に、木の実など自然素材によるワークショップを行い、森林を身近に感じてもらう効果が認められた。
- (3) パンフレットやニューズペーパー、見学会などを通し、森林環境保全の啓発に繋がった。

3. 参加者の声

- ・DIY塾で作ったテーブルを自宅の居間で使っているが、家族からの評判がすこぶる良い。
- ・DIY塾では、指導者に聞いたり塾生同士でも意見交換したりして、参考になることが多い。
- ・全く木のことを知らなかったけど、丁寧に説明してくださり、よく分かって楽しかった。
- ・ワークショップで、自然のものを使って自分のアートができるのはステキだと思う。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7/11～6/12	12/8～12/10	3/10～6/30	6/8	計	
事業量						
参加者数	県内	115人	?人	18人	20人	153人
	県外	12人	54,885人	0人	0人	54,897人
	計	127人	54,885人	18人	20人	55,050人
実施場所	○茨城県：笠間市、つくば市、水戸市、 ○東京ビッグサイト					

高原山麓の森林の保全再生と利活用促進

くまの木里山応援団

〒329-2213 栃木県塩谷町熊ノ木 802

1. 活動の概要

高原山をはじめとする様々な森林の保全再生と利活用を促進することで、持続可能な地域づくりを行い、「山の日」の意義の周知を図ることを目的に、①「私の高原山」写真の公募と写真展、②高原山登山道の整備、③イヌブナ自然林ハイキング、④たかはら里山の集い（講演・体験）を実施した。

①は14人から48作品が集まり、横断幕に写真とコメントを印刷したものを、「たかはら里山の集い」会場にて掲示した（11月21日）。また、新型コロナウイルス感染症対策として、写真とコメントをYOUTUBEにてデジタル写真展としてアップロードした。

②高原山登山道の整備（ササ刈り、倒木除去、マーキング、看板設置など）を11月3日、11月27日、12月5日に実施した。12月5日は、ふるさと高原山を愛する集い実行委員会と塩谷町産業振興課とともに実施した。

③高原山国有林内の国天然記念物であるイヌブナ自然林を中心に、宇都宮大学の谷本丈夫名誉教授と博士課程の柴野達彦さんにガイドをしていただきながら、ハイキングを開催した。新型コロナウイルス感染症の拡大により、数回日程変更を行い、落葉期の11月23日に開催した。

④ロペ倶楽部の里山林にて、コナラやヤマザクラ等の植樹体験、森林ジャーナリストの田中淳夫さんの講演、塩谷町長・ロペ倶楽部支配人・くまの木里山応援団長によるトーク、電動刈払機&チェーンソーの実演、緑の募金活動などを実施した（11月21日）。

2. 活動の成果

①は、新型コロナウイルス感染症対策として、写真展を野外とデジタル（YOUTUBE）にて開催した。YOUTUBEについては、いつでもどこでも高原山の風景が楽しめるようになった。引き続き公開していきたい。②は、はじめて塩谷町産業振興課が作業に手伝っていただいた。来年度の高原山開きについては、行政（矢板市、塩谷町）と連携して取り組んでいきたい。③は、はじめて落葉期の開催となったが、季節の変化が高評価であった。今後は季節を変えたハイキングの開催をしたいと考えている。④は、新型コロナウイルス感染症対策として、野外かつ参加人数を約50名と設定した。関係者中心で開催した結果、関係者間の理解醸成につながるとともに、新たな取り組みが創出される予定となった。

3. 参加者の声

横断幕による写真展では、印刷技術の向上で、写真がクリアに印刷されていてびっくりしたこと、イヌブナ自然林ハイキングでは、違った季節での開催に高評価の意見があり、来年以降も違う季節での開催希望をいただきました。たかはら里山の集いでは、ゴルフ場の自然について再認識していただいたほか、ゴルフ場を廃業してからの地域振興の取組事例も聞きたかったという意見をいただきました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11/21	11/3, 11/27, 12/5	11/23	11/21	計	備考
事業量 又は 事業内容	「私の高原山」 写真の公募と 写真展	高原山登山道の 整備	イヌブナ自然 林ハイキング	たかはら里山 の集い		
参加者数	県内	約40人	16人	22人	約40人	約80人
	県外	約10人	人	人	約10人	約10人
	計	約50人	16人	22人	約50人	約90人
実施場所	栃木県塩谷町					

森はともだち 楽しくまなぼう 森友 楽校

ぐんま森林インストラクター会

〒371-0846 群馬県前橋市元総社町 739-5

1. 活動の概要

森林教室・自然観察会、森づくり体験、ゲーム等を通じて、自然と親しみ、環境保全や人格形成に理解を深めてもらうと共に、普及啓発や森林環境教育を行なう。

2. 活動の成果

自然観察等を行うことにより自然のすばらしさを実感し、その維持、保全の必要性を認識した。森林整備などの実作業を取り入れ、幅広い森林環境教育を行なう。

3. 参加者の声

・普段なにげなく歩いていましたが、よく見るとたくさんの草花や樹木があることを教えていただきました。植物の名前、名の由来、特徴、森林の働き、地形の成り立ち、自然保護など、たいへん勉強になりました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	3年7月 24日	8月 21日	9月 25日	10月 9日	4年1月 29日	2月 11日	5月 7日	5月 28日	6月 11日	6月 26日	計	備考
事業量												
参加者数	県内 31人 県外 1人 計 2人	コロナ 急増の ため 中止	コロナ 急増の ため 中止	27人 0人 27人	コロナ 急増の ため 中止	コロナ 急増の ため 中止	28人 3人 31人	15人 0人 15人	12人 1人 13人	29人 0人 29人	142人 5人 147人	
実施場所 群馬県	玉原 高原	榛名 富士	赤城山	谷川岳 山麓	前橋市 嶺公園	赤城山	赤城山	サン デン	玉原 高原	伊香保		

竹林整備によって作られる竹炭活用のサカキ（ヒサカキ）栽培

ちば里山・バイオマス協議会

〒290-0056 千葉県市原市五井 2437-2

1. 活動の概要

冬から取り組んでいるヒサカキの育成について、生育調査と栽培指導を受けた。

液肥の土中灌注と虫のモニタリング板を設置し、必要に応じて消毒をする。

採光の改善のために伐採した竹について、作業者の休憩用ベンチの部材に活用した。

伐採した竹は、9月以降、竹炭加工の原料とする。

樹木医集団である榎木風に依頼し、竹林内に自生するヒサカキの病害虫について調査した。その結果、外来種とみられる害虫および日当たり等の環境から発生する病気が蔓延していることが分かった。チャトゲコナジラミの防御、すす病、白藻病対策などを施し、竹の伐採も進め、枝ものとしてのヒサカキ栽培に展開できるよう計画する。

現在、日本の花屋で売られているサカキの90%以上は中国産である。千葉県市原市では地元のヒサカキを国産サカキとして販売も見られるが限定的であり、市場は国産サカキを必要としている。国内では毎月1日（朔日）、神棚にサカキを上げる習慣が残っており需要は潜在的にある。チャトゲコナジラミの防御、すす病、白藻病は広範囲で広がっているが、サカキ、ヒサカキの病害虫駆除には調査研究が少ない（木風の調査による）という現状がある。

竹炭を炭化器で焼却し、水で消火することによってできる竹炭（バイオ炭）は、農地、造園用として活用されるようになった。2022年以降は農地への施用によってもたらされる土の成分調査を、竹中工務店と協力して行う。

2. 活動の成果

冬に観察してから、半年。周囲の竹を切って採光と通風を改善した株の成長が良いことが分かった。白藻病とコナジラミの駆除をおこない、苗木の採取できるヒサカキになるよう生育を促進させたい。

令和3年度「緑と水の森林ファンド」助成採択により、竹林の環境整備が進み、東京都内への竹の資材販売のほか、銀座ミツバチプロジェクトとのつながりによるビルの屋上緑化への竹炭施用の取り組みなど新たな交流ができた。竹林内のサカキについてはチャトゲコナジラミの駆除に苦戦するも、春から夏への成長期の成長促進方法を研究することができた。2年目はこれらの知見を有効活用して、サカキの栽培に道筋をつける事業とする。

3. 参加者の声

ヒサカキが元気になってたくさんの人に、枝ものとして活用してほしい

間伐した竹の活用ができてよかった

コロナの中ではあるが、竹林で体を動かし、深呼吸出来て気持ちが良かった

普段何気なく見ている山や林にも人の手が加わってきれいに保たれているということが知れて今後の山や林に対する見方が変わりました

ノコギリの使い方上手になりましたありがとうございました

新しい挑戦ができてよかったです

楽しさと一緒にいろいろ新しいことを知りよかったです

とても良い経験になりました

大人も子供も一緒に作業できて達成感もありよかったです

ノコギリの使い方についてよくわかった

ノコギリで枝を切るのが楽しかった

竹炭作りを学びにやって参りました現地で実際に焼いていたのはすごい

炭作りが参考になりました

台風の時よりだいぶきれいになってよかったです

楽しく活動できました

このような機会はなかなかないので非常に貴重な時間でした。ノコギリのコツなど普段知ることのできないことを詳しく知ることができ楽しかったです
 大変参考になりました。何気なく歩けるのは整備されていたからだと感じました
 普段体験しない作業だったのでノコギリとか使えてよかった
 力仕事が好きなのでとても良い体験ができました
 竹林整備をすることにより里山がきれいになりとても気持ちがいいです
 竹林の整備することで良い運動と経験になった
 とても丁寧に教えていただき楽しみながら作業できました

- ・本日ワークショップに参加してよかったこと
- 重複あり 選択枝
- 竹林がきれいになった 23人
- 竹炭づくり 9人
- 適度な運動になった 21人
- 以下、自由回答
- たくさんの人と交流ができた 3人
- 大人が頑張る姿を子供に見せることはよかった 1人
- きれいな空気を吸った 1人

実績報告とりまとめ表

実施時期		7月16日	9月26日	10月3日	11月14日
事業量 又は 事業内容		ヒサカキ5本に対し、液肥の土壌灌注、虫のモニタリング捕獲板の設置	竹林整備 枯れ竹伐採 30本 運搬・竹炭作り	消毒液散布 20本のヒサカキ	竹林整備 枯れ竹伐採 30本 運搬・竹炭作り
参加者数	県内	1人	32人	3人	15人
	県外	2人	3人	1人	10人
	計	3人	35人	4人	25人
実施場所		千葉県 市原市			

実施時期		12月18日	1月23日	1月26日	3月23日
事業量 又は 事業内容		竹林整備 枯れ竹伐採 30本 運搬・竹炭作り	竹林整備 枯れ竹伐採 30本 運搬・竹炭作り	ヒサカキの消毒・マシン油散布対象 20本	液体肥料土中灌注 施肥5本のモニターサカキに対し
参加者数	県内	43人	24人	2人	2人
	県外	8人	8人	1人	1人
	計	51人	32人	3人	3人
実施場所		大多喜町 千葉県 市原市			

実施時期		4月23日	6月3日	計	備考
事業量 又は 事業内容		タケノコ堀 100本収穫	苗木穂木採り 30本 育成調査		
参加者数	県内	30人	3人	155人	
	県外	3人	1人	38人	
	計	33人	4人	193人	
実施場所		千葉県 市原市			

第6回子どもと森をつなぐためのリーダー養成講座

特定非営利活動法人 観照ボランティア協会
〒270-1132 千葉県我孫子市湖北台 6-10-2

1. 活動の概要

6月4日（土）、5日（日）、自然豊かな新宿御苑及びレクチャールームの利用許可を得て、子どもたちに森林及び自然環境の重要性を伝えられる人材養成を目的とした「リーダー養成講座」を開催。講師は森のムッレ教室リーダーであり、サステナブル・アカデミー・ジャパン代表の2人が担当。

講座1日目は新宿御苑のフィールドでエコロジーを学び、2日目は受講生がどう子どもに伝えるかを考え、工夫とアイデアに満ちたパフォーマンスを披露した。

レクチャーも2日間に渡って実施。1日目は講師による「自然活動と子どもの成長」、「なぜ野外教育なのか、スウェーデンの野外教育から学ぶ」をテーマに、2日目はNPO法人ECHICA 花の森こども園葎田昭子園長による「自然の感性で学び育つ」森のようちえをテーマに講演を行った。

2. 活動の成果

講座1日目は新宿御苑で樹木、土壌、草花、水辺の生き物を観察し、講師が光合成、物質循環、水の循環を解説。2日目は受講生が3つのグループに分かれて、1日目に学んだ水の循環、物質循環、光合成をテーマに、子どもに伝えるためのパフォーマンスを行った。どのグループも視覚に訴え、子どもが興味を覚えるような楽しいものとなっていた。

3. 参加者の声

参加者全員から講座に対して高い評価を得ることができた。感想としては、身の回りの自然の奥深さを改めて実感できた。園のスタッフ、保護者と共同し、持続可能な社会の担い手を育てていきたい等の感想が寄せられている。環境リーダーとして、子どもたちへ伝えていこうとする意気込みがアンケートから読み取れた。

実績報告とりまとめ表

実施時期		6月4日	6月5日	計	備考
事業量 又は 事業内容		講座は新宿御苑での自然観察及びレクチャールームで自然活動と子どもの成長、なぜ野外教育なのかテーマに講義を実施。	レクチャールームで自然の中での子どもの成長をテーマに特別講演を実施。午後には新宿御苑園内で受講生チームによるパフォーマンスを実施。		
参加者数	県内 県外 計	10人 3人 13人	11人 3人 14人	21人 6人 27人	
実施場所	東京都新宿区内藤町 11				

「シンポジウム：森林資源の利用－ 木質バイオマスの導入と地域循環の現状等について」

一般社団法人産業環境管理協会

〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町二丁目2番1号

1. 活動の概要

我が国では2050年にはカーボンニュートラルを実現するとしていることから、温室効果ガスの排出抑制、吸収源対策などが必須です。政府は再生可能エネルギーの導入を加速化していくとしていることから、木質バイオマス発電、地域での木質資源の循環利用を内容とするシンポジウムを開催しました。会場及びオンラインそれぞれの参加者からの質問を受け付け、双方向型で開催しました。全国各地から参加がありました。

2. 活動の成果

期間限定ですが、申込者向けに録画視聴可能としました。そのため、当日欠席した方や、所属組織（企業や自治体等）内で視聴会を開催したといったことも考えられ、多くの方々に森林の多面的機能とともに、森林・水のSDGsの目標達成への参考にしてもらえるなど、普及面での効果が期待できる結果となりました。

今後シンポジウムで取りあげてほしいテーマは吸収源、生物多様性、再生可能エネルギーなど幅広いテーマに関心があることが分かり、情報等を継続して提供していくための普及啓発活動の必要性を強く認識しました。

3. 参加者の声

参加者へのアンケートを実施しましたが、8割以上が「大変よかった・よかった」と回答しており、参加者にとっても有益なシンポジウムであったことがうかがえます。

「森林を巡る実情を知る参考になった」、「具体的な話もあり、非常に理解が深まる講演だった」、「木質バイオマスが脱炭素に役立つことへの理解が深まった」といった感想が多数あり、地域内エコシステムによる森林資源の利用、地域循環への貢献等を含めSDGsの目標達成のための活動に役立ててもらえることが期待できます。

実績報告とりまとめ表

実施時期		2月17日	月 日	計	備考
事業量 又は 事業内容					
参加者数	県内	41人	人	41人	
	県外	57人	人	57人	
	計	98人	人	98人	
実施場所		東京都港区／Zoom			

森づくり体験による森林・林業の普及啓発と、 森づくり団体の活動支援事業

NPO 法人 森づくりフォーラム

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-25-14
第一ライトビル 405 号

1. 活動の概要

森づくり体験を通して森林に関わる人々の裾野を広げ、森づくり活動への新規参加者の促進と指導者の育成等の活動団体の支援を図るため、東京都の西多摩地域で活動する7つの森づくり団体と協力し、「初心者のための森づくり体験会 2022」を計9回開催した。それぞれの団体のフィールドや特徴を活かし、間伐体験、竹林整備、自然観察クラフトづくりなどの森林体験を行った。

2. 活動の成果

コロナ禍の影響での中止を判断したことも多く、第5回は久しぶりに予定通りの開催となった。

チラシ配布のほか Facebook の広告などでも告知を行ったが、普段積極的に森林ボランティアなどの情報を求める層ではない人に情報が届き、初めてという人を参加者に迎えることができた。

これまでの体験会に参加していたリピーターから、初めての参加者まで、さまざまな方に参加していただけた。特に中学生や高校生など、学生の参加も多く見られ、SNS で幅広い層へ情報を届けることの大切さを感じた。今後も森づくり体験会を継続し、森林に関わる人々の裾野を広げ、森づくり団体の支援につながる事業を実施していきたい。

3. 参加者の声

参加者からは、思ったよりもハードだった、気持ちよかった、またやりたい、勉強になった、楽しかったなどの意見が多かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期		2022年5月～6月	2022年12月	計	備考
事業量 又は 事業内容		初心者のための森づくり体験会 2022～初夏の森～ 計6回	初心者のための森づくり体験会 2022～初冬の森～ 計3回	初心者のための森づくり体験会 計9回	
参加者数	県内	68人	30人	98人	
	県外	4人	4人	8人	
	計	72人	34人	106人	
実施場所		東京都八王子市、日の出町、青梅市			

「森から学ぶ」森林の生多様性と生態系を考える

公益財団法人 Save Earth Foundation
〒144-0043 東京都大田区羽田 1-1-3

1. 活動の概要

当法人が長野県東御市と保全協定を結んでいる市有林「東御の森」(溪畔林・里山・SGEC 認証林)の自然環境を活用し、市民対象の森林環境イベントを企画。生物多様性や森林の生態系について考える機会として、自然観察会および講座を計画した。新型コロナ感染の拡大により年度途中で計画変更を余儀なくされたが、替わる内容として森林の自然を紹介する動画作成や配信、with コロナ時代に向けての新たな方向性を検討する関係者交流会を実施する等、活動継続に向けて模索した。

2. 活動の成果

コロナ感染拡大予防のため、予定どおり実施できたのは観察会1回のみ、代わりに企画した関係者交流会も少人数での開催や会場の変更など、毎回工夫を重ねながら実施せざるを得なかった。昨年の資料配布に替わるものとして、森の自然を紹介する動画を作成。以前から観察会に参加している市民に試聴いただき意見収集する他、当該の森林内で体験学習を毎年実施している東京の私立中・高校生のオンライン講座に活用した。講師の協力申し出もあり、助成事業終了後もコロナ感染が落ち着いた状況であれば個別の森散策の要望に対応する予定。観察会のために準備したフォトブックや自然素材を活用するための資材は、その時に活用する。動画作成等、ニューノーマル時代への対応を模索しつつ、森林の生物多様性・生態系保全を普及する活動を今後も継続する。

3. 参加者の声

- ・コロナ禍が長引き自然体験の機会が激減している。不定期・少人数でも良いので継続してほしい。
- ・在来の自然が残る森林内の生物や自然環境を写真や動画で記録として残すのは大事だと思う。
- ・森内で生物が暮らす様子は、写真や動画でもよいので子ども達にもぜひ見せたい。
- ・台風に被災した場所の様子を実際に見ると、中山間地の溪畔林の保全は、市街地住民にとっても大切なことが理解できる。

実績報告とりまとめ表

実施時期		10月	2月・3月	5月	計	備考
事業量 又は 事業内容		交流会	交流会	自然観察会 交流会		動画作成・配信を試行 動画はフェイスブック でも配信
参加者数	県内	5人	5人	9人	19人	動画視聴者も含む
	県外	5人	5人	2人	12人	
	計	10人	10人	11人	31人	
実施場所		長野県東御市				

森林と人との関わりから、持続可能な社会の実現を市民協働で 考える連続講座・意見交換会

「森づくり政策」市民研究会

〒113-0033 東京都文京区本郷2-25-14 第1ライトビル405号
特定非営利活動法人森づくりフォーラム内

1. 活動の概要

「森づくり政策」市民研究会では、森林と人との関わりのこれからについて、実践事例・研究事例を基に有識者・実践者・市民らが共に考え、議論し、課題解決に向けた協働のきっかけの場づくりを行っている。2021年度はオンライン配信講座を4回（内、地域会場と連携した開催が2回）実施した。その間に企画検討会議を1回、実践者らとの意見交換会を1回行った。

- (1) 連続講座『森と街はもっと関われる！北海道・木こり発プロジェクト「森と街のがっこう」とは？』出演：陣内雄、足立成亮、神輝哉、ほか3名
- (2) 連続講座「Z世代が提案する森づくりと木づかい」
講演・対談：内山浩輝、奥川季花 聞き手：成田 陸
- (3) 連続講座「シン・リンザイ ～これからの木材と人材育成～」
出演：内山浩輝、奥田悠史、奥川季花、成田陸、森本達郎
- (4) 連続講座「森移住してフォレスターになった起業家が、森の遊び場をつくりはじめたワケ ～コンヴィヴィアルな社会へ 森林利活用のヒントを探る～」
講演：大野航輔 聞き手：相川 高信

2. 活動の成果

2019年よりオンライン配信にシフトしたが、都市部開催時に参加が難しかった中山間地域の居住者や、地域づくりに関わる講座参加者が増加し、オンライン上で各地の参加者が活発な意見交換が行われるようになった。4回の実施で合計481人の申し込みがあり、動画アーカイブは合計670回視聴されている。

3. 参加者の声

- ・林業や施業ボランティアに限定しない市民の巻き込み方に非常に魅力を感じました。
- ・山林所有の魅力が経済的な面だけではないこと、それを今後の所有者となる人たちに伝えていく必要があること。今後の森林経営において非常に難しいかもしれませんが、とても大切で有効なことだと思いました。

実績報告とりまとめ表

実施時期		11月5日	12月2日	1月28日	4月15日	計	
事業量	4回	1回	1回	1回	1回	4回	
参加者数	都内	52人	25人	18人	100人	100人	
	都外	150人	30人	33人	73人	73人	
	計	202人	55人	51人	173人	173人	
実施場所		Zoom ウェビナー、YouTubeLive					

身近な森林で自然遊びを体験し、森への関心を深めよう

NPO 法人くにたち農園の会

〒186-0011 東京都国立市谷保 5119

1. 活動の概要

乳幼児の森林環境教育の普及を目的とし、身近な森や公園で、森づくりの活動を行い、生きる力、森のための4つのアクションを意識した活動を行いました。焚き火の薪を森から運び、収穫野菜を調理していただき、森の木に触れ、クラフトでは、木の実リース、木のカメラづくり、木の車づくり、森の生き物さがし、散策等を行いました。自然の大きさ、美しさ、不思議さ等に直接触れる体験を通して、自然に対する豊かな感性を養うこと、環境を大切に思う心を育てることができました。「森にふれよう」「木をつかおう」「森をささえよう」「森と暮らそう」を実感できる親子の自然体験・環境教育につながりました。

2. 活動の成果

今回の活動を通して、小さなお友だち、お母さんたちのやわらかな笑い声が溢れる関係性を作り、子育てを支え合う、協力し合う楽しさを知るきっかけにつなげることができました。森で出会った音、生き物、森の中で親子で作ったクラフトなど、子どもに良い影響を与えていることを実感することが出来たと思います。小さな実体験を積み重ねる子どもたちを見守り合うことで、自分から挑戦する力、楽しいを生み出す力を育くむことができました。活動拠点である城山公園では、四季を感じ、生き物に出会い、都会の小さな森林内でのさまざまな活動等を通じて、環境と森林との関係に興味を持ち、理解を深めることが出来ました。子ども達が楽しみながら学ぶ世界を人と自然のかかわりの中で、深く広く作り出していく事をこれからの取り組みの一つにしていきたいと思えます。

3. 参加者の声

- ・カメラ作りや車作りなど、子どもと一緒に作ったもので遊びながら木の温もりを感じられてよかった。
- ・活動日以外にも家族で森に遊びに行くようになった。活動を通して自然を大切にしようという気持ちが子どもにも芽生えたと思う。
- ・コロナ禍の中で行き場に困っていたが、近所で自然の中で遊ぶ場所があり、驚いた。森の中は密にならず過ごしやすかったので今後も遊びに行きたい。良い場所を紹介してくれてありがとうございました。
- ・森の中は気持ちが良かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期		月日	月日	計	備考
事業量 又は 事業内容	身近な森林 で自然遊び を体験し、 森への関心 を深めよう	7月16	12月2,3,7,9,1	7月：大人12名・子ども15名	
		8月5	9,23,24,27	8月：大人30名・子ども36名	
		9月21	2月17,25	9月：大人11名・子ども11名	
		10月2,3,15,23	3月6,12,19,29,	10月：大人53名・子ども60名	
		11月6,11,19,12,	30	11月：大人136名・子ども158名	
		13,14,20,25,26,		12月：大人98名・子ども126名	
		30		2月：大人22名・子ども27名	
				3月：大人61名・子ども77名	
参加者数	県内	大人	子ども	合計	
	計	423人	511人	934人	
		423人	511人	934人	
実施場所		東京都 国立市・国分寺市・八王子市・日野市			

シンポジウム「森林（もり）へのまなざし－異分野共創・未来への投資－」

「森林・林業・山村問題を考える」シンポジウム実行委員会
〒113-0034 東京都文京区湯島1-12-6 高関ビル3階

1. 活動の概要

現在、世界は、気候変動、コロナ禍等の大きな危機に直面しており、また日本においては、森林・林業政策が大きく変更されるなど、改めて森林の社会における役割が問い直されている。こうした中、生態系、減災、地域再生、人材育成、ファンド組成、投資等のさまざまな分野で森林と関わりを持たれている方々がいる。本シンポジウムでは、そうした関連セクターから登壇者を招き、その考え方や活動からの学びの延長に、日本の森林の未来を描くことを目的とした。当日は、「生態系減災における森林の役割」「グリーンインフラを支える中間支援組織の運営と経営ノウハウ」「地域金融と循環共生型社会」「金融は林業の収益化に貢献できるか」をテーマとする4報告のあと、共同座長の司会のもとで、報告者による参加者の質問への回答、報告者間の議論、共同座長と報告者との議論を実施した。所要時間は全体で4時間だった。

2. 活動の成果

まず、下記実績報告のように、当主催者としては2回目のオンライン形式による実施だったが、これまでにない多くの参加者を得て開催できたことを成果として報告したい。今回のシンポジウムの特徴は、他分野あるいはより広い視野からの提議により、森林・林業分野の課題の解決に向けたヒントを得ようとすることを目的としたことから、多様な分野の報告者による多様な視点からの報告が並ぶことになり、ともすれば散漫な議論に陥りかねない危険性を孕んでいたのだが、報告者の深い理解と議論の深化への協力、共同座長の調整力、参加者からの建設的な質問が相俟って、相互の触発が多くみられ、想定を超えた議論の広がりや深みが得られたと思われる。参加者からも多くの新たな気づきを得られたとの感想が寄せられており、また、報告者間、報告者・参加者間で新たな活動の試みが既に始まっているとの報告があり、今後さらに波及効果の広がりが期待される。今後とも参加者の基本視点をより広くするようなシンポジウムの開催を心掛けたい。

3. 参加者の声

オンライン方式の利点を活かし、全国各地から多くの、現場も含めた多様な参加者を得ることができた。シンポジウムの内容については各種の感想が寄せられたが、おおむね非常に好評で、多様な分野・視点からのわかりやすい報告と議論により、多くの新たな知見を得られたこと、パネルディスカッションでの議論により、今後の展開への期待や可能性の認識を得たとの感想が多かった。ただし、オンライン方式には前年度と比べて習熟が見られたものの、声の大きさ、雑音の存在等技術的な改善の要望もあった。

実績報告とりまとめ表

実施時期		10月2日	月 日	計	備考
事業内容		シンポジウム			
参加者数	県内	人	人	人	
	県外	人	人	人	
	計	390人	人	390人	
実施場所	オンライン（会場 東京都港区）				

森の恵み自然の恵みを体験しよう

森のようちえん風のいろ

〒919-0502 福井県坂井市坂井町上関 45-15-2

1. 活動の概要

- 季節ごとの自然の中で存分に遊び、その恵みに触れる体験を幼児期の子ども達とその保護者に提供することで、自然を身近に感じ、大切にしようとする心を養い自分たちの暮らしを考えていくきっかけ作りとなるように、6回の親子参加イベントを開催した。

2. 活動の成果

- 様々な自然体験をすることで、参加者は、楽しさと共に自然の厳しさも味わうことができた。そのことで、日常でも自然へと目を向け、その大切さや偉大さを感じたり、自分達の暮らしを考えようとするきっかけともなった。今後も、自然を愛し、そのために動くことの出来る人達が少しでも増えるよう、自分達も勉強しながら活動を続けていきたい。
- 子ども達が、自然の中で生き生きとして自分から動き出す姿を、保護者が見ることは、子どもを通じて大人が変わるきっかけとなる。これからも、親子で体験できる活動を続けていきたい。

3. 参加者の声

- 自由に伸び伸びと遊んでいました。まだまだ遊びたい！という様子でした。
- 普段自然に触れる機会があまりないので、このような機会があつて他のお家の方と一緒に自然の中で遊ぶことができよかったです。
- 親もリフレッシュすることのできる時間でした。
- 普段虫がいると悲鳴をあげたり、払ったりするのに、虫取りとなると思いのほか楽しく、少し虫が愛らしく感じた自分にびっくりしました。子どもを通して大人もいろいろな経験をさせていただきました。
- 虫クイズが楽しかったようで、家に帰ってからもクイズを作って楽しんでいます。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月 7,8日	10月 24日	12月 19日	2月 20日	4月 17日	6月 19日	計	備考
事業量 又は 事業内容	親子 キャンプ	薪割り体 験と焚き 火	木を使っ たもの作 り	雪遊び	春探しと 森の味わ い	生き物探し とネイチャ ーゲーム	6回	
参加者数	県内	15人	33人	17人	18人	26人	25人	135人
	県外	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	計	15人	33人	17人	18人	26人	25人	135人
実施場所	福井県坂井市、福井県吉田郡永平寺町							

気遣いの森づくりプロジェクト

NPO 法人 なかまフィールドうじゅうの森
〒407-0004 山梨県韮崎市藤井町南下條 700

1. 活動の概要

森づくりと森林資源活用について、実際に森を歩き、作業をしながら学ぶ。

- ① 伐採：森を歩き、その土地の歴史や森と人々の関りについて知ることから始め、植生や土壌の状況等を考慮しながら、未来の森の姿を描きながら伐採する木を選木する。そして、その木をノコギリで自ら伐倒する。
- ② 製材：自分の伐倒した木と向き合い、どういう形で製材すると、この木は活かされるのか？ということを考える。その上で、ものづくりを見据えて製材する。森にロゴソールを運び、どこでどのように作業することが森のためにも地球のためにも良いのか？を考えながら行う。
- ③ ものづくり：自分で伐倒し、製材した材で生活で身近に使える椅子を作る。ここまで成長し、今回材となった木へ想いを馳せ、どういう形で活用することが二酸化炭素固定の意味も含め環境問題へと繋がり、「木を伐った者の責任」として、伐ったら終わりではなく、それをどうするのか？まで考えながら椅子を作る。

2. 活動の成果

- ・参加者の森に対する意識が変わった。森も人の生活と密接な関りがあり、単一的なやり方では、それぞれの森にあった「森づくり」は出来ない事を感じてもらえた。
- ・自分たちで全ての作業に関わることで、森、木、に想いを馳せ、木を伐った責任、普段の生活でも、物を消費することへの責任を考えるきっかけとなった。

3. 参加者の声

- ・ただ椅子を作る研修だと思っていたが、森を歩くところから始まり、森から木を見て、木から森を見て、そして、全てが繋がっていることを知った。森を見る目が変わり、普段車で走っている時も、周囲の森が気になるようになった。
- ・いろんな視点から森を見て、捉え、考えることがとても新鮮だった。森づくりは実は子育てに似ているのではないかと思った。

実績報告とりまとめ表

実施時期	12月17日	1月14日	2月25日	3月11日	4月19日	5月17日	計	備考
事業量 又は 事業内容	伐採①②	6人	6人				36人	
	製材①②			4人	8人			
	ものづくり ①②					6人		6人
参加者数	県内	6人	6人	4人	8人	4人	6人	36人
	県外	0人	0人	0人	0人	0人	0人	36人
	計	6人	6人	4人	8人	4人	6人	36人
実施場所	山梨県韮崎市藤井町南下條字坂上 770 周辺							

そらしど森を楽しむ講座

のいちご会

〒391-0211 茅野市湖東 3675

1. 活動の概要

森のようちえんに興味のある地域住民や保護者が、その意義を理解し自然の中で安全に楽しく子どもの活動をサポートできることを目的とし、講座等開催する。

- ① ESD、SDGS の視点から自然保育に関する基礎講習として講座を開催。(単日開催)
- ② 「森林と水」をテーマに PROJECT WET のパッケージプログラムを体験し、水を巡るさまざまな現状に触れ参加者の問題解決に向かう力を高める。自然と共生しながらの防災や自然災害への備えを考える。新型コロナウイルス感染拡大のため大人まで参加。(単日開催)
- ③ 「森林環境教育」をテーマに Project WILD growing up のパッケージプログラムを体験する。新型コロナウイルス感染拡大のため大人のみ参加。(2日間開催)
- ④ 「震災復興支援」「地域材の利用」を体験する自然共生型の災害シミュレーションキャンプの開催(年間6回)
震災等災害時に自然と共生し、生き抜くためのスキルを学ぶ。
内容：地域材を活用した炊き出し体験、薪づくり講習、自然と共生した避難生活体験。子どもから大人まで参加しスキルを学ぶ。

2. 活動の成果

- ・講座を通して、自然と関わることで育まれる子どもの様子、自然に感謝する気持ちを育むだけでなく、自然の営みやつながりの上に自分たちの命もあるということを学び、今後の指針とすることができた。
- ・未来を生きる子どもたちへ、いかに自然と共に生きる体験を残して行かれるか、講座や実地での体験を通して、考える機会がもてた。
- ・地域の森から分けていただいた間伐材を、手割りで薪割をして、炊き出し体験を行った。災害時という有事にも、身近な森林資源に目を向け、自然と共に生きるということを実体験することができた。

3. 参加者の声

- ・「未来を生きる子どもたちへ、美しい自然環境をどう守り伝えていくかが今後の課題だと感じた」
「環境教育を、体系化したプログラムで学ぶことができ、楽しく学ぶことができた」
「災害のリスクは、常にある中で、日常の延長線にあることと捉え、森林資源や、自然環境を活かしての避難生活など、災害シミュレーションを行う中で、楽しく体験することができた」
- ・継続的に、自然の中で体験していくことで、スキルが身につくので、今後も参加したい。
- ・身近な森林資源の活用という視点から、手の入れられる森の情報を集め、本来あるべき姿に戻すなどの活動もしてみたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期		10月9日	10月31日	11月6日	11月7日
事業量 又は 事業内容		そらしどを楽しむ 講座 プロジェクトWET	そらしどを楽しむ 講座 ESD、SDGSの視点 から自然保育に関 する基礎講習	そらしどを楽しむ 講座 プロジェクトワイ ルドグローイング アップ	そらしどを楽しむ 講座 プロジェクトワイ ルドグローイング アップ
参加者数	県内	6人	20人	6人	6人
	県外	1人	人	1人	1人
	計	7人	20人	6人	6人
実施場所		長野県 茅野市また原村			

実施時期		11月27日	11月30日	12月4日	計	備考
事業量 又は 事業内容		災害シミュ レーション キャンプ	災害シミュ レーション キャンプ	災害シミュ レーション キャンプ		
参加者数	県内	13人	4人	4人	57人	
	県外	1人	1人	1人	6人	
	計	14人	5人	5人	63人	
実施場所		長野県茅野市及び原村				

新時代における財産区有林の役割

NPO 法人 調和の響きエコツーリズムネットワーク
〒 391-0211 長野県茅野市湖東 1844-71
三井の森いずみ平 10-14-8

1. 活動の概要

財産区有林の持続的な保全管理のために専門家からアドバイスを受け具体的な方法を導き出す。気候変動による異常気象で災害が多発しており、森林の多面的機能を早急に取り戻す必要がある。そのためにも財産区有林の保全管理は財産区民のみで行うのではなく、多様な人との協働を視野に入れ考える。

ワークショップでは、まず「公」と「共」を併せもつ財産区」として法律家から法律上の財産区の位置づけを学んだ。「各財産区の具体的な整備方法について」「これからの財産区のあり方について」では各アドバイザーを中心に意見交換を行った。

シンポジウムは基調講演「新時代における財産区有林の役割」はオンライン、ワークショップ報告はリアルハイブリット形式で行った。

小冊子が出来上がった時点でまとめとしての意見交換を行った。

2. 活動の成果

参加者全員が主体性をもって発言し、議論をすることができたことにより、財産区有林を管理する財産区がかかえる問題がより鮮明になった。

市が移住や二居住を推進しており、外からの編入組が増えることが考えられ、財産区の自他ともに認める閉鎖性は改める必要があることを確認できた。

今後、協働への道を推し進めなければならない。

3. 参加者の声

「現実の問題点がよく分かった」「財産区民とそれ以外の人々との協働を図るためにこのような場を続けて提供して欲しい」「森林整備の理想と現実、財産区の抱える問題のギャップが分かった」「問題点をもっと深く追求し将来世代に引き継ぎたい」

実績報告とりまとめ表

実施時期		月日	月日	計	備考
事業量 又は 事業内容	・ワークショップ ・シンポジウム ・意見交換 ・小冊子	2021年10月3日、 10日、31日		3回	500冊
		2021年12月12日		1回	
		2022年2月26日 2022年3月1日		1回	
参加者数	県内	76人	人	76人	
	県外	2人	人	2人	
	計	78人	人	78人	
実施場所		長野県 茅野市			

森林空間を活かした不登校児のための居場所と学び舎「森のかっこう」

森のかっこう

〒501-3743 岐阜県美濃市上条 1371-2

1. 活動の概要

コロナをきっかけに増えている不登校児が、健康な心と体を育むことを目的に、子ども達が考えたデザインを元に、山の竹を自ら切り出し、小屋作りを行った。

2. 活動の成果

今回の活動によって、不登校児の居場所ができ、そして、不登校児を持つ親の居場所ができた。今後も不登校児が森と親しみながら健康な心と体を育むことができる活動を続けていきたい。

3. 参加者の声

- ・小屋作りを通して、大人と子ども、参加者それぞれが、たくさんのことを学んだなあと思います。立場や考えが違っていたこともあるけれど、それでも、こうして何らかの形になり、それぞれがそれぞれの形で満足できる場であったのではないかな？と感じました。
- ・森のかっこうは、「社会的に問題を抱えているように見える」子どもを持つ親のための大事な場所になっていたなあと思います。

実績報告とりまとめ表

実施時期	事業量または事業内容	参加者数			備考
		県内	県外	計	
10月8日	歴史や整備状況など、愛宕山について説明を受け、小屋のデザイン案をそれぞれ絵描き、一つに決めた	20人	0人	20人	
10月25日	雨のため、倉庫で道具作り	22人	0人	22人	
11月12日	竹の伐採、枝はらい、はしご作り、小屋作り、おにごっこ	28人	0人	28人	
11月22日	雨のため、倉庫で鉄を打ち、道具や内装のアクセサリー作り	22人	0人	22人	
12月3日	小屋の壁作り（竹の切り出し、枝はらい、竹を割る、小屋の壁作り）、みそ汁作り	23人	0人	23人	
12月17日	(午前) 小屋の土壁準備（100年前の土壁の塊をつぶし、さらさらにする）、みそ汁作り (午後) 雨のため、倉庫で泥だんご作り	23人	0人	23人	
1月24日	竹を組んで、壁を作る 土壁用の泥だんごを作って、運ぶ	20人	0人	20人	
3月18日	雨のため倉庫にて、山から採ってきた蔓を使い、蔓かご作り、リース作り	24人	4人	28人	
4月25日	切った竹を運び、紐で結んで、小屋の2階の床を作った。また、竹で弓矢作りを行った	31人	0人	31人	
5月16日	切った竹を運び、紐で結んで、小屋の2階の床を作った	30人	2人	32人	
	計	243人	6人	249人	
実施場所：岐阜県美濃市					

街中公園でのツリークライミング体験を通じて森と木が好きになるプロジェクト

公益社団法人 静岡県林業会議所
〒420-0861 静岡市葵区追手町 9-6
静岡県庁西館 9 階

1. 活動の概要

市街地の親子に身近な場所で木に親しんでもらえるようにと企画。静岡県内3ヵ所の会場で実施した。参加者は公募し、講師はインストラクターの資格を持つ林業家が務めた。ツリークライミングは、専用の装具を使用して木に登り、自然との一体感を味わうアクティビティ。今事業で延べ65名の親子が街中にある公園の木に登り、空中散歩を楽しんだ。そして、15mの樹上からの景色を満喫した。

スタッフが事前に現地の下見や枝の勇定等を行い、安全に開催できるように準備した。また、当日も体験樹木の周囲を囲い、公園内にいる一般の方々にも配慮した。

2. 活動の成果

- ・ツリークライミング体験を通して、市街地の親子に森や木への理解を深めてもらうきっかけとなった。
- ・「色々な職業がある事を知った」と林業に関心を寄せる小学生もいた。林業家が講師を務めたことで、参加者は木の説明を聞く事ができ、手際よく木に登る林業家を間近に見る機会にもなった。
- ・駅周辺の市街地の公園で開催することで、参加者のアクセスも良かった。また、主催者側としても、ツリークライミング体験会場の選択肢の幅も広がった。
- ・今事業は問い合わせが多く、公募後もすぐに満席となり、ツリークライミングの人気の高さが窺えた。安全面で定員は限定されるが、今後も森林に興味を持ってもらえるように、気軽に参加できるイベントを定期的で開催していきたい。

3. 参加者の声

- ・今まで来たことのある公園で、いつもと違う体験が出来て、新鮮だった。
- ・スタッフの明るさで、緊張気味の子供たちも楽しめた。優しく雰囲気良かったので、またやりたい。
- ・ロープ1本で高い木に登れることに驚いた。木の上でリラックスできた。貴重な経験だった。
- ・子供が生き生きとしていた。達成感のあるいい表情が見られて嬉しかった。
- ・子供と一緒に登れて楽しかった。風や木と戯れる体験は最高だった。

実績報告とりまとめ表

実施時期		4月9日	4月10日	6月25日	計	備考
事業量 又は 事業内容		ツリークライ ミング体験会	ツリークライ ミング体験会	ツリークライ ミング体験会		
参加者数	県内	23人	23人	19人	65人	
	県外	人	人	人	人	
	計	23人	23人	19人	65人	
実施場所		静岡県静岡市	静岡県富士市	静岡県磐田市		

小学校授業での森林体験学習

特定非営利活動法人 水とみどりを愛する会
〒456-0015 名古屋市熱田区高蔵町7-11
シャトー高蔵 305

1. 活動の概要

次世代層に対する環境教育支援として、学校授業での森林体験学習を実施し、人と自然と暮らしの係わりへの理解を深めてもらうことで、持続可能な社会の実現に寄与する。

2. 活動の成果

次世代を担う子どもたちに、森を楽しみ、森を守り、森をつくる大切さを伝えることができた。今後も森林保全を中心としたボランティア団体として活動していく。

3. 参加者の声

山の役割について知ることができた。森の楽しみの他、間伐など山や森を守っていく必要性を覚えてもらった。自分たちの地域の山や森を大切に守っていききたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月28日	10月1日	10月19日	11月8日	計	備考	
事業内容	事前研修	大井小	神坂小	武並小			
参加者数	県内	一人	50人	7人	30人	87人	岐阜県を「県内」とし、参加小学生の数を記載
	県外	一人	人	人	人	一人	
	計	一人	50人	7人	30人	87人	
実施場所	岐阜県恵那市 東野 根ノ上高原						

地域産木材利用啓発事業

特定非営利活動法人 京都森林・木材塾

〒 618-0091 京都府乙訓郡大山崎町円明寺葛原 6-25

1 活動の概要

新型コロナ感染拡大防止のため講演会・現地見学会は、規模を縮小し安全対策を徹底して実施。京都環境フェスティバルはオンラインで参加し、SDGs の取り組みを紹介した。

2 活動の成果

① 京都環境フェスティバル2021にオンライン参加 <11月>

京都議定書（COP 3）の採択を契機に始まったものであるが、新型コロナの関係から昨年を引き続きオンライン参加。環境に対する取組、次世代育成について発信した。

② 講演会開催（テーマ：林業再生・木づかい運動による地球温暖化防止対策） <2月>

研究者（2名）の講演で、（i）わが国の林業は外国と比べ育林・伐出費用が高くつき、多様な考えで林業をしていく必要あり（ii）公益的機能としての森林と産業としての林業に分けて考える必要あり、と問題提起。大きな転換期にあると感じた。

③ 現地見学会実施（北桑木材センター、京丹波町木造新庁舎） <3月>

京都を代表する木材市場において、「ウッドショックにより価格が高騰、ウクライナ問題でこの傾向は続く…」との説明。京丹波町は昨年完成した木造庁舎で、町民の意見を聞き、地元木材を使用し施工。工夫された箇所が随所に見られ、大いに参考になった。

【まとめ】上記活動（①～③）に併せ、最新情報を毎月HPで発信しており、アクセス数が年々多くなってきている。特に、学校関係やマスコミからの問い合わせが多い。

3 参加者の声

安全対策を徹底し、講演会、現地見学会を実施。今までにない企画で、非常に勉強になった旨の意見あり。環境フェスティバルはオンライン参加し、遠隔の人も参加でき喜ばれた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	月日	月日	月日	計	備考	
事業内容	フェスティバル	11月1～15日	—	—		
	講演会	—	2月5日	—	規模縮小	
	現地見学会	—	—	3月5日	規模縮小	
参加者数	府内	オンライン	19人	10人	29人	
	府外	(アクセス数	1人	2人	3人	
	計	60,000)	20人	12人	32人	
実施場所	京都市	京都市	京都、京丹波町			

木育 森の恵み発信プロジェクト

やまぐに (林業女子会@京都)

〒602-8373 京都市上京区下横町 209-70

1. 活動の概要

木育活動として今年度は林間学校、木登り、自然観察会、土づくり、木工、森歩き、森ヨガを開催して森林空間を活用する、野遊びしながら、愉しみながら体験で環境を感じるきっかけに有効とする活動を行った。林間学校では里山での様々な生き方を知ること、自分と自然とのつながりを感じることで（炭ができるまで）自然の中で体を動かして何かの形を作ること。森林資源の活用方法を学ぶこと。木登りでは、登る木の選定をすることで森の中を歩きまわり、木の周りを観察して安全確保をすることから森の様子を細かく見て考えている間、普段の生活では遠い存在の森林も上手く活用すれば景色も含め自然のアトラクションと変わり、森で生きる知恵と野遊びから学ぶ木の特性。森の安全は今損なわれている現状も知るところを伝える時間も作っている。里山保全の観点から教わる人が多い、それは人が森と寄り添いながら生活している身近に自然環境が当たり前で存在している。しかし、街の中で便利に暮らす人は森の存在から遠いから地域の方からの話を聞いたり、生活の一部に触れることで関心が持てる様に意見交換を継続しながら様々な体験を重ねた。

2. 活動の成果

今だからこそ森へ誘い、自然環境の中で感じる森の楽しさを知り、見過ごしていることに気づき新たな発見を知り、もっと森歩きの色々な手段を考えて行動する。それから、荒廃している森里川への興味も促した。そのことからまた森に入りたい、近所にある山へ出かけてもっと現状を知りたいなど、参加者が無関係でなく、ひとりひとりの意識から環境を守る行動をとる課題も持ち帰り、次のイベントに参加する傾向がみられた。

3. 参加者の声

林間学校：里山での様々な生活することができた。木育という言葉で想像していたことよりも幅広く学ぶことがあった。

ツリーアドベンチャー：ロープワークが楽しかった。木登りは手足だけで楽しんでいたら安全に高いところまで上がってすごく気持ちがいい。木の種類で特性があり木登りに適しているとか不適したのが理解できて面白かった。

自然観察会と森ヨガ：森の中では遠くの景色ばかり見ていたが手元足元にたくさんの命があることで感動した。ヨガでリフレッシュ、リラックスできた。

実績報告とりまとめ表

実施時期		7月17日	9月23日	備考
事業量 又は 事業内容		ツリーアドベンチャー ロープとハーネスでの 木登り	土のがっこう コンポストで堆肥をつ くる	
参加者数	県内 県外 計	6人 人 6人	11人 1人 12人	
実施場所		ツリーアドベンチャー 京都府京都市北区衣笠山 土のがっこう 京都府京都市左京区曼殊院		

実施時期		10/3・12/2・3/27・ 3/28・4/18 5/27	11月15日 1月16日 1月23日	備考
事業量 又は 事業内容		林間学校 森歩き、炭焼き 森林文化、木工	自然観察会、森ヨガ、 ネイチャーゲーム	
参加者数	県内 県外 計	87人 人 87人	65人 人 65人	
実施場所		林間学校 京都府京都市右京区雲ヶ畑・左京区花背・北区 自然観察会 京都府京都市北区上賀茂試験地・左京区宝ヶ池公園		

実施時期		4月17日 6月25日	計	備考
事業量 又は 事業内容		つくりましてん 木工 森歩き		
参加者数	県内 県外 計	21人 人 21人	190人 1人 191人	
実施場所		つくりましてん 京都府京都市中京区寺町二条・北区衣笠山		

森を楽しむワクワク育児！『森のようちえん体験会』と『おやこまつり』

一般社団法人 森のようちえんどろんこ園
〒601-1253 京都市左京区八瀬近衛町 723-48

1. 活動の概要

未来を担う子どもたちに体験会、ワークショップを通じて、森のようちえんの意義を伝え森林環境教育の普及啓発を目指す。実際に森を散策することで自然と触れ合いながら学びの多い体験ができる。親子で音楽や絵本を楽しむコンサートや草木染体験やおやこまつりの様々なワークショップで子どもたちにたくさんの自然体験をしてもらいたい。

2. 活動の成果

自然と触れ合いながら学びの多い体験ができた。たくさんの親子が参加され、様々な催しを通じて森の活動や交流を広めることができた。子どものころから自然環境を楽しく学ぶことで、自然への興味関心を育みSDGsの普及啓発に繋がると思われる。

これからも自然の中で親子で楽しめる催しを継続していくことで、森のようちえん活動や自然体験活動を広げていきたい。

3. 参加者の声

自然の中での活動は、親子共にのびのび楽しめることはもちろん、子どもが虫や植物と触れ合うことで自然に興味を持っていくのが親としても楽しみです。

親子ではなかなか体験できないコンサートやワークショップに参加して自然をいっぱい感じることができました。

実績報告とりまとめ表

実施時期		R3, 11月13日	R3, 12月1日	R4, 3月16日	R4, 5月10日	計
事業量 又は 事業内容		森のようちえんおやこまつり	森のようちえん体験会&音楽会	森のようちえん杜の中の絵本コンサート	野染め体験会	
参加者数	県内	100人	60人	60人	55人	275人
	県外	4人	4人	4人	4人	16人
	計	104人	64人	64人	59人	291人
実施場所		京都府 京都市左京区				

未来につなごう、都市近郊林 ～寺林の保全と利用を目指して～

フィールドソサイエティ

〒606-8421 京都市左京区鹿ヶ谷法然院町 72-2
法然院森のセンター

1. 活動の概要

都市近郊林の一面を成している法然院の寺林（京都市左京区）をフィールドに、野生生物の生息保全と「観察の森」の創出のため、市民参加で森林活動を展開することを目的にしている。今年度は森の手入れ、観察路（登山道）の手入れ、樹木名札の設置を行った。樹木名札を巡っての植物観察も開催した。また、これまでの「観察の森事業」報告冊子（過年度本ファンド事業）に引き続いて、『観察の森づくり報告書』『「観察の森づくり」手引き』を発行した。法然院寺林における市民参加の森林整備「観察の森づくり事業」の継続と、それを基盤にした森林環境学習活動による利用を目指すものである。

2. 活動の成果

寺林を地域の森として市民で整備する機会を持た。「観察の森づくり事業」報告の冊子を作成でき、都市近郊に残る寺林の生物多様性、景観、防災機能などへの関心に繋がることが期待できる。子どもたちや高校生の参加も得られ、地域の森の手入れに関わる機会にできた。森への愛着が増し、森林の公益性についての理解が深まったと思われる。

3. 参加者の声

- ・のこぎりで木をきるのが楽しくて、山も心もスッキリした。（小学生）
- ・おもしろい体験をできたと思う。自分で打った杭を後から見ると達成感がすごかった。（高校生）
- ・何事にも協力という文字が出てくるのだと感じた。（高校生）
- ・参加してみて山の環境を守っていくのは大変なんだと感じた。又、同じ植物ばかりではなく、多様性や持続性のある森づくりが大切なのだと感じた。（高校生）
- ・普段から山を歩くが、道について考えるいい機会になった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	3年9月19日 12月18日	4年1月29日	4年3月27日	4年4月16日	計	
事業量	準備活動1回 森づくり事業1回	森づくり事業1回	森づくり事業1回	観察会1回	5回	
参加者数のべ人数	府内	7人	9人	16人	20人	52人
	府外	18人	2人			20人
	計	25人	11人	16人	20人	72人
実施場所	京都府京都市左京区鹿ヶ谷法然院町、善気山町					

木づかい社会の定着を次世代の森づくりにつなぐ 「木材コーディネートオンライン講座」運営事業

NPO 法人 サウンドウッズ

〒 669-3631 兵庫県丹波市氷上町賀茂 72-1

1. 活動の概要

サウンドウッズでは、森づくりに市民参加を促す仕掛けの一つとして、「森」と「まち」をつなぐ「木材コーディネーター」と呼ぶ専門家育成に取り組んでいる。今年度再開する木材コーディネート基礎講座と木材コーディネート連続討論会について説明する「木材コーディネート概要説明会」をオンラインで開催した。「木材コーディネート連続討論会」では、基礎講座の講師陣が手掛けているプロジェクトの紹介・ディスカッションを2回に分けて行い、第3回は基礎講座修了生によるプロジェクトの紹介を行った。

2. 活動の成果

先進的なプロジェクトや等身大のプロジェクトの紹介により、連続討論会は木材コーディネーターの認知を広め、地域に根差したプロジェクトを通して目指す方向を独自に発展させることができた。

オンライン開催により、全国各地からアクセスがあり、木材コーディネーターの認知を広めるとともに、木材コーディネーターを目指す実務者の発掘を促す成果もあった。

3. 参加者の声

- 具体的な活躍が聞けて良かった。
- 木材コーディネーターとしての活動の一端を垣間見ることができた。
- 同じ産地でも木の特長に応じて個別に売り方を考える必要があること、良質材、大径木を活かして使うための様々な取組みをされていることがわかった。
- 需要に対する木材調達のコーディネートだけでなく、需要のないところに新たにつくっていくことも木材コーディネートということ。使うことがどう森林育成に役立っているのかを伝えることも木材コーディネーターの役割であるということ。木材コーディネーターの仕事の中には自分にできることもありそうだ。しかし、業務の中は広く、自身の専門性の周辺しか理解が及ばないのが常であり、木材コーディネーター同士の連携も大切であることがわかった。

4. 申込状況

地域 / 年齢層	20歳未満	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60歳以上	合計
北海道							
東北				1			1
関東			4		2	3	9
北陸・中部		3	9	5	5	1	23
近畿	2	4	7	12	4	3	32
中国・四国		1				1	2
九州		2		1	1		4
合計	2	10	20	19	12	8	71

森林生態系から身近な自然を考える ESD ワークショップ ～持続的な活用と地域住民の「親」林空間の形成に向けて～

奈良教育大学附属中学校裏山クラブ
〒 630-8113 奈良市法蓮町 2058-2

1. 活動の概要

- ・ユネスコエコパーク（大台ヶ原）、世界遺産（春日山）の研修を通して、森林の現状・課題について学ぶ機会を提供し、環境保全に対する意識を高める
- ・裏山・竹林整備を行い、得られた材などを用いて、森林の利活用を試みる
- ・森林環境教育のリーダーの育成を目指して、自然のしくみ、安全確保などについての知識やスキルを身に付ける

2. 活動の成果

本事業では、中学生を中心に奈良の森林環境問題を理解させるために、ユネスコエコパークや世界遺産を活用した。これらの活動により、森林の現状や自然環境保全意識を高める機会となった。また、これらの活動に興味を持った企業やNPOなどの方と連携し、教育的利用の情報交換や次年度以降の継続的な活動の実施に向けた話し合いを持てた。裏山・竹林を整備しツリーハウス制作を通して森林に活動の拠点づくりとなり、人が集うようになった。また、間伐材の利用（玩具づくりやシイタケ栽培など）や森林整備を自ら行う子ども達が見られたことも成果となった。

3. 参加者の声

僕はこの大台ヶ原ツアーに参加して、大台ヶ原の自然環境は伊勢湾台風を機に木々が減少したことで地面が乾きコケ類が成長しにくくなり、そこに鹿の餌であるササ類が増えたことで鹿も繁殖した流れがあることをわかりました。この流れで若い木が減少し、昔の写真と見比べたら非常に木が減っていることがより一層自然を大切にしようと思いました。そしてこういう自然環境が破壊されているところが世界でたくさんあります。そこでまずはその場所がどういうところなのかを知るのが自然再生をしよう、と言う前にやるべきことの1つ目だと思います。こういったことを知れて、また、考えることができた良い機会になりました。これからはこういう活動に積極的に参加したいと思いました。

実績報告とりまとめ表

実施時期		7月27日	8月2日	8月5日	8月6日	…	計	備考
事業量 又は 事業内容		森林作業	研修会	森林作業	イベント 研修会	…	17 事業	研修会 3 事業 イベント 7 事業 森林作業 11 事業 (複数実施した 事業有)
参加者数	県内	30 人	27 人	15 人	7 人	…	309 人	
	県外	人	人	人	人	…	人	
	計	30 人	27 人	15 人	7 人	…	309 人	
実施場所		奈良県奈良市、桜井市、上北山村						

森のようちえん全国交流フォーラム in 奈良

森のようちえん全国交流フォーラム in 奈良 実行委員会
〒632-0123 奈良県天理市長滝町 294

1. 活動の概要

自然保育を通して自然の魅力を満喫できる取り組みや環境づくりの醸成を図ることを目的に、自然を活かした保育・教育などに興味のある関係者が情報交換や交流を行い互いに学びを深め合ったり課題解決に向けて行動をしていく意識を高め合う。コロナ渦の状況の中で出来ることを模索し全国各地の方がどのスタイルでも参加できるように実施。スタイルに柔軟性を持たせる。

【第16回森のようちえん全国交流フォーラム in 奈良】

テーマ：【いのちの力 スイッチ ON！～幸福度が高まる保育・教育・社会を共に見つめる2か月間】

場所：国立曽爾青少年自然の家

開催内容：① 10/30～31の1泊2日の現地リアル開催『曽爾高原 de フォーラム』

- ・基調講演 内田幸一氏【ポストコロナ時代と森のようちえん～今子どもに関わる大人達がつたえたいこと～】
- ・パネルディスカッション
- ・特別講演 汐見稔幸氏【日本の子ども達が幸せに育つために～これからの保育・教育・社会のゆくえ～】

他 12 分科会

② 11/11～12/19にかけて行われたオンライン開催『おうち de フォーラム』

- ・プレ講演 苫野一徳氏【保育・教育が人と社会の幸せをつくる】

他 15 分科会

③ 2022/6/4～5～子ども編～が開催

※コロナ渦で当初プログラムにあった子ども参加を見送った為、後日開催された。

- ・大人プログラム《自然と共に、つながる対話リトリート》
- ・小学生プログラム《曽爾キャンプ！》※1泊2日キャンプ場で過ごす。
- ・ようちえんプログラム《曽爾高原で森のようちえん！》※預かり保育。
- ・未就園児親子参加プログラム《高原の青い絨毯で親子じかん♪》
- ・ゲスト講師：森重裕二氏『思いはただひとつ・・・子どもたちの命を守ること。』
- ・演奏：『癒しの森～焚き火に集う夜の音楽会』

計約30の分科会が開催され幸福度とは？を対話やWS形式を通して学び深め合う時間となった。

2. 活動の成果

コロナ渦の状況を見つつ、当初から大幅な変更を重ねてきた。一番ベストな状況を森のようちえん関西実行委員メンバーで話し合いその結果プログラムを分散化・長期的な開催になった。学びがより継続的なものへとなり、リアルからオンラインへと交流・多様な意見に出逢い繋がりがどんどん深まっていった。またオンラインでは交流や質疑応答がしやすい環境で、参加者それぞれが学びやすい状況を生んだと思う。全国各地の同志の連帯感も深まったので、その後に実際に互いにリアル研修をしたり学びあいへの展開が見られた。奈良県に関しては、このフォーラムをきっかけに奈良県版自然保育認証制度の設立に向けてチームが生まれすでに動き始めている。奈良から『教育の変革』の発信に少しでも貢献できたら嬉しい。今後は森のようちえんだけでなく全ての子どもや大人達に自然保育が普及し教育の幸福度が高まるように今後も活動を続けていきたい。

3. 参加者の声

- ・大学で教育を学んでいます。教育の本質について感動しました。
- ・同じ方向を向いている大人がこれだけ集まったら生きるエネルギーがみなぎるだと感じました。
- ・哲学が森のようちえんで大切にしている事に言葉を与え、現代社会において森のようちえんの取り組みが重要な部分を担っていることを再確認できました。
- ・自分でもきるところ・自分にしかできないこと！まず動きます！
- ・子どもの存在は社会の根っこの部分。根っこだから見えないし、見返りを求めてもまだ実をつけたりもしない。でも根っこがないと育たない。その見えない部分を見ることが大事。今の社会は見える部分の見返りばかりを求めて、見えない部分の子どもをないがしろにしてる気がする。
- ・「いのちの力 スイッチ ON！」改めてどう生きたいか？何をやっていきたいのか？考え直し未来に向かって子ども達が健やかに育っていける場所をつくる為、まずは自分も幸せになることにスイッチをおし直した感覚でした。

実績報告とりまとめ表

実施時期		10月30・31日	11月11日～ 12月19日	2022 6月4・5日	計
事業量 又は 事業内容		【曾爾高原 de フォーラム】	【おうち de フォーラム】	【こども編】	
参加者数	県内	49人	19人	40人	108人
	県外	140人	271人	39人	450人
	計	189人	290人	79人	558人
実施場所		奈良県 国立曾爾青少年自然の家			

第2回日本伐木チャンピオンシップ in 鳥取

日本伐木チャンピオンシップ in 鳥取実行委員会
〒680-0947 鳥取県鳥取市湖山町西2丁目413番地

1. 活動の概要

林業の魅力の普及宣伝及び社会的地位の向上、新規就業者の拡大を図るとともに林業従事者の技術及び安全意識の向上を目的に令和3年11月6日、7日の2日間にわたり開催した。参加選手は全国から集まり、林業大学の在校生や農林高校生等のこれからの担い手となる若手たちも多く参加した。大会は競技経験者と未経験者、学生を2クラスに分けることで、競技者の門戸を広げ、より新規競技者が参加しやすいよう工夫を行った。

2. 活動の成果

大会参加者60名のうち、競技未経験者クラスは26名の参加があり、競技者の増加につなげることができた。また、競技を通じて、日々の仕事の中でも競技を意識して作業をすることで安全意識の向上にもつながった。

来場者もコロナ禍の中、数多くの来場をいただき、チェーンソーを使いまわす姿や13mの大木を伐り倒す迫力のパフォーマンスでチェーンソーの高等作業技術及び統一感のある鮮やかなウェアで林業のかっこよさをPRすることができ、林業に対するイメージの改善に努めた。

3. 参加者の声

鳥取の魅力をもっと知りたいと思った。

学生生活の思い出がない中で、この大会に参加できとてもいい思い出となった。

大会に参加して初めてこれまで林業をやってきてよかったと思えた。

実績報告とりまとめ表

実施時期		11月6日	11月7日	計	備考
事業量 又は 事業内容	日本伐木チャンピオンシップ in 鳥取の開催	別添資料のとおり			
参加者数	県内	388人	425人	813人	選手、スタッフ、 来場者の合計
	県外	115人	115人	230人	
	計	503人	540人	1043人	
実施場所		鳥取県東伯郡北栄町由良宿			

森林を活用したプレーパーク活動

特定非営利活動法人 隠岐しぜんむら

〒684-0403 島根県隠岐郡海士町大字海士 5328-6

1. 活動の概要

島の子どもたち全員に自然体験ができることを目指す弊団体が運営する森のようちえん『お山の教室』は、園児以外にも自然体験ができるように、竹林でプレーパークをおこなう。

プレーパークとは、子どもが「やってみたい」と思うことを、実現できるようにめざした遊び場である。木登りやハンモックや工作、焚き火など、自然の中で体を使ったり、モノづくりができる。スタッフが指示をだすのではなく見守り、場を整備することに徹することにより、子どもたちが自然の中で普段できないような思い思いの遊びができる場となる。

2. 活動の成果

竹林に活動場所を変更したが、竹の組み合わせで登る、滑るアスレチックのように楽しめたり、竹で弓矢を作るなど活動の幅が広がった。

子どもたちの遊びの様子をみていると11時過ぎぐらいから遊びが盛り上がるため、12時で終了では遊びを途中できりあげることになっていたため、1月後半より、12時までの開催を13時までの開催してみたが残っている親子が半数いた。

令和4年度は夕方までやってみて参加者がより参加しやすいようにしようと考えている。

3. 参加者の声

- 子どもたちが自分たちで遊び方を見つけ一緒に遊ぶ友だちも自由に楽しく過ごすことができる。親もそれを見ることができて親同士で会話交流ができ楽しかった。
- 自然にある物で自分で考えて遊ぶ子どもたちがとても楽しそうだった。
- 自然とふれあうことができた。
- 竹を切ることが楽しかった。
- 大人も子どももしたいことをしたいようにして、いい塩梅でお互いが見守り会える場所である。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月13日	12月11日	1月15日	1月29日	2月5日	2月26日	計	備考
事業量 又は 事業内容	森林を活用したプレーパーク活動	森林を活用したプレーパーク活動	森林を活用したプレーパーク活動	森林を活用したプレーパーク活動	森林を活用したプレーパーク活動	森林を活用したプレーパーク活動	6回	
参加者数	県内	52人	34人	31人	19人	11人	27人	174人
	県外	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	計	52人	34人	31人	19人	11人	27人	174人
実施場所	島根県 隠岐郡 海士町							

保育園・幼稚園等における森林環境教育の推進

(公社) 島根県緑化推進委員会

〒690-0886 島根県松江市母衣町55番地

島根県林業会館4階

1. 活動の概要

保育園・幼稚園等における森林環境教育を進めるため、

- ①園児に対する森林環境教育出前講座の開催
- ②教職員に対する森林環境教育に係る研修会（オンデマンド配信）の開催
- ③園児に木に親しんでもらうための木工製品（KUMINO）の配付

を行った。

2. 活動の成果

①森林環境教育出前講座の開催

県内の保育園、幼稚園に市町村を通じて案内したが、新型コロナウイルス感染症防止の観点から園内での部外者の活動ができない園が多く、応募のあった5園での開催となった。出前講座を業務委託したNPO団体と当該園との間で緊密な打合せを行ったうえで実施することができた。

②教職員に対する研修会の開催

新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、オンデマンド配信（配信期間2週間）による研修会を開催し、25園の参加を得た。また、オンデマンド配信による研修会開催のノウハウを得ることができた。今後も、森林環境教育に関心のある園を中心に、情報提供や啓発活動を行っていく。

③木工製品（KUMINO）の配付

- ①の出前講座開催の5園に対し、県産材活用木工製品「KUMINO」の配付を行った。

3. 参加者の声

森林環境教育出前講座の感想

出前講座を通じて、子どもたちは身近な自然素材を使った遊びに興味を持つことができた。

また、園外での活動は、より自然に親しむことができ、あらためて園の周りにあるものに気づくことができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期		月日	月日	計
事業量 又は 事業内容	出前講座	10月22日、28日 11月10日、16日、17日	1月11日～24日	
	研修会			
参加者数	県内 県外 計	135名	25園、8機関	135名、25園、8機関
実施場所	(出前講座) 島根県松江市・出雲市・大田市 (研修会) オンライン			

里山保全の普及啓発事業

NPO 法人 ^{しとり} 倭文の郷

〒709-4623 岡山県津山市桑下 29-1

1. 活動の概要

里山では若年者の減少や高齢化が進行し、森林との結びつきが希薄になってきている。有害鳥獣が棲息し、周辺の田畑に被害を与えている。長期化する新型コロナウイルス感染や侵略戦争の影響により、経済活動に先行きが見えない状況であるなか、2022年全国植樹祭が岡山県で予定され、当組織もプレ・イベントの会場に立候補して、地域一体となって植樹を中心とした準備を始めている。

2. 活動の成果

当ファンドの支援を受けて8回目の取り組みとなった当年度は、森林が有する機能についての啓発を中心として実施した。計12回（うち2回は中止）のイベントを企画して、県内都市部から179名が参加した。地元小学校への出前授業「巣箱の製作」を継続実施したほか、「夕闇昆虫探検」では樹林に棲むカブトムシ、クワガタ等の夜の生物に直接触れることができた。また、小学生を対象にしたツリークライミングも好評であった。一方、大人を対象とした椎茸植菌、カズラ籠・杉玉づくりなどに多くの参加者があった。キノコ鑑定会、野鳥観察会、桜ウオーキングでは、知識豊富な講師陣の指導により絶滅危惧種等の発見、保全活動を実施した。3年目となる絶滅危惧種ブッポウソウの保護活動では、2か所の巣箱から巣立った。今年も2回の行事を中止したが、SDGsの活動が推奨される中、里山を通じて地域社会づくりの必要性を共有した。

3. 参加者の声

地域からは、森の宝石と呼ばれるブッポウソウを初めて見た。美しい鳥であり継続した活動を期待する。小学生に同伴した保護者からは学校では学べない夕闇の中でのクワガタやカブトムシ観察会は貴重な体験となった。高齢者からシイタケの植菌は、菌床きのこがほとんどになった昨今の食糧事情の中、得難い体験であった。

実績報告とりまとめ表
別表

実施時期	7/24、 10/10	1/16、 3/13 6/12	11/28	11/23、 3/14	2/20	4/2	
事業内容	昆虫探検、 きのこ鑑定 会	野鳥観察会	杉玉づくり	ツリークラ イミング、 出前授業 小4児童 巣箱組立	原木キノコ の植菌体験	桜ウオーキ ング	
参加者数	県内 県外	11、30	9、9、7	35	27 20	15	22
	計	41人	25人	35人	47人	15人	22人
実施場所	岡山県津山市倭文（しとり）地区一般136人、スタッフ他43人						

少年少女里山マイスター養成講座

特定非営利活動法人 徳島県森の案内人ネットワーク
〒770-8055 徳島県徳島市山城町東浜傍5-226

1. 活動の概要

身近な里山をフィールドに、野外での活動（木登り、伐採体験、秘密基地づくり、ほか）や小集団での作業（薪割り、きのこの植菌、野外料理体験、ほか）、五感を使う（ネイチャーゲーム、ほか）など実践的且つ体験型講座を実施し、活動や作業及び遊びを通して次代を担う感性豊かな青少年の育成を目的としています。

2. 活動の成果

今回の講座の大きなトピックスとして、コロナウイルスの影響を受けて講座の開始及び終了時期の変更、感染対策として参加者を減らして開講したことが挙げられます。第3回から第6回の講座の開催が令和4年3月以降に集中してしまったと言う反省点がありますが、コロナウイルス感染の状況を見ながら最後まで終了することが出来たことが今回活動の成果と言えます。コロナウイルスの終息がしばらく見通すことが難しいことから、今回活動の成果をwithコロナの取組に活かし活動を実施して行きたいと考えます。

3. 参加者の声

講座終了後、受講生にアンケート（保護者にも）及び感想文の提出をお願いしました。各講座の評価（5段階）は親子共に「4.7」以上の評価でした。具体的に「ともだちができたこと」や「森の中で遊べたこと」、「普段使えないような道具を使えたこと」など良かったと思ったところとして挙げています。

また感想文からは、楽しかったことや自然に親しみ、興味を持ち、少しずつ成長していることが読み取れました。尚、講座の内容とアンケート結果及び写真、感想文などを報告書（概要版）にまとめました。

実績報告とりまとめ表

実施時期		月日	月日	計	備考
事業量 又は 事業内容	少年少女里山マイ スター養成講座	令和3年 7月1日～	令和4年 5月31日	6回	講座は令和3年11月(21日)～ 令和4年4月(3日)迄の6ヵ月間
参加者数	県内	183人	人	183人	県内参加者数は受講生、保護者 及び会員の参加延べ人数、県外 の参加者数は自然観察指導員
	県外	1人	人	1人	
	計	184人	人	184人	
実施場所		徳島県徳島市入田町月ノ宮			

第26回九州森林フォーラム in 大分県日田市 ～九州における小規模林業の役割と課題～

NPO 法人 九州森林ネットワーク

〒869-2501 熊本県阿蘇郡小国町宮原1802-1
小国町森林組合事務所内

1. 活動の概要

新型コロナウイルスの感染拡大が世界を覆って2回目の夏が過ぎようとしています。自由な移動もままならない中ではありますが、森林・林業をめぐる大きな変化が生じています。1つは、ワクチン摂取が進み経済が回復してきた国、特に米国の木材需要が高まり、コロナ後の郊外への住宅建築ラッシュを見越して金融マネーの投資対象となり住宅、木材価格の上昇したことです。日本にもすぐに影響し、「ウッドショック」と報じられたように、一部では住宅着工がストップし、国内の丸太、製品価格も上昇しています。長期にわたって再造林費用も確保できない低価格で推移してきた木材価格の上昇は、山側にとって歓迎すべき状況だと言えます。しかし、グローバル経済の大きな流れに翻弄されずに、しっかりとした地域の実需と結びつく林業や木材産業を確立することの重要性も明らかになったのではないのでしょうか。

もう一つの変化は、国内で発生している度重なる豪雨による土砂災害の激甚化です。九州においても昨年は熊本県南部や小国町、大分県日田地域で土砂崩壊や河川が氾濫し、甚大な被害が発生しました。国内だけではなくドイツの洪水、イタリアの森林火災など、国際的にもこれまで経験したことのないような災害が報告されています。いずれも気候変動の影響が指摘されているところです。

以上のような経済や環境が大きく変化する中で、社会基盤である森林を保全しながら、木材の循環利用を進めることが求められています。第26回目を迎える今回の九州森林フォーラムでは、小規模な担い手に焦点をあて、その役割、可能性、課題を議論しました。

九州はかつて自家山林を自家労働力で施業を実施する自伐林家が多い地域として有名でしたが、次世代への継承が難しく、また主伐中心の時代となり、事業体による施業が中心となっています。素材生産の機械化と規模拡大に伴って、大面積な皆伐施業地が増加しています。また、木材加工業の大規模化が進行し、大量・安定的な原料確保が求められています。一方で、近年、九州地区自伐型林業連絡会が発足し、自家山林を再活用したいとする森林所有者や自家山林を保有しない移住者が他者の山林を借りる、または委託を受けて林業を行う、「自伐型林業」の動きも広がっています。自伐型林業の小規模施業方法を取り入れようと、大規模山林所有者と自伐型林業者が協働した研修会も始まっています。

九州地域で自伐林家や自伐型林業といった小規模林業はどのような役割と課題があるのでしょうか。定住化、環境保全、減災、地域振興など多角的な視点から、実践者を交えて議論しました。

基調講演講師として筑波大学 生命環境系農学域 准教授 興柁克久先生と、一般社団法人 東北・広域森林マネジメント機構 代表理事 三木真冴先生に講演をお願いしました。

2. 活動の成果

今回「九州における小規模林業の役割と課題」のテーマでフォーラムをおこなった、現在大規模施業が主流になり短期間での素材生産が見込まれている、一方では自分に合わせたライフスタイル、半林半Xなどの小規模林業での自伐型林業も地域により活躍をされている、小規模施業を残すことで、地域の活性化、しっかりとした施業・技術を継承する事が可能になる。そのためには中間的支援組織が大事である、UIターンの移住者、自ら自伐型林業をしたい人を地域で受け入れるには、中間的な役目をする行政などの支援が必要、また自伐型林業のグループ化、集落での取り組み仲間づくりなども非常に重要である事が分かってきた。山林の衰退、林業担い手の不足、

高齢化にも小規模林業の受入れが今後の課題にもなるのではないかと感じたフォーラムでした。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会場人数を制限しオンライン (Youtube) での同時配信をおこなった。

3. 参加者の声

- ・森林を作るには、色々な考え方があるなと思いました、色々考えさせられました。昔の山村の生活、営みに戻る事が、自伐型林業の考え方に近いように感じました。ぜひ豊かな森林を後世に残すべく、皆さんにご活躍いただき、都市部の方にも森林に目を向けてもらいたいと思います。

(行政 40 歳代)

- ・林業の担い手不足・人口減少のなか、中山間地域では、地域の山守さんの手によって未整備の山林に手が入るようになれば、未整備森林の減少につながると感じました。環境に配慮することと同時に代々引き継がれてきた基調な森林資源をいかに活用し、次世代へと残していくことが重要だと思いました。

(行政 30 歳代)

実績報告とりまとめ表

実施時期		12月10日	12月11日	計	備考
事業量 又は 事業内容		フォーラム 「基調講演① 筑波大学 生命環境系農学域 准教授 興梠克久氏」 「基調講演② 一般社団法人東北・広域森林マネジメント機構 代表理事 三木 真冨」 「事例発表3件」 「パネルディスカッション」	現地見学会 「マルマタ林業社有林」 「田来原美しい森づくり公園」		
会場 参加者数	県内 県外 計	13人 45人 58人	5人 35人 40人	18人 80人 98人	
オンライン 参加申込数		46件		46件	
視聴回数		158回		158回	
実施場所	12月10日大分県日田市三本松1丁目8番11号 日田市民文化会館「パトリア日田」ギャラリー 12月11日大分県日田市前津江・西大山				

日本三大砂丘「吹上浜」の白砂青松再生事業 ～「森林ボランティアの日」森林づくり活動～

鹿児島県森林ボランティア連絡会
〒892-0816 鹿児島市山下町 9-15

1. 活動の概要

今回活動を行った吹上浜は、約 40 kmにも及ぶ日本最長の砂丘で日本三大砂丘の一つである。

このうち約 25 kmが松に覆われ、飛砂や防風から住民生活を守り、観光資源としても重要な役割を担ってきたが、近年、マツクイムシやマツケムシにより一部の地域で甚大な被害を受けている。

このため、9月第3日曜日の全国一斉「森林ボランティアの日」に因み、森林を守り育てることの大切さを広く周知し、県民一人ひとりがそれぞれの立場で森林づくりに参加する機運を醸成するとともに、その意義を広く発信するため、県内の森林ボランティア等が、国や県、市、林業関係団体と連携して、南さつま市加世田の国有林にて、吹上浜の白砂青松の再生に向けた森林づくり活動に取り組んだ。

第19回目の活動となった今回は、植栽木（抵抗性マツ）の手配時期等の諸都合から、例年と異なり12月開催となった。当日は海風が強く寒い一日であったが、参加者の手際良い作業により、予定していた植樹を全て完了することができた。

次年度以降は、隣接した荒廃地の植樹に加え、今回の植栽区域の下刈を実施するなど、継続的な活動を実施することとしている。

2. 活動の成果

県内の森林ボランティアが主体となり、国や県、市、林業関係団体等と連携して、公益上かつ産業振興においても重要な森林を、植栽から保育まで守り育てる活動を継続的に実践していくことで、周辺地域に大きな波及効果が見込まれ、森林ボランティアの対外的認知度も向上する。

当日は、地元の南さつま市長にも御出席いただき、こうした活動の重要性を訴えかける良い機会となった。

3. 参加者の声

- ・第1回の記念すべき活動から参加することが出来て良かった。寒風吹きすさぶ寒い日の開催であったが、そんな中で、一本一本大切に植えたのも、忘れられない良き思い出である。
- ・幼木が成林し、白砂青松の森になるのは、何年後のことだろうか。そんなことを考えながら、自分の孫世代、その先の世代が将来ここを訪れることを想像して、今後も体力の続く限り、森林整備活動に参加して、成長を大切に見守っていきたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期		12月3日	12月4日	年月日	計	備考
事業量又は 事業内容		準備作業	記念植樹(6本) 植樹1,000本			
参加者数	県内	8人	138人	人	146人	
	県外	0人	0人	人	人	
	計	8人	138人	人	146人	
実施場所		鹿児島県南さつま市吹上浜海浜公園に隣接する国有林内				

森を知り森に親しむ事業

特定非営利活動法人 らんらんらん

〒890-0054 鹿児島県鹿児島市荒田1丁目40番10号

1. 活動の概要

21世紀の森は今の子ども達によって守られ育てられていく。その為には、森での様々な体験を通じて森を知り親しみ、森への思い入れを持つことが大事だと考える。

2. 活動の成果

- ◎間伐・丸太切り体験では、間伐をした場所と、手付かずの場所を見てもらい、間伐の大切さが実際に身近に感じることが出来た。
- ◎丸太切り体験では、のこぎりの使い方と、木の硬さや、匂いに触れ、自然の中で汗をかくことのすがすがしさと、森林の中での作業をされている仕事の方々のご苦労様や遣り甲斐に、少し触れたように感じた。
- ◎遊歩道づくり体験では、くいの打ち込み加減と、間伐材の有効活用の実践を、楽しく積極的に取り組んで、みんなで声かけあいながら森に道が出来ていく達成感と、充実感をえられた。
- ◎木工クラフトづくり体験では、先ず、森の恵みの木の実に触れ、森の営みを知った。どんぐりゴマや、ぶんぶん竹は夢中になって作り遊んだ。竹の節を工夫して切ることで、顔に見えたり、動きがあり、想像力豊かな感性を引き出してくれる竹人形を、想い思いに作る事が出来て、小学生の低学年の参加が多かったため、子供達にとって非常に興味を注がれた体験となった。
- ◎椎茸の駒打ち体験では、ほとんどの参加者が初めての体験で、とても集中して活動に取り組んだ。ドリルで穴あけする際のドリルの使い方から、菌の打ち込みと、育て方、収穫の時期など説明に、非常に興味深いようで、森の環境だからこそその恵みを頂いている認識を改めて深めた活動となった。

3. 参加者の声(参加者の感想を短く、簡潔にまとめて記述してください。)

- ◎丸太切り体験した6才の女の子：木が硬い。楽しい。最後までうれしかった。
 - ◎遊歩道づくり体験：木づちに感動。土の中に沢山の木の根が……。平行を作るのが大変だし、1段1段の間隔の開け具合が難しいね。森の整備する人達は凄いですねえ。
 - ◎木工クラフト体験：面白い。楽しい。コマ回しなんて何年振りでしょうか。懐かしい。
 - ◎椎茸の駒打ち体験：菌を打った所から出てくると思ってました。SDGsの意味は何となく知っていたけど実感出来る機会がなかったから改めて知ることが出来て良かったです！親子で参加出来て楽しくて共通の話題が持てました。Etc…
- 皆さん、大変喜ばれて、次回も参加したい、次は？と、笑顔が満載でした！

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月24日	1月8日	1月30日	計	備考
事業量 又は 事業内容	森を知り 森に親し む事業	間伐・丸太切 り体験と遊歩 道づくり体験	木工クラフト づくり体験	椎茸の駒打ち 体験	3回 1回目は、コロナ 感染拡大蔓延防止 措置で中止
参加者数	県内	52人	48人	53人	153人
	県外	人	人	人	人
	計	52人	48人	53人	153人
実施場所	鹿児島県 鹿児島市				

森での学びと体験を楽しむ事業

特定非営利活動法人 みどりの風かんかん
〒890-0014 鹿児島市草牟田1丁目1-2

1. 活動の概要

森を守っていく上で森の恵や森の役割・仕組みを知るとともに森で楽しむことが大事である。知った上で、今森には何が必要なのかを考え、行動する機会としたい。

2. 活動の成果

イベント開催時の10分～15分前後を森が海の生き物たちも育てている事などのお話をしており、そのことが参加者の方々に興味を持っていただけているように感じました。

クラフトは森にある物を使い、遊びを通じて共存の道や循環を感じとっていただけたように思います。

植樹は次に繋げる事（循環、人が自然へのお手伝い）椎茸の駒うちや収穫体験などをつうじて、恵みへの感謝と驚きを持っていただけたことを実感いたしました。

里山への少しの関わりが美しさを保つと感じて欲しいと思って活動しております。

参加者の多くのかたに又来年も参加したいという言葉を受け手応えを感じました。できる限り長くこの活動を続け循環の大切さを実感して貰いたいと思っております。

3. 参加者の声

★クラフト→・子供達が夢中で創っている姿がうれしかった。

- ・こんな上手に創れるなんて、我が子は天才かも！
- ・材料を少し自宅作成用に頂きました。

★植樹→・初めての経験で興奮しまくりが、かわいかった。

- ・ミカンをちぎってしまって、ごめんなさい！でも子供喜んでました。
- ・植える木の名前、前に教えていただきありがとうございます。看板製作でとても夢がふくらんだようでした。（引率者）

★駒うち→・すべてが初めての体験で親子共々大興奮でした。来年も宜しく願いいたします。

- ・初めての電動ドリル少し怖かったけど上手くできて、感動でした。（母）娘は木槌が楽しかったみたいです。もちろん、椎茸の収穫も。
- ・来年は職場のママ友にも声かけますので、参加させてくださいませ。
- ・こんばんのおかずは椎茸のバター焼きにいたします。（笑）

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月18日	10月20日	2月23日	計(3回)	
事業量 又は 事業内容	クラフト体験 松ぼっくり・どんぐり・貝などを使い置物を作りました。	植樹 植樹しました。	椎茸の駒打ち 原木に椎茸の菌を打ちました。収穫もしました。		
参加者数	県内	20人	35人	17人	77人
	県外	0人	0人	0人	0人
	計	20人	35人	17人	77人
実施場所	鹿児島県 鹿児島市郡山町				

調 査 研 究

森林空間を活用した健康活動と森のアクティビティの融合による 森林での活動習慣の定着化に関する調査

一般社団法人 全国森林レクリエーション協会
〒112-0004 東京都文京区後楽 1-7-12
林友ビル

1. 調査の概要

森林空間は、健康に良いと言われている樹木由来の森林揮発成分のモノテルペン類が放出されていることから、交感神経活性抑制、降圧効果、精神的ストレスの改善効果等が期待され、森林浴に代表される健康活動を行う場としてその活用が期待されている。森林空間での健康活動に多くの方々が気軽に参加し、継続的に健康活動を実施していくためには、森林に親しみを持っていただくことが重要であり、その動機付けや継続した活動への役割が森林内での様々なアクティビティに期待されている。

本調査では、森でのアクティビティとしての滝鑑賞と健康活動としての森林浴を組み合わせ、森林浴の経験の少ない方にも気軽に森林浴に参加していただき、森林空間を楽しんで健康活動に取り組んでいただくことを目指して、神奈川県南足柄町の神奈川県立 21 世紀の森と夕日の滝で実施したモニターツアー「新緑の南足柄の森林と夕日の滝を訪ねるモニターツアー ―ヘルスケアのための癒しの滝鑑賞×森林浴―」を実施した。

また、森林空間を活用した健康活動の先進地として、兵庫県多可町の事例を調査した。兵庫県多可町では、町内に健康ウォーキングコースが多く設定され、定期的に継続して「多可の森健康ウォーキング」が開催されている。この取組は、クアオルト®健康ウォーキングを主体としたものであるが、ウォーキングの間にちょっとしたアクティビティがはさまれており、これが参加者から好評を得ている。また、アプリが用意され、歩数や血圧、心拍数を入力することにより健康ポイントを獲得することができ、ウォーキング参加を促し、継続性をもたらすアクティビティの役割を果たしているとも言えそうな取組も行われている。

さらに、北海道黒松内町のブナの北限の生育地である歌オブナ林で行われているガイドによる植物観察と森林散策を組み合わせた森林療法に関連して、上原巖東京農業大学教授による黒松内町の北限のブナ林をはじめ、北海道のブナ林等の調査を実施した。

森林空間を活用した健康活動と様々なアクティビティを組み合わせたプログラムにより、多くの方々に森林とのふれあい、健康活動への参加を促す取組は各地で実施されていることと思われませんが、健康活動とアクティビティのコラボレーションという視点で紹介されている事例は多くない。今後、多くの事例が紹介されることが望まれる。本調査は、このような取組の一例を紹介するにすぎないが、森林空間での健康活動に関心のある方へのヒントになることが期待できる。

2. モニターツアー

令和 4 年 5 月 7 日（土）、神奈川県南足柄市の県立 21 世紀の森と夕日の滝において、「新緑の南足柄の森林と夕日の滝を訪ねるモニターツアー ―ヘルスケアのための癒しの滝鑑賞×森林浴―」を実施した。当日は、男性 3 名、女性 13 名の計 16 名（30 代 5 名、40 代 8 名、50 代 3 名）が参加した。健康活動の森林浴として、県立 21 世紀の森において、ノルディックウォーキングを取り入れた森林浴を実施した。参加者は、講師からノルディックウォーキングのポールの使い方と歩き方の指導を受け、遊歩道を散策した。散策の途中には森林インストラクターの講師から森林の解説を受けながら散策した。

また、森林浴の後、夕日の滝に移動し、滝鑑賞を実施した。滝鑑賞は、講師から滝の鑑賞法の指導を受け、鑑賞法を参考に参加者がそれぞれの方法で滝鑑賞を実施した。

参加者にアンケート調査を実施した。アンケートは、日本語版 PANAS を用いた気分評価尺度と

モニターツアー参加についての質問の2種類を実施した。回答数は少数であるが、ポジティブ感情を高めるためには、体に負荷をかけた「動」のアクティビティが、一方、ネガティブ感情の改善には「静」のアクティビティが好ましいと考えられた。また、モニターツアーの満足度も高かった。

3. 先進地事例の調査

兵庫県多可町では、豊かな森林を活用して住民のための健康づくりのため、クアオルト®健康ウォーキングを主軸とした健康保養地事業を2015年から実施している。(一社)多可の森健康協会を設立し、運営を行っている。健康ウォーキングコースは18コースあり、このうち2コースが「クアの道」の認定コースとなっている。多可の森健康ウォーキングは、毎週2回の「毎週ウォーキング」と月1回の「イベント」が開催されている。

多可の森健康ウォーキングで歩いた歩数や血圧・心拍数のデータを入力し記録できる「健幸アプリ」は、各自の健康ポイントの特典があり、ポイント獲得で健康増進への意欲の向上が見られた。今後の取組としては、①大勢の町民が健康ウォーキングに参加して歩いてもらう、②健康ウォーキングに木育や食育などの体験型メニューを加えた宿泊を伴う利用を目指す、③森林空間を産業、子育て、健康づくりに活かして行くことを検討している。

4. その他

北海道黒松内町は、「ブナの北限のまち」として有名であり、歌オブナ林は、最もまとまった面積があり、1928年に国の天然記念物に、2004年に北海道遺産に、2018年に希少個体群保護林に指定されている。

黒松内町では、2015年から高齢者の疾患予防として森林療法がスタートし、ブナセンターを事務局として運営されている。春から秋にかけて毎月1回のペースで森林療法の体験会が開催され、多くの高齢者が参加している。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和4年5月7日		備考
事業量又は事業内容	「新緑の南足柄の森林と夕日の滝を訪ねるモニターツアー—ヘルスケアのための癒しの滝鑑賞×森林浴—」の実施		
参加者数	都内外	都内：5人、都外：11人、計：16人	
実施場所	神奈川県立21世紀の森・夕日の滝（神奈川県南足柄市）		

コンテナ苗の普及が林業用苗木生産と再造林の 労働力需給に及ぼす影響の把握

2022年8月 一般財団法人 林業経済研究所

【課題】北海道は苗木生産量を年間1,600万本から1,900万本に増加することを見込んで取り組んでいる。その増加の主体はコンテナ苗である。これに伴い、北海道におけるコンテナ苗の割合は現在の10%から大きく上昇することになる。そこで、コンテナ苗の普及が苗木生産と再造林の労働力需給に及ぼす影響を明らかにすること、そしてさらなるコンテナ苗の普及に向けた課題を明らかにすることを本調査の目的とした。

【方法】調査は主に聞き取りとアンケートにより実施した。聞き取り対象は北海道庁、北海道山林種苗協同組合（以下、道苗組）、北海道森林組合連合会（以下、道森連）、苗木生産者、苗木植栽者とした。アンケート調査票は道内すべての苗木生産者、道内すべての森林組合に送付した。なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、予定していた一部の聞き取り調査の日程が変更を余儀なくされた。

【北海道の概要】北海道の森林面積は553.5万haであって、全国の22%を占める。近年の皆伐面積は年間9千ha前後であり、うち8千ha超が（再）造林される。このための苗木は年間2,000万本前後が約200箇所、約800haの苗畑から生産される。このうち一割程度がコンテナ苗で、その生産は2009年度に6社の参加で始まった。2018年度末現在の生産者数は22社であったが、2021年度末に24社に増加している。

【苗木生産者アンケート調査】アンケート調査票は2021年12月に郵送し、35の生産者から回答を得た。回収率は70%となる。苗種別には、裸苗のみ18、コンテナ苗のみ2、裸苗とコンテナ苗の両方14、不明1であった。回答者の出荷本数の合計は14,068,520本で、北海道全体の約8割を占める。経営者の年齢は30代から70代以上までと多様である。苗木生産に従事する労働者数は家族・正社員3.7人、臨時職員6.8人、合計9.8人が平均である。労働者の過不足感は「足りている」8、「やや不足」12、「不足」12であり、昨年度に調査した宮崎県（19、10、4）と比較すると不足感がかなり高い。積雪の影響で11月から3月にかけての裸苗生産の作業が少なく労働の季節性が大きい。コンテナ苗がそれを緩和している。5～10年後の将来の生産規模について裸苗では現状維持15、コンテナ苗では規模拡大12でそれぞれ最多回答であった。作業効率を比較すると、コンテナ苗の選苗と出荷は裸苗の1.5倍から2倍の人工が必要であることがわかった。

【苗木生産者聞き取り調査】2021年10月から2022年6月にかけて7生産者を対象に聞き取りを行った。裸苗の作業には体力や経験が問われるため、労働力の確保に特に苦勞している。屋内作業で、通年雇用も実現可能なコンテナ苗の労働者は比較的確保しやすい。しかし、省力化を期待したもののかかなり人を必要としているのが実態と思われる。すなわちコンテナ苗の普及は労働力需給をタイトにする可能性がある。必要な畑、播種、床替え、除草等の作業を省力化することに直結するため、得苗率をあげることを課題とする生産者が多い。

【森林組合アンケート調査】道内すべての森林組合79を対象として2022年5月に実施した。回収率は65%（回収数51）であった。51組合の山行き苗木購入本数は5,702,149本であった。2019年度の全組合の購入本数の50%に相当する。労働者の過不足感は「足りている」3、「やや不足」22、「不足」25であり、苗木生産者と比較すると不足感がかなり高い。コンテナ苗に対する意向は前向きで、「植えたい」「植えてもよい」の回答をあわせて38（79%）組合となった。労働力が不足している組合ほど「植えたい」とする割合が高まる傾向が見られた。コンテナ苗が労働力不足に貢献するという期待の表れではないかと考えられる。

【森林組合等聞き取り調査】2021年10月から2022年6月にかけて、コンテナ苗植栽経験のある8植栽者（7森林組合、1森林所有者）を対象に聞き取りを行った。コンテナ苗は活着の良さ、植栽に技術や経験を問わない点が評価されていた。一方、小運搬や下刈りの手間を嫌う意見が非常に多かった。結果として、コンテナ苗の普及は労働力需給をタイトにする可能性がある。11月にし

か植栽できないカラマツ裸苗を9月の早い段階にコンテナ苗で植栽できるようになれば、労働力不足感の緩和に貢献すると思われる。

【まとめ】 苗木生産者の75%が労働者の不足感を覚えている。裸苗に比べてコンテナ苗は労働者を確保しやすく、通年雇用の可能性が高いため、苗木生産者は将来的にコンテナ苗の生産を拡大する意向を持つ。しかしながら、苗木生産にかかる必要人工を比較すると、コンテナ苗は選苗や出荷の作業において、裸苗の最大2倍程度の労働者が必要となることがわかった。森林組合の94%が労働者の不足感を覚えており、苗木生産者よりさらに深刻度が高い。生産者と同様に森林組合等にも、コンテナ苗に対する省力化の期待はあるが、小運搬や下刈りの手間が増えることを考慮すると、裸苗と変わらないか場合によってはそれ以上に必要労働力が増加する可能性が指摘された。以上のように、現在と作業効率などの条件が変わらなければ、コンテナ苗の普及は苗木の生産においても植栽においても、労働力需給をタイトにすることが予想される。

人口減少や高齢化、他産業との競争を踏まえると、コンテナ苗の普及には、労働者一人当たりの苗木生産、さらに植栽の生産性を高めることが課題となる。生産現場における選苗や出荷作業の機械化においては、作業に合わせた機械を開発するのではなく、機械に合わせて作業を見直す視点も必要となる。あわせて得苗率を高めることはきわめて重要である。得苗率が高ければ、必要な労働力だけでなく、種子、畑面積、ハウス棟数、諸資材、初期投資金額のすべてを抑えることができるからである。植栽現場では労働力不足がより深刻であるため、生産性の向上はより重要である。小運搬と下刈りの生産性の改善は優先的に取り組むべき課題といえる。その上で、一部の森林組合にとって余裕のある8月や9月にカラマツコンテナ苗の植栽をすることは、作業の平準化を通じて生産性の向上に寄与する。北海道の苗木需給に関する仕組みが裸苗を前提に構築されているため、(例えば、市町村森林整備計画でコンテナ苗の適期を別記したり、造林事業補助金交付申請でコンテナ苗は第2期でも申請できたりするように) コンテナ苗の利点がより活かされるように改善していく余地、森林所有者や森林組合に周知していく余地があると思われる。

活動基盤整備

まると大沼ラムサール探検隊→SKY キッズレンジャー養成塾

大沼エデュケーションパーク準備室

〒041-1354 北海道亀田郡七飯町字大沼町 206 番地 1

1. 活動の概要

低炭素社会に向けた日本航空のSDGSへの取組と大沼国定公園の新たなブランドイメージを構築するOEP活動の協働を通じて子ども達の森林環境教育と大沼国定公園の観光振興に繋がるキッズレンジャー（インタープリター）の養成を目的としてスタッフ研修及び4回の活動を実施した。キックオフ3月20日（日）スタッフ研修（関係者及び高校生が参加）

日本航空函館支店のSDGSの取組みを体験的に知ることと直面する気候変動問題を身近な問題に感じる為の講座と大沼国定公園の現在の環境問題と森林の状況について理解を深める研修を実施した。

第1回5月14日（土）（近隣の児童及び高校生が参加）

大沼国定公園の環境問題であるアオコと水質汚染の関係から湿地と森の重要な役割を伝えるネイチャーエクスペリアリングプログラムを実施した。

第2回5月15日（日）（近隣の児童及び高校生が参加）

大沼ふるさとの森の中の手入れが行き届いていない暗い森の除伐・間伐体験を実施した。水質改善とCO2削減について学習すると同時にプレイパークを造成し森の中で思い切り遊ぶ体験をした。

第3回6月11日（土）（近隣の児童及び高校生が参加）

間伐材と倒木を玉切りにして大沼公園のホリデーキャンプ会場に運び出した。次に翌日行われるマルシェイベントの募金ブースを出展する準備として、募金の御礼に渡す間伐材のクラフトを製作した。

第4回6月12日（日）（近隣の児童及び高校生が参加）

地元のマルシェイベントであるホリデーキャンプ in 大沼への出展を行った。ブースの出展を行った。林産物の有効活用に関する具体的な手応えを感じつつ、訪れた来訪者に森林の役割を伝える事が出来た。

2. 活動の成果

第1回から4回を通じて子ども達と高校生の意識の中に気候変動問題に対して具体的な行動を起せる自信と技能を身に付けて貰うことが出来たと実感している。また森の中で遊びながら木を生活に取り込む経験をさせる事でSDGSをより身近に感じる様になった事が感想等から窺い知ることが出来た。

子ども達と住民が一体となってホリデーキャンプ in 大沼のイベントを盛り上げ、自然との共生を来訪者に伝えている様子は今後の大沼国定公園の理想的な姿であり、その未来像を地域内外の人々に示す事で新たな観光地としてのイメージを構築ができたのではないかと考えている。とりわけ森林保全や水質改善そのものが観光の素材となり得る事を地元関係者に示唆出来たのは大きな成果だと考えている。こういったワイズユースに繋がる取組を繰り返す事が低迷している大沼国定公園の観光と地域再生に繋がるという認識を地元関係者の間で持つことが出来た事も成果の一つと言える。

3. 参加者の声

児童の感想：ふるさとの森に行ってみるとみんなと一緒に木を切ったりしたり、木を使ってアクセサリを作ったことが楽しかったです。木登りとかいつもあまりやらないけど、みんなが楽しそうにやっているのを見て自分もやってみたくて思いました。実際に木に登ると風が吹いていて気持ちが良い

かったです。はじめて会った子達とも遊んでいくうちに仲良くなれたことがうれしかったです。つぎも行きたいです。函館市内小学校3年生の女子

高校生スタッフの感想：初回よりも他の高校生ボランティアや地域の人達とコミュニケーションが取れるようになった。子供たちが積極的に話しかけてくれ、一体感が感じられた。普段自然の中で過ごす機会がないので、皆と一緒に森作りをする事自体がとても嬉しかった。小学生なのに「将来自分はこんな事をする」と既に決めている子がいて凄いと思った。初参加で緊張したが子ども達と話す内に緊張がほぐれ帰る頃にはもっと一緒に過ごしたいと感じた。

社会人スタッフの感想：高校生スタッフの動きがとても自然で自主性がある様に見えた。子ども達から自主的に他のブースや地域の人に話を聞きに行き、コミュニケーションを取って情報収集をしていたのが素晴らしい。短期間で回数を重ねる効果を確認出来た。定期的に関わる事で参加児童や高校生スタッフの成長を垣間見る事が出来た。本事業により子どもと地域の大人の育つ場所が出来た。

実績報告とりまとめ表

実施時期		5月2回	6月2回	計	備考
事業量 又は 事業内容	2022年	5月14日(土)	6月11日(土)	4回	3月スタッフ研修1回
		5月15日(日)	6月12日(日)		
参加者数	県内	72人	58人	130人	
	県外	0人	0人	人	
	計	72人	58人	130人	
実施場所		北海道 七飯町(大沼国定公園周辺地域)			

森でコミュニケーションしよう「里山再生プロジェクト」

学校法人 尚綱学院

〒981-1295 宮城県名取市ゆりが丘4丁目10番1号

1. 活動の概要

学校法人尚綱学院はキャンパス周囲の山林を地域社会全員の公共財とし、約20万㎡の森を5区画（A～Eゾーン）に分け、5年周期で恒常的に整備し、「尚綱の森」として再生させるプロジェクトを2016年4月に立ち上げました。里山化し、地域社会の人々が日常的にそこに立ち入ることによって、自然を身体と心で体験しながら「自然との共生」の素晴らしさを感じ、地域社会が豊かなものになることを目的としています。

現在、「森でコミュニケーションしよう」をコンセプトに、NPOや市民ボランティア、地域住民、学生・生徒や教職員など、参加者のみなさまと活動しています。参加者でアイデアや意見を話し合い、森づくりを通じた交流・コミュニケーションを大事にしながら、毎月第2土曜日の定例活動としてA～Eゾーンの森林整備、広場づくりなどを行っています。

2. 活動の成果

今回の助成金では、主に森林の持続可能な管理及び維持の実施に向けた森林整備費などで活用させていただきました。森林整備事業では、昨年度に続く新型コロナウイルスや、地震等の影響で活動の縮小を余儀なくされ、一部作業の積み残しが生じましたが、万全なコロナ感染症対策を行いながら年間計14回の活動を行い、計210名の参加者がありました。森林視察事業については、外部への訪問が難しい状況だったこともあり、やむを得ず中止としましたが、他地域で林業を学ぶ方々の視察受け入れのほか、アドバイザーによる中高生へのSDGs研修会（対面1回・現地視察1回・オンライン1回）を実施し、今期は計30名が参加しました。次世代による里山への関わりや活動を通して特にSDGsの目標15「陸の豊かさも守ろう」「つくる責任つかう責任」への理解を深め、学ぶ場を提供しました。さらに、5ヵ年計画策定については、整備事業の中でA・Bゾーンを中心に「多様性の森づくり」として実施しているバリアフリーの道づくりの活動等を通し、学びの場・憩いの場などゾーニングを行う共に、今後の5ヵ年計画策定の検討を行い、次期の策定完成に向けての礎とすることができました。（参加者合計：240名）

<これからの取り組み>

2022年度は、引き続き、地域の方々をより多く巻き込む形で事業を展開し、市民の皆さんに大いに力を発揮していただきながら、特に次世代の育成についての取り組みをこれまで以上に重視し、「多様な主体が参画する森づくり」を実践していきます。また、これからの「尚綱の森」の将来像をステークホルダーとともに考え、新しい5ヵ年計画をスタートし、持続可能な活動を目指します。

3. 参加者の声

- ・自然に触れて、自然の中で活かされていることを実感した。
- ・地域の方々と交流ができてよかった。
- ・市民による活動（SDGs学習会、自然観察会、草木や木の実を利用したおもちゃ作り・遊び体験等）を尚綱の里山で行いたい。
- ・「バリアフリーの森」の視点での整備も大切であるが、まだまだ基本的な整備活動が必要な場所が多くあり、「尚綱里山エリア」の全体的な整備や計画策定が必要。
- ・実際に里山での整備活動に参加し、机上の学びでは得られない体験ができた。とても楽しかった。
- ・多くの人が「里山」を知り、体験してもらいたいような取り組みを行ってほしい。

実績報告とりまとめ表 (2021年7月～2022年6月)

実施時期	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	合計	
事業内容	整備活動①	11	—	—	—	36	15	—	—	13	18	15	30	138人
	整備活動②	11	12	9	—	11	6	—	—	—	12	11	—	72人
	勉強会 報告会	15	—	—	—	—	—	15	—	—	—	—	—	30人
	体験会	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合 計													240人	
実施場所	宮城県名取市ゆりが丘4丁目10番1号													

手入れされていない森林の再生整備と活用事業

なか自然の会

〒319-2104 茨城県那珂市平野 1800-395

1. 活動の概要

- ・手入れされていない里山林（約5ha）の内1haを下草刈りと間伐を毎月1回実施することで明るい陽の光が入る森林に再生させる。同時に周辺の荒廃した山林が太陽光発電に変貌することを防ぎたい。
- ・前年度に造成した見晴台の周辺に丸太小屋やベンチ及びシーソー等の遊具を配置することで子供達が活動できる場にする。
- ・林内を整備する過程出来る作業道路を遊歩道に使用できるように整備することで家族連れやハイカーが訪問できる場所を提供する。

2. 活動の成果

- ・コロナの影響で森林ボランティア体験会・地域住民参加の行事が大部分中止になった。その中でも毎月1回の定例活動を継続して実施してきた。その結果林内の下草刈りや伐採を通して整備が進んでいる。ただ11月以降ナラ枯れ対策が主体となり森林整備に遅れが発生した。
 - ・丸太小屋やシーソーは完成したが更に充実させ多くの住民が楽しめる場にして行く。
 - ・林内の遊歩道は道路の整備や補強、案内看板の充実で安全なハイキングロードになった。
- 「今後の取組」
- ・令和3年度実施出来なかった地域住民向けの森林体験や植物観察を再開させる。
 - ・冒険の森内の施設の増設を図りより安全に楽しめる場を提供する。次年度2haまで拡大。

3. 参加者の声

- ・安全で歩きやすくなった。
- ・静古道コースと連動し歩く会を開催してほしい。
- ・こんな近場にこのような場所があることを知らなかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期		定例活動	10月29日 11月20日	計	備考
事業量 又は 事業内容		毎月1回土曜日 伐採・草刈:7月2回, 8月1回,9月1回, 10月1回,11月1回, 12月2回	森林体験 ・東京から (19名) ・高萩の小学生 (18名)		冒険の森活動日 1月1回,2月2回, 3月1回 計12回
参加者数	県内	99人	41人	140人	
	県外	2人	19人	21人	
	計	101人	60人	161人	
実施場所		茨城県 那珂市瓜連地区			

ヤマアジサイの森の調査隊と山のボランティア育成

倉淵ヤマアジサイの会

〒370-0886 群馬県高崎市下大島町 36-2

1. 活動の概要

ボランティアが高齢化して後継の人材が必要です。また、森林保護に携わる人材が少なくなってきました。そこで、私たちの保護しているヤマアジサイの森の調査を兼ねた清掃活動に参加して、山に親しみを感じていただけたらと思いました。

講義と調査・清掃、山の落ち葉のしおりづくりなどを企画していましたが、今回は、コロナの緊急事態宣言下、また、当日は台風14号が直撃の予報となり、大幅な予定変更を余儀なくされました。参加者につきましても、申し込み者のキャンセルが相次ぎましたが、前日に少年サッカークラブから試合が雨で中止になりかねてより自然に親しむ活動をしているので参加させていただきたいと、12名の子供と保護者の申し込みがあり参加者が予定者より増えました。今後、雨の日の対応をもう少し強化したいと思いました。

当日の雨は、嵐というほどではありませんでしたが、しとしとと降り続き山の見学はできませんでした。そこで次のような活動を行いました。

9:30 開会、挨拶、当日スケジュール発表など

9:40 講義○環境問題について（原田邦昭氏・環境アドバイザー）

○身近な面白い植物（田中和夫氏・環境アドバイザー）

○コロナ下の山登りの楽しみ方（中山直樹・環境アドバイザー）

○森の楽しみ方（渡辺克枝・森林アドバイザー）がそれぞれお話してくれました。

10分休憩

10:40 アジサイはどんな花？・はまゆうの森のアジサイについて（廣瀬節子・倉淵ヤマアジサイの会）のお話、その後パネルを見ての講義となりました。

11:10 より100キロマラソンに出場している田中和夫氏による、疲れない走り方と山の活動時の足への負担の軽減についての講義とプチ体験

11:30 よりはまゆう山荘館内2か所を移動して、ツルのアジサイの見学をしました。

20分休憩 この間ヤマアジサイの質問会をしました。

12:50 終了式を行い、その後解散となりました。

2. 活動の成果

バスを借りることができ、市内から若い親子が参加することができました。ヤマアジサイの森は市内から遠くバスを利用できたので参加者が増えたと思います。参加者から道を覚えたので今後は清掃活動にも個人でも参加したいと言ってくれました。山の活動に対して理解が進んだと思います。

コロナ下であっても開催できたことに感謝申し上げます。

これからも、バスを利用した企画を実施して、参加者を確保したいと思います。

3. 参加者の声。

今回は、参加してくださった方が比較的若く、中学生以下が15名参加してくれました。コロナ下で自然体験できる場が少ないので、ヤマアジサイの森に来て話を聞いたことを大変喜んでくれました。また、参加させてくださいと声をかけられました。

コロナ下であっても安心して実施できるこのような活動ができたことに感謝します。

実績報告とりまとめ表

実施時期		月日	月日	計	備考
事業量 又は 事業内容	ボランティア 育成	9月18日		42人	
	県内	42人	人	42人	
参加者数	県外	人	人	人	
	計	42人	人	42人	
実施場所		群馬県 高崎市・町			

開発跡地での都市部と秩父の植樹・森林活動と交流促進

秩父 FOREST

〒152-0021 東京都目黒区東が丘 2-13-25

伊佐ホームズ(株) 駒沢支社内

1. 活動の概要

森林や木材のモノやコトを都市部に伝え、持続可能な森を創る時間を共有するために、植樹・インタープリテーション研修を通して都市部の人々に森の大切さを理解して貰う。

2. 活動の成果

実施活動：企業植樹会・インタープリテーション研修会

企業植樹会：目的：参加した方は秩父は初めての方も多かったが、里山にはない奥深さと秩父独自の魅力を感じてもらえた。林業、自然環境などさまざまな視点から秩父の森を知る機会を得た。築200年の古民家を訪れ、その生活も感じる事ができた。子どもたちには植樹体験で木の大切さ、森の大切さを実感してもらえた。企業にも呼び掛け、社員の家族に参加してもらえたので、これを機会に今後も企業に呼びかけていきたい。

インタープリテーション研修会：産業能率大学高原純一先生のゼミ生が参加。学生たちの若い感性がとらえた森を発表してもらった。オリエンテーション・講義・フィールドワークの組み合わせで、学びと体験と発表を行った。彼らをきっかけとして、その友人たちも今後森を訪ねてくれることが大いに期待できる。

3. 参加者の声

- ・高尾山に登ったとき、これまでは高尾山にどんな動物が棲んでいるのか知らなかった。これからは事前に調べたい。登る以外の楽しみ方もわかった。
- ・インタープリテーションの手法は森のみではなく日常的にも利用できる。
- ・最初は講義を聞いて難しそうだと思ったが、取り組んでみると楽しかった。
- ・今後はプレゼンテーションする時にテーマをしっかりと考えたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期		11月 日	4月～6月	計	備考
事業量 又は 事業内容	植樹会	企業植樹会			
	研修		インタープリテーション研修		
参加者数	県内	10人	20人	30人	
	県外	70人	120人	190人	
	計	80人	140人	220人	
実施場所		埼玉県秩父市大滝村及び旧野外活動センター跡地			

大学生を対象とした森林環境教育プログラム

特定非営利活動法人 Peace Field Japan

〒101-0051 千代田区神田神保町1-4 豊明ビル301

1. 活動の概要

10月30・31日に、山梨県小菅村において、関東の大学生、留学生が森林保全活動体験を通して森林の大切さを学び、中山間地の地域社会の生活や文化、直面している課題にふれて行動につなげる環境教育プログラムを実施した。

1日目は、森林のサイクル、里山地域の価値や課題について学ぶ里山講座を行った。森に支えられてきた里山地域の暮らし、文化、課題と課題解決への取り組みなどについて、プログラムのフレームとなる知識を学んだ。次に、村民の案内で集落を歩き、森や自然と密接な暮らしの様子、森の荒廃や獣害などの課題にふれ、野菜の収穫も体験した。郷土料理作り体験では、ほうとうを打ち、堆肥で育てた採りたての野菜やきのこ煮込み、森の恵みを感じた。

2日目は、森の除伐作業を行い、森のサイクル、森林管理の必要性を学ぶと同時に、その大変さを実感した。近くに住んでいる人が、除伐した木を薪にしたいということで、除伐した木を切りそろえる作業も行い、限られた範囲ではあるが、森が明るくなったことに達成感を得ながら、木を利用する暮らしもイメージすることができた。また、間伐材を使つての伝統の箸作りを体験し、木を利用する文化にもふれた。道の駅を視察、木を活用する特産品開発の様子や、村の取り組みのひとつであるティニーハウスも見学した。最後のまとめの振り返りでは、参加者それぞれが体験を自分の事化するために、森とどう関わっていくのかをテーマに意見や感想を共有した。

2. 活動の成果

若者のSDGsへの意識の高まりもあり、参加者全員が、持続可能性に高い関心を有し、関連する授業を履修していたり、学内の活動に参加していたりしたが、実際に里山地域で体験活動を行うのは初めてという参加者が大半だった。村民とふれあひながらの体験を通して、自然と共にある手間ひまかける暮らしの精神にもふれることができ、表面的な体験ではなく、深く考えることができたという声が聞かれた。

今回は、体験活動のフレームとなる里山講座を冒頭に実施したことで、体験活動での気づきをそれぞれが体系化することができた。野菜の収穫体験や郷土料理作り体験では、森や自然があるからこそ、自然のサイクルに基づく暮らしや知恵があることに気づき、食べ物、文化、暮らしのすべてが自然と密接な関係にあることを見いだすことができたようだ。暮らしの拠り所である森が、社会状況の変化の中で大きな課題に直面していること、都会の暮らしと密接に関わっていることを改めて知り、実際に管理作業を体験してその大変さを実感したことで、自分のこと化ができた様子が伺えた。まとめの振り返りで、今回の体験を通して、自分が森や自然とどう関わりたいかを共有する中で、周囲に伝えることが大切だ、ボランティアとして森林管理作業に関わっていきたいという声が多く上がり、当事者意識が芽生えたことは大きな成果だった。

今後も、今回の参加者に小菅村での森に関する活動の情報や行動できる場を提供していきたい。

3. 参加者の声

- ・森を守ることは簡単ではないということを実際に体験して実感した。
- ・初めて森を管理する作業を体験した。とても疲れたが、わずかだが森を明るくすることに貢献できてうれしい。
- ・森を管理することは、50-60年先の未来を見据えて行動することだと思った。
- ・森の課題は、他人事ではなく、都会にいても自分のこととして捉えなくてはいけない課題だと思った。

- ・今後も、除伐などの手伝いに訪れたい。
- ・里山で暮らす人たちにとって、自然や森は家族のようなものだった。いつもそばにある身近な存在。だからこそ、手間と時間をかけて自然や森を大切にしながらの暮らしがある。
- ・里山の生活の土台に自然がある。自然は、人が生きていくために必要不可欠なもの。里山は都会、海にもつながっているから、すべての土台なのだと気づいた。
- ・小菅村では、多摩川上流地域の責任を果たすために環境保全に力を入れているということが印象的だった。
- ・水や野菜など、これまでは、その“もの”が自分の手元に届くまでの背景を意識したことがなかった。これからは意識するようにしたい。
- ・里山には、現代に通用する“伝統”が継承されていると思った。その伝統は、古いものを維持するだけでなく、新しいものを足しながらつなげていくものだと気づいた。ドローンなど新しい技術を取り入れながら課題解決に取り組んでいるのが素晴らしいと思った。
- ・その土地土地の自然と密接に関わっているからこそその郷土料理の伝統文化があることを実感した。文化も自然があるからこそ育まれると気づいた。
- ・持続可能な社会を実現したいと常々思ってきたが、里山地域ではそれが成り立っていると感じた。里山では当たり前に行われていることが、都会では難しい。しかし、その精神を持ち、できることはある。意識を持って行動することの大切さを実感した。
- ・参加したことで終わらせず、周りにもこの体験を共有していきたい。
- ・より多くの人たちが当事者意識を持つことが大切だと思った。今回学んだことを周りに伝えたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期		10月30日	10月31日	計	備考
事業量 又は 事業内容		<ul style="list-style-type: none"> ・里山講座 ・集落オリエンテーリング ・郷土料理作り体験 	<ul style="list-style-type: none"> ・森林保全活動 ・間伐材を使った箸作り体験 ・道の駅視察 ・まとめワークショップ 		
参加者数	県内	人	人	人	
	県外	20人	20人	20人	
	計	20人	20人	20人	
実施場所		山梨県小菅村			

子ども樹木博士認定活動を活用した森林環境教育の推進

子ども樹木博士認定活動推進協議会

〒112-0004 東京都文京区後楽 1-7-12

林友ビル (一社) 全国森林レクリエーション協会内

1. 活動の概要

子ども樹木博士認定活動を通じて森林環境教育の普及を図るため、本活動の実施状況や実施団体のデータの取りまとめ、活動の進め等の資料の提供、機関誌の発行・配布、ホームページの更新等を行うとともに、リーダーの研修を兼ねてみどりとふれあうフェスティバルへの出展、子どもたちに森林等への関心を持ってもらうためイベントに参加し、森林環境教育を実施した。

2. 活動の成果

(1) 子ども樹木博士認定活動の実施状況

実施団体からの報告から、延べの実施回数・参加者数は14回・約3.2百人、地域ごとでは9都道府県、11団体による実施となっている。

新型コロナウイルス感染症のため、計画した子ども樹木博士認定活動が中止になったり、イベントが開催できなかつたりと子ども樹木博士認定活動を実施するには厳しい状況が続き、当協議会が把握できた実施状況は少数に止まった。

(2) 子ども樹木博士認定活動の実施団体

平成12年度以降に実施報告のあった団体等は、累計で45都道府県・345団体となっている。

(3) 認定証等の配布・子ども樹木博士認定活動の開催案内等

認定証や樹木ガイド、その他の参考資料を配付するとともに、子ども樹木博士認定活動の開催の問い合わせに対しイベントの紹介等を行った。(認定証の配布:478枚、樹木ガイドの配布:5冊)

新型コロナウイルス感染症のため、子ども樹木博士認定活動の開催が少数であったこともあり、認定証、樹木ガイドの配布も少数となった。

(4) 機関誌の発行・配布、ホームページの充実等

機関誌「子ども樹木博士ニュース」を年4回(9/1・12/1・3/1・6/1)発行(1回当たり約850~900部)し、会員や実施団体、都道府県、森林管理局・署、関係団体等に配布するとともに、ホームページの更新等を行った。

(5) 新たな実施団体の掘り起こし

ホームページや情報誌「子ども樹木博士ニュース」などを通じて照会のあった団体や資料請求のあった団体等に対して、冊子「認定活動の進め方」、パンフレット「子ども樹木博士のすすめ」などを配布し、実施団体の拡大に努めた。

(6) イベントへの参加とリーダーの研修

リーダーの研修を兼ね「みどりとふれあうフェスティバル」に出展参加し、子ども樹木博士認定活動を実施した。森林環境教育を実施している4名の大学生が参加し、森林インストラクターとともに子ども樹木博士認定活動を実施した。また、「木とあそぼう森をかんがえよう with more trees」に参加し、樹木の不思議をアクティビティにし樹木に関心をもってもらうプログラムを実施し好評を得た。

ソフィアの森の整備

上智大学大学院地球環境研究科

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1

1. 活動の概要

2021年度においては、コロナ禍のために、前年度に引き続いて研修旅行等のフィールド学習機会への学生の参加が行えない状況が続いたため、公募に応じた地域住民約20名を主たる対象として、ソフィアの林内を歩く散策イベントを実施した（令和3年度において5回実施）。本イベントによって収集したアンケート調査等のデータについては、上智大学学術研究特別推進費重点領域研究：「森林環境の生態系サービスの実現のための革新的手法と戦略についての研究：持続可能な地域づくりをめざして（イノフェスプロジェクト）」のケーススタディの一環として、調査分析を行った。また、整備済みの歩道の維持管理および、新規ルートの整備については、従来学生の体験活動としても実施していたが、コロナ禍のために行えなかったため、イノフェスプロジェクトの資金および本基金を活用して主として委託により実施した。一方、歩道に設置する看板や案内表示、付帯するウェブサイト等の整備については、職員が自ら実施した。

2022年度の前半においてもコロナ禍が継続しており学生の参加ができない状況が続いたが、前年度までに実施した市民を対象としたイベントが好評であったことから、公募に応じた市民を対象とした森を歩く市民講座を5回計画し、7月までに3回実施した。

2. 活動の成果

上智大学大学院生、教員、環境専門家、地域NPO、森林管理署職員、森林組合職員と共同で、自然生態系の観察、生物多様性の増進活動、森林体験活動など総合的な環境学習・ESDを目指しフィールドの整備を長野県軽井沢町浅間山国有林で行った。具体的には、歩道・広場の整備、森の観察昆虫生息調査、地域のNPOとの協働による自然観察イベントの実施、森林保全の教育活動などを行った。2021年7月～2022年7月までに実施した6回のイベント・市民講座や現地におけるその他の活動には、延べ約103名が参加した。イベント・市民講座には、地元在住の森林管理局OBや町議会議員も特別アドバイザーとして参加をいただき、また、地元の軽井沢FM放送や信濃毎日新聞の取材も受けるなど盛況であった。

3. 参加者の声

参加者からは、地元の森林を改めて体験する貴重な機会となったと共に、森林保全について実地で楽しく学ぶとても良い機会にもなったという声が聞かれた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	2021年 7/24	2021年 10/31	2021年 11/20	2022年 5/8	2022年 6/5	2022年 7/3	左記 以外		合計
事業内容	散策イベント・市民講座の実施 ※イベント当日の活動以外に、現地の管理や準備作業などその他の活動がある (左記以外の欄に記載)。								
参加者数	県内	15人	15人	6人	10人	12人	12人	4人	74人
	県外	2人	3人	3人	3人	3人	3人	12人	29人
	計	17人	18人	9人	13人	15人	15人	16人	103人
実施場所	長野県軽井沢町（浅間山国有林）								

安全で楽しい森林の保全・利用を指導できるリーダー養成講座

モリダス

〒194-0211 東京都町田市相原町 930-2

1. 活動の概要

安全で楽しい森林づくり活動を推進するためには現場リーダーの養成が必要と考え、段階的に知識・技術を習得できるように講座を開催した。step1で「手道具の扱い方」、step2で「ロープワークと牽引システム」「折れ曲り線とツルづくり（受け口・追い口）」、step3で「手道具とロープによる安全な伐木」を学び、各stepの審査を通過した人が次の段階へと進めるという体系的なプログラムを実施した。また、昨期はコロナ禍のために別の内容に振り替えた「野外活動における安全管理とコミュニケーション」を実施したほか、「手道具による玉切り・枝払い」「伐木を想定した安全管理研修とフォローアップ」を初めて実施したところ、一定のニーズがあることを確認できた。今期で講座サイクルが二巡したことで、プログラムの改善と体系化を進めることができた。

一方、関東地方にナラ枯れ被害が急拡大している現状を踏まえて、オンライン連続学習会「ナラ枯れ被害の現在と伐採更新の可能性」を開催したところ、100名に迫る参加申込みがあった。ナラ枯れは、今後の里山保全・森林づくりに再考を迫るものなので、関連する動画「ナラ枯れを防ぐ!? 順応的管理のノウハウ」を制作したほか、森づくりの目的について考える「ミルマップ・ワークショップ!」の紹介動画も制作しネット上に公開した。また、ナラ枯れ・安全管理・コロナ対策等について、森づくりボランティア同士で情報を交換する機会を設けたことにより、横浜・多摩地域の団体はもちろん、地域外の団体も含めてネットワークを強化できた。

2. 活動の成果

現場リーダーを養成するための体系的な講座のほか補習や追加的な研修も実施したことで、安全で楽しい森づくりの知識・技術を普及できた。また、ナラ枯れ契機として森づくりの目標を考えるための動画教材を制作・ウェブ公開したほか、オンライン学習会にも多くの参加者を集めることができた。こうした事業を通して、横浜・多摩地域はもちろん地域外の団体も含めてネットワークを強化できた。

3. 参加者の声

「座学と実習を通じて、時間をかけてかつ経験しながら学ぶ大切さを改めて知りました。」

「充実した講習会に参加させて頂き大変にありがとうございました。」

「先日のオンラインシンポありがとうございました。得るものが多い行事でした。」

実績報告とりまとめ表

実施時期	事業内容	参加者数	実施場所
10/23-10/24	<森づくりレベルアップ研修> Step1 「手道具の扱い方」	(10/1) 11	神奈川県 横浜市
11/7	追加「手道具による玉切り・枝払い」	(8/0) 8	
12/11, 1/10, 1/22	Step2a 「ロープワークと牽引システム」	(13/2) 15	
2/26, 3/5, 3/12	Step2b 「折れ曲り線とツルづくり」	(6/0) 6	
5/1, 6/11	補習「伐木を想定した安全管理」	(6/1) 7	
5/29, 6/26	Step3 「手道具とロープによる安全な伐木」	(6/1) 7	
1/29-1-30	野外活動における安全管理とコミュニケーション	(6/6) 12	東京都
6/14, 6/21	学習会「ナラ枯れ被害の現在と伐採更新の可能性」	(不明) 93	多摩市
計		(県内 55/ 県外 11/ 不明 93)	159

森林空間を活かした不登校児のための居場所と学び舎「森のかっこう」

森のかっこう

〒501-3743 岐阜県美濃市上条 1371-2

1. 活動の概要

コロナをきっかけに増えている不登校児が、健康な心と体を育むことを目的に、子ども達が考えたデザインを元に、山の竹を自ら切り出し、小屋作りを行った。

2. 活動の成果

今回の活動によって、不登校児の居場所ができ、そして、不登校児を持つ親の居場所ができた。今後も不登校児が森と親しみながら健康な心と体を育むことができる活動を続けていきたい。

3. 参加者の声

- ・小屋作りを通して、大人と子ども、参加者それぞれが、たくさんのことを学んだなあと思います。立場や考えが違っていたこともあるけれど、それでも、こうして何らかの形になり、それぞれがそれぞれの形で満足できる場であったのではないかな？と感じました。
- ・森のかっこうは、「社会的に問題を抱えているように見える」子どもを持つ親のための大事な場所になっていたなと思います。

森のようちえんと小規模特認校の連携による、保幼小中一環となった 「森と自然を活用した保育・教育」実践モデル構築事業

一般社団法人 びわ湖の森のようちえん
〒520-2134 滋賀県大津市瀬田一丁目11-25

1. 活動の概要

◆目的：「森と自然を活用した保育・教育」の展開のモデル手法の開発を通し、保育・教育の質の向上や、農山村地域の活性化に寄与する。また、成果について情報発信を行う。

◆内容：滋賀県内の小規模特認校である大津市立葛川小中学校、森のようちえんえくぼ保育園、せた森のようちえんの教員・保育者を中心に、自然教育研究会を立上げ、以下事業を実施。

1. 「自然保育・教育連携研究会」の実施

①保育者・教員実地研修：森のようちえんおよび小規模特認校にて計5回実施。小学校教員が森のようちえんへ、森のようちえん保育者が小規模特認校へ、それぞれ保育・授業を参観・参加し、職員・児童と交流。保育・授業後、振り返りを行い、学びと育ちの連続性について意見交換し、各自の保育や授業に活かす視点を持ち帰った。②園児・児童交流：小規模特認校にて1回実施。縦割りグループで交流および保育者・教員間での振り返り・意見交換を実施。③先進地視察：森のようちえんと小規模特認校それぞれの先進事例として、長野県伊那市（山のあそび舎はらぺこ／伊那市立伊那西小学校）を訪問。保育参観、授業参観、職員意見交換を実施。④合同教育研究会：小規模特認校にて授業参観の後、研究発表会を開催。外部講師（上越教育大学大学院・山口美和氏）による基調講演の後、各校園より事業報告を行い、地域の方を交え意見交換を行った。学び・育ちのキーワードの抽出、今後の展望等を共有できる時間となった。

2. 連携の取組み内容や成果をまとめたパンフレットの作成・情報発信

上記4事業をまとめ、リーフレットを2000部発行、県内の教育・保育関係者に配布した。

2. 活動の成果

保幼小中連携は全国的に取り組みがあるが、森や自然を活用した保育・教育としての連携は新たな視点で育ちをつなげていくことができ、かつその事例の中でも、「理念が共通」している本学校園として、互いの保育教育の本質を確認でき、連携のスタートがきれた。次年度も保育者教員と一緒に保育や授業をつくっていくことや、育ちのつながりを言語化するための研究会を実施していきたい。

3. 参加者の声

◆保育者の声

・“できないこと・もっとうちの方がよいこと”ばかりではなく、学びの本質に視点を当て、未来に種を播く、対話の場を一緒につくる、そんな機会ができて嬉しい。

◆教員の声

・中3生が受験に向かうとき、今までのプロジェクト学習等の経験が生きてはくると思うが、入試という制度が大きく変わらない中、どう支えていくかを考えている。子どもたちは夢を持って選択していつている。夢は変わっていても良いが、自分の道を歩んでいつてほしい。

◆地域の方の声（小規模特認校が所在する大津市葛川地区）

・小規模特認校制度導入当初は不安だったが、支持を得られている。「主体性の連続性」今後は一貫したストーリーが必要だと考えている。今後も意見交換を深めていきたい。子どもたちがもっと生きやすく、自分らしさを出せるよう、個別教育がもっと一般化していけばと願っている。

実績報告とりまとめ表

実施時期	21年10月8・15日／11月8・25・26日	21年11月19日	21年11月22日	22年2月9日	22年6月	
事業内容	①保育者・教員 実地研修	②園児・児童交 流	③先進地視察	④合同教育研究 会	情報発信／リー フレット作成	
参加者数 (のべ)	県内	大人41人 子ども115人	大人16人 子ども39人	大人10人 子ども0人	大人21人 子ども0人	左記①～④の事 業のまとめを掲 載したリーフレッ トを作成。 発行部数：2000部 配布先：行政、県 内の学校園
	県外	大人0人 子ども0人	大人0人 子ども0人	大人11人 子ども74人	大人1人 子ども0人	
	計	155人	55人	95人	22人	
		327人				
実施場所	滋賀県大津市／長野県伊那市					

陀羅尼助（だらにすけ）の郷で森林づくり in 天川村洞川 part 2

奈良県森林ボランティア連絡協議会

〒634-0033 橿原市城殿町459番地

公益財団法人 奈良県緑化推進協会内

1. 活動の概要

県内各地等で活動する森林ボランティア団体のリーダー養成・ネットワーク構築や、森林づくり活動を通じた農山村と都市住民との交流のために、奈良県天川村洞川温泉周辺にて、下記事業を実施する。

- ・昨年度植樹したキハダの育林のため、下草刈りを行う。
- ・人工林皆伐地にキハダを下草刈りから始め、地拵え、植樹、食害防止柵設置までを行う。
- ・「キハダの木材利用」、大峰山寺の玄関口「大橋茶屋」の取組み、鹿撃ち猟師の講演を行う。
- ・天川村が取組む人工林皆伐地の再造林事業で植樹作業を行う。
- ・アロマオイル工房を視察する。

2. 活動の成果

- ・キハダ苗木60本を植えるために地拵えから始め、食害対策用柵設置までを参加者と地域住民と協働して行った。
- ・村の事業で進められている1.5haの皆伐地に広葉樹中心とした森づくりされているところでキハダ約300本の植樹を手伝った。新しい森づくりを体験し、今後も協力していく関係が出来た。
- ・本格的な場所での下草刈り、地拵え、植樹、獣害対策用柵設置をした体験は、森林ボランティア活動に必要なスキルアップが出来た。
- ・森づくりを通じて森林ボランティア団体のリーダー養成とネットワーク作り、農山村と都市住民との交流が出来た。

3. 参加者の声

- ・人工林皆伐跡への植樹であったので、作業の大変さが体験でき良かった。
- ・村が進める広葉樹の森づくりの参加出来て良かった、今後の成長が楽しみ。
- ・キハダの講演を聴いて、広葉樹の育林はこれからの研究課題であることが解かった
- ・鹿の樹木食害が地滑り、土砂流出の原因になっていること知り驚いた。
- ・アロマオイル製造をされていると聞き、村の産業に育ってほしいものだ。

実績報告とりまとめ表

実施時期		7月22日	11月11日	11月20日	11月21日	合計
事業量 又は 事業内容		令和2年度植樹地下草刈り 約500㎡	今年度植樹地の下草刈り 約500㎡	・地拵え及びキハダ60本植樹 (食害対策用柵設置まで含む) ・講演2話	・みらい基金の森にて植樹 キハダ300本 ・アロマオイル工房視察	
	参加者数	県内 4人 県外 1人 計 5人	4人 0人 4人	23人 3人 26人	20人 2人 22人	51人 6人 57人
実施場所		奈良県吉野郡天川村				

里山・自然体験リーダー・インストラクター人材育成@東広島

森林ボランティア団体もりゆう

〒739-0144 広島県東広島市八本松南 3-8-9

1. 活動の概要

森林を活用した自然体験活動を実施できる人材が増えることにより、森林環境教育がより多くの青少年に提供されて普及啓発に繋がる。また、人材ネットワークが形成されることにより情報交換や連携が図られ、自然体験やそれに際する森林利用における質の向上が期待できると考え、東広島において身近な森林や里山を整備したりしながら利用して、自然体験活動や森林環境教育を提供できる人材を育成することを目的に、研修や勉強会を実施した。

具体的には、森林や里山についての基本的な知識や整備計画を学ぶ研修会、自然体験を実施する際の心構えや考え方を学ぶとともに、自分たちで実際に企画・実践を行い振り返りを行う自然体験インストラクター講座、自然の中での遊び方や人との関わり方を指導方式ではなく、コミュニケーションを取りながら楽しく遊びながら繋がるあり方を体感する研修会を実施した。

2. 活動の成果

森林や自然体験に興味がある人達が参加し、それぞれのフィールドに持ち帰って自分たちの活動に活かしたり、参加者同士で繋がって情報交換してその後も一緒に企画をしたりなどの連携も生まれていた。今後はさらに実施できる人材を育成して増やしていくことや、課題を共有したり学びあう連携の場をつくったり、支援したりする仕組みづくりができたかと考えている。

3. 参加者の声

(森林づくり講演会) 森林づくりを時間軸で考える大切さ、目的を持って計画を立てることの大切さに気づいた。森の中はとても好きだが保全のことは人任せにしていると思った。山歩き時の視点が変わりそう。

(自然体験インストラクター講座) 今回考えた企画を自分のフィールドでもやってみたい。自然体験指導者に必要とされることを学べたのが良かった。こういう活動では仲間が大切なので繋がれて良かった。

(自然体験コミュニケーション研修会) 大人も子どもも関係なしに繋がり過ごす空間が響きあって心地よかった。森の中でいろんな植物や菌と一緒に生きているのを感じた(土を掘った子ども)。

実績報告とりまとめ表

実施時期		10月23,24日	1月8,9,16日, 2月6日	5月20,21,22日	計	備考
事業量 又は 事業内容		森林づくり講演 会＋フィールド 実習	自然体験インス トラクター講座	自然体験コミュ ニケーション 研修会	3回	
参加者数	県内	38人	4人+12人(※)	のべ106人	172人	※実践イベン ト参加者
	県外	1人	0人	2人	3人	
計		のべ39人	のべ28人	のべ108人	のべ175人	
実施場所		広島県 東広島市 志和町				

徳島県森林づくりリーダー養成講座

とくしま森林づくり県民会議

〒770-8570 徳島県徳島市万代町1丁目1番地

1. 活動の概要

県民、企業・団体等の森林づくり活動に対して関心が高まり、活動の支援を行うため、県内に公募し、新たに森林づくりの指導者（森林づくりリーダー）を養成（認定）する講座を実施した。

さらに、これまでに森林づくりリーダーの認定者に対して、スキルアップ及び森林づくり活動の幅を広げるためのステップアップ講座も実施した。

2. 活動の成果

○森林づくりリーダー養成講座

9月18日から12月11日にかけて、基本講座8回を実施した。

受講生18名のうち、17名が認定基準（講座受講の7割受講）を満たし、

令和3年度「徳島県森林づくりリーダー」として認定された。

今後は、養成した森林づくりリーダー資格者名簿を作成し、県内の学校関係や野外活動施設等に送付し、森林づくりリーダーとして活動を行う。

○森林づくりリーダー・ステップアップ講座

11月13日、12月4日、1月20日、3月13日の4日間、より専門性の高い講座を実施し、リーダー既認定者の29名がスキルアップを図った。

3. 参加者の声

- ・講座を通じて知識が深まった。山の楽しさ、気持ちよさ、素晴らしさを伝えていきたい。
- ・自然環境を大切に育てていくには地道な活動の継続が大切であること実感した。
- ・教えてくれる人も少ない中、このチャンス（講座受講）を頂き感謝している。
- ・今後は、森づくり活動に携わっていきたい。
- ・子供たちと山に入ったり自然について学んだり触れたりしていきたい。
- ・山の大切さ守るべき自然を、体験を通じて未来を担う子供達に教えていきたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期：令和3年9月18日～令和3年12月11日	計8日（基本講座）
：令和3年11月13日～令和4年3月13日	計4日（ステップアップ講座）
事業量：基本講座8回 ステップアップ講座4回	
参加者：県内18名 県外0名 計18名（リーダー養成講座：認定者数17名）	
：県内29名 県外0名 計29名（ステップアップ講座）	
実施場所：徳島県 名西郡神山町、勝浦郡上勝町、徳島市入田町、美馬市美馬町	

地域で育てる緑の少年団～森の学校の開催～

緑の少年団愛媛県連盟

〒790-8570 愛媛県松山市一番町4丁目4-2

1. 活動の概要

緑の少年団は、県内各地で他地域では見られない特色ある活動を実施しており、そのような先行事例を「愛媛県緑の少年団活動発表大会」において発表を行い、情報共有することで、森林ESDの普及につなげるとともに、少年団活動の幅を広げる機会とする。

さらに、発表概要は別途冊子にまとめることで、発表大会に参加できなかった少年団、結成を検討している学校に対しても広く取組みを周知し、さらなる少年団活動の発展を図る。

2. 活動の成果

今年度の「愛媛県緑の少年団活動発表大会」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、初となる録画形式で開催したところ、県内各地から4団が参加した。

日吉みどりの少年団は、地元企業協力のもと森林教室を開催しており、地域で林業に携わる人々と直接接することで、林業に対する興味促進に大いにつながる活動を実施していることを報告した。そのほか、清掃活動など地域と協働した活動を展開しており、こうした活動が地域の魅力を再認識するための貴重な機会となっているだけでなく、地域活性化にも大きく貢献していることが評価されたことから、最優秀賞を受賞した。また同団は、全国緑の少年団表彰においても、最優秀賞となるみどりの奨励賞を受賞し、大変優秀な成績を収めている。

そのほか活動発表大会では、他地域には見られない特色ある活動を展開している少年団の先進事例が報告され、知見を深めるだけでなく、森林ESDの普及にもつながり、少年団活動の幅を広げる機会となった。

そして、発表概要をまとめた冊子を作成し、広く配布を行ったことで、学校・林業関係者のみならず、緑の少年団活動を知らない一般県民に対しても、活動内容を周知することにつながった。

3. 参加者の声

- ・「愛媛県緑の少年団活動発表大会」に参加させてもらえたことで、これまでの活動内容を振り返る機会となり、学びが深まった。
- ・「緑の少年団だより」には、各少年団の取組が掲載されており、今後の少年団の活動内容を思案するうえで大変参考になった。

実績報告とりまとめ表

実施時期		月日	月日	計	備考
事業量 又は 事業内容	緑の少年団	11月中			
参加者数	県内	20人	人	20人	
	県外	0人	人	0人	
	計	20人	人	20人	
実施場所		オンライン開催			

令和3年度 森林ボランティアリーダー養成講座

情報交流館ネットワーク

〒782-0078 高知県香美市土佐山田町大平 80 番地

1. 活動の概要

森林環境学習や自然体験活動の指導者の養成及び、森林ボランティアとして森林整備の第一線で活躍するリーダーを養成するとともに、木育や木使いなど木材利用を通して、森に親しみを持ち、森林環境の重要性を普及啓発することの出来る人材を育成する。そして、この事業で生まれた森林ボランティアリーダーのネットワークを活かし、国民参加の森づくり運動を推進する。

2. 活動の成果

参加者の中から新たにボランティアリーダーとして登録される方、参加した講座を主催するボランティア団体に興味を持ち、団体に加入する方が多くみられました。又、同じ講座に参加した方々で、新たな同好会を発足させて活動を継続する動きも見られました。

ボランティアリーダーのスキルアップや団体活動のサポートを継続して行い、国民参加の森林づくり運動の推進により貢献出来る様にしていきます。

3. 参加者の声

■知りたいと思っていたチェーンソーの使い方を丁寧に教えて頂き、とても良かったです。木の伐り方の技術やコツなど奥が深く勉強になりました。実際に山で木を伐るとはどういう事か、とても学びがありました。■竹の切り出しから仕上げまで一連の工程を学ぶことが出来て大変有意義でした。昔から竹細工をやってみたかったので、今回の講座をきっかけに続けていきたいと思えます。■電動工具を使わず、木と対話しながらの木工を楽しめました。丸太からイスができたことにとっても感動しました。■炭焼き、七輪、駒打ち等、普段の生活と離れた貴重な体験が出来ました。自然をうまく利用していくことや共存等気づくことが多い講座でした。■スプーン1つに想像以上に時間がかかりました。地元で同様のワークショップを実施したいと思いました。

実績報告とりまとめ表

実施時期		令和3年9月12日から令和4年3月20日まで							
事業内容	回数	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
チェーンソーを使ったアウトドア体験講座	7回	10名	9名	9名	7名	7名	7名	8名	57名
竹細工講座	4回		8名						8名
グリーンウッドワーク講座	4回					6名			6名
里山体験講座	2回					7名			7名
木のスプーンづくり講座	1回							8名	8名
計	18回	10名	17名	9名	7名	20名	7名	16名	86名
実施場所	高知県立森林研修センター情報交流館、館内及び自然体験ゾーン								

宮崎県みどりの少年団総合研修大会

宮崎県みどりの少年団連盟

〒880-0804 宮崎市宮田町10番28号

1. 活動の概要

(1) 宮崎県みどりの少年団総合研修大会

みどりの少年団活動発表会などを通じて相互交流を図ることにより、緑や森林の重要性について理解を深め、自然を敬愛する情操豊かな青少年を育成するため、県内のみどりの少年団と育成会が一堂に会し、研修大会を実施した。

(2) 携帯型図鑑の配付

森の恵みや森との関わり方を学び、自然を愛する情操豊かな青少年を育成することを目的として、県内のみどりの少年団員に身近な樹木や花について監修した携帯型の図鑑を配付した。

2. 活動の成果

(1) 宮崎県みどりの少年団総合研修大会

活動発表会は、各少年団の特色ある活動についての情報交換の場になるとともに、木工工作を通じて、各団との交流が図られた。

(2) 携帯型図鑑の配付

県内全ての少年団員に配付したことにより、身近な自然を学ぶ機会を提供できた。

3. 参加者の声

(1) 宮崎県みどりの少年団総合研修大会

キャンプファイヤーや催し物披露が中止となり残念だ。

活動発表会は、他の団の活動内容を知ることができ参考になった。

(2) 携帯型図鑑の配付

学校や家庭など身近にある花や樹木についてまとめた携帯できる図鑑で、しかも団員全員に2種類各1冊ずつ配付していただきありがとうございました。

実績報告とりまとめ表

実施時期		7月17日(土)	9月9日(木)	計	備考
事業量 又は 事業内容		宮崎県みどりの少年団総合研修大会 参加少年団数 3団 活動発表会 2団	携帯型図鑑の配付 県内みどりの少年団40団	2回	
参加者数	県内	少年団員 31名 育成会等 49名 スタッフ 22名 計 102名	少年団員 1,372名	1,474名	
実施場所		小林市ひなもり台県民ふれあいの森	県内全域		

山村地域の森の循環を学ぶ体験事業

特定非営利活動法人もりびと

〒890-0064 鹿児島県鹿児島市鴨池新町 27-2-510

1. 活動の概要

地域の森の有難さを知る為に、森をトレッキングする中で森の現状を知り、森の整備の方法、地域材の身近な有効活用の方法など循環社会を体験することを目的とする。

2. 活動の成果

昨年同様、コロナの影響で開催するか悩みましたが、地域の方々の山村地域活性化への思いがあり開催しました。

現在の森の現状を見ていただき、森の整備のやり方や間伐材や地域の木材を使うことで地域の森林の活性化につながることを知っていただきました。

この取り組みでもっと元気な森の農山村を育てることが出来ればと思っています。小さい取り組みかもしれませんが、今後も森林づくり活動や森林の総合的利用を通じた山村地域の活性化・地域づくりの運動を続けていきたいと思っています。

3. 参加者の声

今回製作したプランターやミニログハウスを購入できるシステムを作って欲しい。木材を使うことで活性化につながるのだと聞き、今後は積極的に木材を使っていきます。との声を頂きました。

実績報告とりまとめ表

実施時期		月 日	月 日	計	備考
事業量 又は 事業内容	・森林トレッキング体験	11月28日		19人	
	・森の整備体験	9月26日		21人	
	・木材の有効活用(2回)	8月22日	10月17日	45人	
参加者数	県内	60人	23人	83人	
	県外	2人	0人	2人	
	計	62人	23人	85人	
実施場所		鹿児島県日置市東市来町、伊集院町			

産学協同で取り組む「こどものけんちくがっこう」

NPO 法人 こどものけんちくがっこう
〒 890-0065

1. 活動の概要

令和3年度は、小学3年生から中学生までを対象に、森林から木材、木造建築に関する座学と実習を織り交ぜた対面（毎月）とオンライン（隔月）による授業を通年で実施した。対面授業は、鹿児島県の地方新聞や電車広告等を利用し公募を行い、47名（通年）の生徒が参加した。オンライン授業は、インターネットで全国から広く公募し、76名（年間合計）の生徒が参加した。対面授業では、木材を用いた家具の製作など、ものづくりを中心とした授業を行なった。オンライン授業では、昨年度同様、授業に用いる模型キット等を事前に郵送し、授業当日はZOOMで教室と生徒の自宅をつなぎ、座学と工作を組み合わせた授業を行った。また、海外在住の日本人に講師を依頼し、現地の住環境や住宅などについて、カメラで室内や街の様子を映しながらライブで解説をしていただく「世界の住まいを学ぶ」授業も行った。また、8月には夏期課外授業として、10名の生徒を対象に先端的なデジタルデザイン・ファブ리케이션による家具造りを実施した。

2. 活動の成果

昨年度は実施ができなかった対面授業を計10回実施した。オンライン授業は5回実施し、県外（北海道、東京、神奈川、埼玉、広島、福岡、熊本、佐賀、宮崎）からの参加者を得た。模型等の製作や、自宅を教材とした授業により、オンラインでも対面と遜色のない授業を実施することができた。活動は新聞（読売新聞など）やネットメディア（テラコヤプラス）で報道された。

3. 参加者の声

コロナ禍による制限の中、対面授業で得られる実感について大きな反響を得た。オンライン授業は昨年度同様、環境・建築に関する授業を自宅で気軽に受講できると好評で、参加者のリピート率が高かった。また、海外とライブでつなぐ授業は、質問等を交えた講師との双方向のやりとりは好評を得た。

実績報告とりまとめ表

実施時期		月日	月日	計	備考
事業量 又は 事業内容	1) 対面定期授業	1) 7/17, 10/16, 11/20, 12/18, 1/15, 4/23, 5/7, 5/21, 6/4, 6/18		1) 10日間	
	2) オンライン定期授業	2) 5/1, 7/3, 9/4, 11/6, 1/29		2) 5日間	
	3) 夏季課外授業	3) 8/2-22		3) 10日間	
参加者数	県内	96人	人	96人	
	県外	37人	人	37人	
	計	133人	人	133人	
実施場所		鹿児島県 鹿児島市			

国際交流

「自然の力を活用した課題解決」による 持続可能な社会づくりを目指すための国際シンポジウムの実施

公益財団法人 オイスカ

〒168-0063 東京都杉並区和泉 2-17-5

1. 活動の概要

Eco-DRR(森林などの生態系を活用した防災・減災)を包括しつつ、「自然の力を活用した課題解決」による持続可能な社会づくりを目指すため、一般市民を対象にしたシンポジウムを開催。

20世紀最大の環境破壊といわれるアラル海の沙漠化の状況を共有し、その対策としての緑化計画に代表されるモデル緑化事業の推進、青少年との地域課題への取り組み、持続可能な地域開発の実施や農業研修の推進と普及について、世界各地の実施事例をもとに発表。

2. 活動の成果

社会課題解決に向けた具体的な取り組み事例として、労使協働でのタイ ラーン県でのマングローブ植林活動、極端な乾燥と集中的な雨などの厳しい自然条件下でのミャンマー農村部の貧困を解決するための取り組みなどを共有することで、農業をはじめとした自然の力を活用することが社会課題への解決となり、気候変動への具体的な対策となっている事例を通じ、具体的な対策が、災害に強く、住み続けられるまちづくりにつながり、SDGs 達成へと結びつくことを共有できた。

シンポジウムでの事例共有を一過性のものにしなため、当日の内容を動画掲載サイトにて掲載。また、当日発表した、オイスカが2030年までに推進する、アラル海での40,000haの緑化事業などを柱とした「自然を守り育み、その力を活用した取り組み」と、共に生きる社会づくりのための技能実習生3,500人の受入れを柱とした「ビジネスセクターとのパートナーシップとソーシャルビジネス」の2つの社会課題解決アプローチの取り組み状況は、ホームページやSNSを通じて随時報告予定。

3. 参加者の声

- ・若い世代であっても出来る事、社会貢献をする手段はあるというメッセージも感じられた。(大学生)
- ・「労使協働」という視点はあまり考えたことがなかったので新鮮だった。(経済団体職員)
- ・技能実習は負のイメージだったが、ミャンマーの養豚の技能実習生を受け入れている事例に驚き、感動した。実習生の大半は良い人なのだが、どのような人たちか、多くの市民はその実態を知らない。こういう発表の機会をぜひ各地で実施して欲しい。日本全国で印象が変わる。これから外国人はもっと来日するし、摩擦も起こる。地域に溶け込まないと犯罪に向かう。仲良くなって助け合う関係になるのが理想。日本人は「働いてくれてありがとう」という気持ちを持つ必要があると感じた。(報道関係)

実績報告とりまとめ表

実施時期		10月6日	計	備考
事業量 又は 事業内容		シンポジウム 開催		
参加者数	都内	77人	77人	<会場参加>官庁、林業関係の公益法人、NPO、 学校関係者、企業団体での参加が75%、個人か らの参加が25% <オンライン参加>タイ、インドネシア、フィ リピンなど海外13ヵ国からの参加を含む450人
	都外	83人	83人	
	オンライ ン参加	450人	450人	
	計	610人	610人	
実施場所		国立オリンピック記念青少年総合センター 大ホール (東京都渋谷区代々木神園町3-1)		

令和2年度・
事業期間延長分

学校演習林（大東農園）を活用した林業教育の推進

青森県立五所川原農林高等学校
〒037-0093

1. 活動の概要

学校演習林（大東農園）を林業（木材、特用林産物等）生産に適した環境に整備し、持続可能な森林環境教育を通して、林業技術者の育成を目指すことを目的とした。

そのためには、学校演習林で、林業を生産するのに適した環境に整備する必要があり、林道の管理や下刈り、枝打ち、間伐などの実習を実施した。また、特用林産物であるシイタケを原木で栽培するために、原木にシイタケの駒（種菌）打ちをした。

2. 活動の成果

この活動をとおして、生徒は森林と人間の生活や環境に対する理解がより一層深まり、今まで以上に共生の心を育むことができたのではないかと考えている。特に、演習林の整備が地域の自然環境をも保全することに結びつくことに気づいたことは大きな成果の一つであった。

今後は、学校演習林の整備・管理を継続して実施していくとともに、演習林を単に本校生徒の学習の場とするのではなく、地域住民、とりわけ小学生や中学生を対象とした学習の場として森林環境と教育環境の両面で学習プログラムを構築したいと考えている。20haの演習林内には、老朽化しているものの、宿泊棟や炊事室、トイレもあることから、宿泊を兼ねた学習も可能である。炊事実習などの遠足やキャンプ、ツリークライミング、チェーンソー実習、木工品制作など、これからも豊富な森林環境を利用していくとともに、演習林を起点として津軽国定公園も活用したい。

3. 参加者の声

- ・ 普段、学校ではできない実習をすることができて、とても勉強になった。
- ・ 森林について、以前より興味関心が高まった。
- ・ 将来は、林業の仕事に就きたいと思った。

実績報告とりまとめ表

実施時期	3.5.13	3.7.9	3.11.16	4.5.17	4.5.22	計	備考
事業量 又は 事業内容	植林	林道整備	間伐実習	植林	シイタケ駒打ち	5回	
参加者数	県内	34人	34人	35人	33人	15人	151人
	県外	人	人	人	人	人	
	計	34人	34人	34人	33人	15人	151人
実施場所	青森県五所川原市						

木育 Guidebook 制作

一般社団法人 子育てネットワーク ままもり
〒302-0109 茨城県守谷市本町 260

1. 活動の概要

コロナ禍により、2年間木のおもちゃ広場の開催がかなわず、先の見通せない中、個人または小グループにて木育活動や啓発活動が出来ないかと思い、木育 Guidebook の制作に変更させていただきました。

スタッフや家族の感染、緊急事態宣言による施設の閉鎖もありましたが、何とか完成し、イベント時の配布はもちろんの事、各施設、市区町村にも配布させていただきました。

2. 参加者の声

- ・県内にも、こんなに色々と木に触れる場所や施設があると思わなかった。
- ・色々行ってみたいと思います。
- ・参考になりました。

(制作にあたりご協力いただいた企業・行政様の声)

- ・ダイレクトショップの方でもお客様に配って少しでも多くの子どもたちに自然環境や木に興味を持ってもらえるよう応援をさせていただければと思います。
- ・木育の取組みなど興味深い記事が多く、スタッフ共々楽しく拝見させていただいております。

実績報告とりまとめ表

実施時期		6月3日～5日	6月	9月以降	合計	備考
事業量 又は 事業内容	木育Guidebook制作	木育 Guidebook 制作 木育×すく育イベントにて配布	各行政等配布	イベント、ワークショップ等にて配布予定		
参加者数 (入場者)	県内 県外 計				県内 5,000部	
実施場所		茨城県県内				

「生物多様性のある里山の森づくり」

埼玉県立浦和第一女子高等学校麗風会
〒330-0064 埼玉県さいたま市浦和区岸町3-8-45
埼玉県立浦和第一女子高等学校内

1. 活動の概要

- ・同窓生から現役高校生まで世代を超えて自然を学び、うっそうとした里山を整備、再生する。さらに専門家の指導の下、地域本来の植生を取り戻し、地域の人々に憩いの場を提供する事を目的とする。
- ・下草刈り、除伐、間伐等の森林整備を行い、現地に自生する絶滅危惧種・準絶滅危惧種である植物を保護。間伐した木材を活用して、コースター等を作成、配布し、森林活動の展示と合わせ、自然環境への関心を高める。
- ・森のパフレットを作成・活用し、現地及び現地周辺地域への興味を促す。

2. 活動の成果

- ・紫陽花の剪定を行う事で、毎年相当量の花を咲かせ、森を訪れる人の憩いの場となっている。
- ・台風や昨今の突発的な豪雨等の被害による枯損木を適切に処理する事で、敷地内の整備活動の際や近隣の山々を含めた散策をする方々が安全に滞在する事が出来るようになった。
- ・コロナ禍に於いて、なかなか現地で現役高校生等大勢と共に作業が出来ない中、少人数で行う作業風景や現地の様子を母校展示コーナーで紹介したり、森のパフレットを配布することにより、多くの方に関心をもってもらえた。

3. 参加者の声

- ・いつ来ても爽やかな空気を感じられる居心地の良い森で癒される。(40代活動参加者)
- ・倒木や、倒れそうな危険など定期的に整備されていて、安全に過ごせる場所だと思う。(50代活動参加者)
- ・近隣の散策の最中にたまたま通りかかったけれど、鬱蒼とした周辺に比べて見晴らしがよく、風通しもよく、さわやかに青空も見え、一休みしたくなる場所で驚いた。(60代散策していた方)
- ・活動中に見知らぬ人が通りかかり挨拶を交わす事が出来て居心地の良い場所を作れている意義を感じられた。(60代活動参加者)

実績報告とりまとめ表

実施時期		令和2年 7月24日	令和3年 7月10日	令和3年 10月18日	計	備考
事業量 又は 事業内容		林内整備活動	林内整備活動 及び 樹名板の確認	枯損木の選別 及び農林公社 様との打ち合わせ		
参加者数	県内	10人	6人	5人	21人	
	県外	1人	1人	1人	1人	
	計	10人	6人	5人	21人	
実施場所		埼玉県 寄居町				

2020-07-24



2021-07-24



2021-10-18



日光ふるさとの森づくり

森びとプロジェクト

〒141-0031 東京都品川区西五反田3-2-13

目黒さつきビル 303号室

1. 活動の概要

栃木県日光市の民有林（スギ林伐採跡地）において、地元の児童・生徒を対象に、保護者や自治会等とも協働した広葉樹林のふるさとの森を再生する。この活動を通じて、森の働きや大切さを体験する環境学習を行う。自治会のシニアからは森と暮らしてきた話、運営委員からは“森は大切な友だち”であることを伝えていく。特に、森の多機能は人間の命を育む営みの土台であることを体験していただく。紙芝居方式で森の機能を伝え、現場では木々に触れ、香りに触れる等で互換を養っていきます。具体的には、①ふるさとの森づくりとして、広葉樹林の造成（植樹）をする。②パネルや紙芝居等を活用した児童生徒への体験啓発活動をする。また、森の案内人が野外環境学習をサポートします。

2. 活動の成果

世界中を蔓延している新型コロナウイルスの影響及び台風接近を受け、児童生徒たちを集めての当初の活動（及び延長していただいた1年も含め）が出来ませんでした。現場ではサポートをするメンバーが前段に急斜面の階段づくりや訪れるハイカーの為に桜を植樹していましたので、非常に残念がっていました。何よりも未来を生きる若者世代への植樹活動及び啓発活動を一緒にできないことに心を痛めていました。今後は、これまで植えた23本の桜や1,000本の広葉樹の育樹（草刈り）及び環境整備を継続します。新型コロナウイルスが終息した暁には、計画した事業を実現させたいと思います。

3. 参加者の声

- ・「新緑や紅葉で私たちの心の癒しになってほしい」
- ・「河津桜の咲いているところを見たわよ！あと4～5年したら綺麗な花をつけてくれるわ！楽しみにしていますそれまで生きていなくっちゃ！」（ハイキングで訪れた女性）
- ・「なかなか体験できないことなので雨も気にならなかった」
- ・「二酸化炭素を吸収する森になるのが楽しみ」

実績報告とりまとめ表

実施時期		令和2年8月6日 令和3年9月26日 令和3年11月24日	令和2年7月12日 令和2年10月17日	計	備考
事業量 又は 事業内容		・階段づくり ・草刈り ・草刈り	・桜の植樹 ・日光「城山の森づくり」		
参加者数	県内	5+5+3人	10+31人	54人	
	県外	人	1人	1人	
	計	5+5+3人	42人	55人	
実施場所		栃木県日光市			

「医師と歩く森林セラピーロード」

International Society of Nature and Forest Medicine(INFOM)
〒156-0051 東京都世田谷区宮坂 3-19-4

1. 活動の概要

本事業は、森林率90%前後の市町村の中で、優れた森林を有し、森林空間内滞在によるストレス緩和が、都市部と比べ有意になされると実験・証明された“森林セラピー基地[®]”の中から10ヶ所を選び森林医学に精通した医師同行で開催した事業である。医師は、森林内行動前後に森林の持つ予防医学的効果の講話と各参加者が計測したストレス度を含む検査の講評、ガイドは、森林全般の有用性、地元文化との接点等を解説し、森と木と人との共助を促した。

2. 活動の成果

本事業は、終了後のアンケート調査によると、参加者全員が、優れた森林の持つ多面的機能や、景観美に対する驚きや感動、五感を駆使する行動での森との親和、森林内で簡単に出来るマインドfulnessによる活力アップを体感し、満足と記した。今回は、将来森林関係の職につく森林大学校生が16%強を占めると共に、多くの基地が地元民を対象としたため、日頃あって当たり前の森の大切さ、親和が促せ、今後の人間環境としての森林の重要性が若齢者や地元住民に周知され、森林の保全管理、森林サービスや木材使用の必須性が正確に伝搬され、彼らの活動の一助となると期待できた。

3. 参加者の声

イベント全体についての評価は、大変満足、満足の合計が男女とも100%、個別評価でも、森の大切さの実感が男性100%、女性96%、セラピスト（ガイド）の対応が、男性94%、女性96%、医師の評価が男女とも100%であった。すなわち、森、人共に高評価された。今後もINFOM、各基地共に、最新の医・科学的情報提示やアクティビティの向上で良いと考えられる、満足度の高い感想を得た。但し、一部基地で実施した医師のオンライン講評に対し「リアル対応希望」とのコメントがあり、コロナ禍の収束が待たれる。

実績報告とりまとめ表

実施時期	事業量	参加者数			実施場所	備考（ロード名 / コース名）
		県内	県外	計		
R3年10月17日（日）	4時間	8	0	8	長野県上松町	赤沢自然休養林セラピーロード
R3年11月2日（火）	4時間	13	0	13	兵庫県宍粟市	東山セラピーロード
R3年11月13日（土）	4.5時間	20	0	20	岩手県岩手町	嵐山コース
R4年3月18日（金）	3.5時間	6	2	8	鹿児島県霧島市	丸尾自然探勝路
R4年4月3日（日）	5時間	3	0	3	東京都奥多摩町	登計トレイル及び氷川溪谷
R4年4月9日（土）	5時間	2	5	7	群馬県甘楽町	八幡山夕陽ヶ丘コース
R4年4月30日（土）	7時間	2	6	8	長野県小谷村	塩の道千国コース
R4年5月21日（土）, 22日（日）	計6時間	4	0	4	群馬県上野村	中之沢源流域自然散策路
R4年5月25日（水）	3.5時間	5	0	5	鳥取県智頭町	天木森林公園コース
R4年6月26日（日）	3.5時間	4	0	4	鳥取県智頭町	天木森林公園コース
参加者数合計		67	13	80		

健全な海岸林を将来に残すための啓発活動

公益財団法人 オイスカ

〒168-0063 東京都杉並区和泉 2-17-5

1. 活動の概要

東日本大震災直後からの名取市の海岸林復旧は育林途上にある。津波から11年が経過し、震災の記憶が薄れつつあるが、一方で、自然災害が大規模化、多発化する中で日本全国の沿岸地域において、宮城県をはじめ全国での活動報告会、プロジェクトの進捗報告書の配布、パネル展、看板を通じ、海岸林が防災・減災に果たす役割を訴求した。

コロナ禍のため、対面式の活動報告会の企画、実施が難しく、大阪での1回の実施にとどまったが、98人の参加があった。プロジェクト進捗報告書や記録誌を作成し、支援者へのお礼を伝えるとともに、全国の支援者に送付。また、パネル展示では、イラストなどを用い、見やすさ分かりやすさへの工夫を凝らし、プロジェクトの進捗状況のみならず、防災・減災に果たす役割についても伝えた。植栽地に隣接する公園内への啓発用看板の設置では、未就学児が多く訪れる公園の設計となっていることから、イラストを用い、海岸林が果たす役割についてわかりやすく表現した。

2. 活動の成果

海岸防災林が地域に生まれ、守られていくためには、その重要性が市民に認識されていることが求められる。報告会の実施、進捗報告書、プロジェクト記録誌の作成、パネル展示を重ねたことで、重要性を広く訴求する事ができ、全国の海岸林への関心を高めることができた。また、高校生を中心に、若い世代にも海岸林を地域で守り育てていかなければならないという気運も生まれている。名取市の植栽現場でのボランティア活動の受入れを継続し、知識のみではない体験を伴う活動として将来の海岸林保全につなげていきたい。

3. 参加者の声

(参加者からいただいた質問と感想)

- ・育林途上で間伐を実施するのであれば最初から本数を減らして植えられるのではないかな？
- ・海沿いのにぎわいを取り戻し、若い世代に繋げていくため、地元のNPOと連携しながら小学校の遠足の機会を活用してゴミ拾いをするなど、教育と連携してはどうだろうか？
- ・植栽地でクロマツの活着率を高めるためにどのような工夫をしているのかな？
- ・そもそもなぜクロマツを植栽するのか、他の樹種ではダメなのかな？
- ・海岸林が50年100年先まで維持管理されていくためには、この10年どのような施策を考えているのかな？また、間伐材を使ったグッズやチップの生産販売など、この場所でお金を生むようにしていかなければ維持管理できないのではないかな？
- ・津波災害だけでなく、自然災害の発生後、どのように地域を再生していくのかにつながる話のように思う

実績報告とりまとめ表

実施時期	R3年9月18日			備考
事業量 又は 事業内容	報告会	@大阪市		
参加者数	県内 県外 計	98人 人 98人		参加者：一般市民、プロジェクト支援企業・団体担当者、個人支援者など
実施場所	大阪府大阪市			

身近にあるエネルギーとしてみる森林資源の活用と森林環境教育

特定非営利活動法人 自然文化誌研究会

〒191-0053 東京都日野市豊田三丁目 28 番地の 2

1. 活動の概要

震災等の災害が予想される中、燃料の入手、火の利用、安全性の確保等の能力が必要とされる。日常的に森林と遠く生活する都市住民が、森林資源を活用する機会を生み出す。

多摩川の水源である山梨県北都留郡小菅村は、面積の 95% が森林である。森林の維持と管理、森林資源の有効利用は継承されてきている。青少年を対象とした植栽活動や間伐体験事業、森の幼稚園など多くの事業を展開してきた。森林保全の机上の教育のみではなく、ここでは森林現場での直接体験を重視する。森林をエネルギーとして見る目を養い、燃料の入手・加工・活用・保存等を積極的に学ぶ環境学習プログラムを行う。森林の有効性や森林資源とエネルギーに囲まれる山村の豊かさを学ぶ森林環境教育・体験学習の場の充実を図る。

- ・参加者が森林に入り、材の調達、加工、活用を行う。
- ・地元住民を講師に、青少年を指導できる人材を養成する。

2. 活動の成果

2021 年 8/5-11 こすげ冒険学校

2021 年 12/26-28 冒険学校「まふゆのキャンプ」

2022 年 5/3-5 冒険学校「むらまつりキャンプ」

と称し、宿泊しながらの野外キャンプを多摩川源流部の山梨県小菅村にて開催した。小菅村は面積の 95% が森林でありその多くが東京都の水源林となっている。

安全面に配慮しながら、参加者の火の使用に対して自由度を高くした。その燃料となる「材」の準備と調達についても参加者が自ら行うことで、「何が燃料であるのか」「貴重なものであるか」を体験し、森林資源の有効性について肌で感じてもらった。

参加した子どもたちのみならず、安全確保の立場にある運営側の社会人・大学生・高校生スタッフにも実体験となり、震災などの未曾有の災害が起きた場合は主体的に燃料の調達などの必要性を理解してもらえただろう。

参加者及びスタッフは、火を自主的に使用したことにより、「何のために」「何が必要か」を理解してもらえただろう。有事の際は主体的に動ける契機になったと思う。

地元住民にもこのような活動の意図を知ってもらう機会になったので、今後はできるようできない地元の子供たちを対象としたプログラムを検討しようという方向性もでていく。

3. 参加者の声

- ・炭焼きの手伝いやお風呂沸かしなどを体験することができた。
- ・薪割りや背負子を体験できました。
- ・草餅（ヨモギ）など作る前の山菜採りも自然から調理のつながりについて実感できたことも忘れられません。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8/5～8/11	12/26～12/28	5/3～5/5	計	備考
事業量 又は 事業内容	こすげ冒険学校	冒険学校 「まふゆのキャンプ」	冒険学校 「むらまつりキャンプ」		
参加者数	県内	2人	2人	2人	6人
	県外	30人	22人	42人	94人
	計	32人	24人	44人	100人
実施場所	山梨県北都留郡小菅村				

都市部における若者による森林環境教育の実践

特定非営利活動法人 こがねい環境ネットワーク
〒184-0011 東京都小金井市東町 2-28-8

1. 活動の概要

都市部住民などに向けた森林環境教育を、大学生を中心とする若者が実践することにより、森林環境教育を担う人材育成と普及啓発を同時に推進することを目的としていたが、コロナ禍での活動制限による影響が大きく、それぞれの要素を限定的に取り入れた実施になった。また巣籠もり需要に即したテーマ（庭木・剪定）など、生活に身近な内容へと変更し、新たな参加者層の開拓を試みた。

2. 活動の成果

これまで、イベント参加者の主なターゲットを親子や子どもに設定していたが、コロナ禍でのさまざまな活動制限の影響で、身近な生活に隣り合った樹木などを切り口に、森林環境を見つめ直す視点へとテーマを変更したことで、様々な年代からの参加に繋げることができた。

一斗缶ストーブづくりは、大変好評な企画で、エネルギーや防災の観点からも（加えてもともと市の防災非常食が入っていた一斗缶を活用したことも）今後の展開が大きく広がる可能性を得られた企画となった。

今後は、引き続きこれらの素材を使った企画を進めながら、コロナ禍でも対応できるような既存の手法に捉われない実践を探求する。そのうえで現状なかなか取り組むことが難しい若者の教育実践のスキルを向上させる機会の増加に繋がる手法も模索し、森林環境教育を担う教育者の育成と地域住民への啓発の拡大を図る。

3. 参加者の声

- ・柿渋の効用、柿を生かした食品、柿の講話、まさに柿づくしでした。（柿づくしイベント）
- ・大変解りやすい説明で出来上がった物にも満足です。早く使ってみたい。（環境フォーラム）
- ・剪定枝を活かすアイデアを常設で展示できる場所があると良いと思う。（若者スタッフ）

実績報告とりまとめ表

実施時期		月日	計	備考
事業量 又は 事業内容	イベント 4回を実施した。	イベント(1)「まるごと柿づくし」 (2) こがねい環境フォーラム 2021 (3) 「まるごと柿づくし2」 (4) 東児童館「児童館とSDGs」	(1)2020/10/30-31 (2)2021/11/17-23 (3)12/11 (4)11/27・12/18	11日間
参加者数	計	(1)14人 (2)1138人 (3)18人 (4)22人		1192人
実施場所	東京都小金井市 (1) (2) (3) (4)、			

少年少女里山マイスター養成講座

特定非営利活動法人 徳島県森の案内人ネットワーク
〒770-8055 徳島県徳島市山城町東浜傍示 5-226

1. 活動の概要

里山林を使い、森の中での秘密基地づくりや木登りなどの遊びを通じて自然に興味を持って貰い、ノコギリを使っての伐採体験や斧を使っての薪割り体験、植菌の為にドリルの使用など、道具を使った作業を行う講座の内容を通して、里山を活用してきた人々の思いを体験することで、子ども達がこれからの自然環境を考える機会として、次代を担う感性豊かな青少年の育成を活動の目的としています。

2. 活動の成果

本講座は今回で12年目の開催となり、今回の受講生31名を加えて延べ345名の「里山マイスター」を送り出したことを、まずは活動の成果として挙げたいと思います。次にアンケートから、子ども達が森や山といった自然に親しみ、森の動植物や土中の小さな生き物などに興味を持ち、自然環境を考えるきっかけづくりに寄与していると考えます。また、「SDGs」の考え方を講座に取り入れるなど、工夫を加えながら、これからも本講座の活動を継続して行きたいと考えます。

3. 参加者の声

講座終了後、受講生にアンケート及び感想文を提出して頂きました。回収率は87%と高く、各講座の評価（5段階）は「4.3」以上の評価を頂きました。また、感想文には楽しく参加している様子が書かれていました。感想として、「講座でいろいろなことができた」、「森の中で遊んだこと」、土壌の中の生き物観察などから「知らない生き物を知れたこと」などを挙げています。尚、講座の内容とアンケート結果や写真、感想文などを印刷物（概要版）にまとめました。

実績報告とりまとめ表

実施時期		月日	月日	計	備考
事業量 又は 事業内容	少年少女里山 マイスター養 成講座	令和2年 7月1日～	令和3年 5月31日	6回	講座は令和2年10月～令和3年 3月迄の6ヵ月間/月1回
参加者数	県内	307人	人	307人	参加者数は受講生及び会員の参 加延べ人数、県外の参加者は自 然観察指導員
	県外	1人	人	1人	
	計	308人	人	308人	
実施場所		徳島県徳島市入田町月ノ宮			

将来木施業の理解を深めるためのシンポジウムと現地研修会

四国の森づくりネットワーク

〒791-0315 愛媛県東温市井内甲 915-2

1. 活動の概要

間伐は森林管理技術の中で最も中心的な技術ですが、その根拠はどこにあるのか納得のいく説明を聞くことは難しいです。そこで間伐の定義、目的、種類等を確認し、将来木施業の選木法について理解を深めることを目的にしました。

1 令和2年10月24日（土）にシンポジウムを行いました。

基調講演「私たちはどのような森づくりを進めていったらよいのか」

四国の森づくりネットワーク会長 鶴見武道

討議 持続可能な森林管理、間伐技術の根拠、将来木施業について、技術教育と専門機関の必要性、森林破壊の現状と要因、森林環境税について等

2 令和2年10月25日（日）現地研修を行いました。

将来木法による間伐木選木の実際と、間伐の実施、間伐木の高さを図る方法の実施等。

2. 活動の成果

林業家や、森林林業教育に従事する高等学校の先生の参加が多かったため、これからの林業を担う青少年への育成効果が高いです。また、四国4県の連携を深めて、それぞれの地域への普及活動を行うことができました。今後は、四国4県から、中国地方へも参加者の幅を広げ、将来木施業についての理解を深め、広げていきたいです。

3. 参加者の声

従来の間伐の仕方と、将来木施業の違いについて理解できました。将来木施業という考え方に立って、森林の育成を行うことにより、より自然な森林を育てていくことが可能なことを理解しました。

実績報告とりまとめ表

実施時期		10月24日	10月25日	計	備考
事業量 又は 事業内容		シンポジウムと 討議	現地研修		
参加者数	県内	16人	12人	28人	
	県外	5人	5人	10人	
	計	21人	17人	38人	
実施場所		愛媛県松山市・東温市			

人と森をつなぐ木材利用と木育事業

特定非営利活動法人 とす市民活動ネットワーク
〒 841-0026 佐賀県鳥栖市本鳥栖町 537-1

1. 活動の概要

目的：子どもから大人までを対象に木材の良さや利用の意義を学んでもらうための機会の提供と指導者育成を目的とする。

内容：①木育カフェの開催（令和2年12月12日 対象：一般市民延べ440人）

親子で木工作や大工体験を開催。鳥栖地区建築士会、NPO団体、学生ボランティアが協力。

②「木育推進員養成講座」の開催（令和3年2月21日 対象：市民、木工関係者他19人）

木育の意義や木材・森林に関する知識など実習を交えて熊本大学田口教授より指導。6時間受講の後熊本大学より認定書を授与、それぞれの地域活動で指導的役割を担う。

③「地域とつながる木づかいフェスタ」の開催

（2021年4月25日 対象：一般市民536人）

13のブース（NPO、大学、高校、企業、行政）が集まり、親子で木工作やモルック体験等を行った。

④「森林体験」の開催（2021年5月23日 対象：小学生以上親子20人）

※コロナ感染拡大により中止

2. 活動の成果

木育関係者が一同に集る機会が出来、情報交換の機会を初めて持つことができた。この結果木育ネットワークが構築され、協働で引き続き木育活動を実施していくことになった。また、木育推進員養成講座は反響が大きく、受講者の89%が地域活動や仕事に活用していくと回答している。次回は鳥栖市と佐賀市の2箇所で開催することに決まった。

3. 参加者の声

- ・初めて大工体験をして、丸太を切るのが楽しかった。
- ・受講生が独り立ち出来るプログラムに満足した。
- ・木の良さはITが進んでいく世の中でとても大切なこと、伝えていかなければならないことだと感じた。
- ・今後は中級・上級と学習を進めて子ども達に木の良さを伝えたい。
- ・気持の良い屋外でいろいろなブースを回りたくさんの工作体験が出来て良かった。
- ・4月の屋外での活動はいろいろな団体とつながりが出来て楽しかった。（参加団体）

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和2年12月12日	令和3年2月21日	令和3年4月25日	計	
事業量 又は 事業内容	木育カフェ もの作り・大工さん 体験コーナー	木育推進員養成講座 (初級) 講義・実習・実技	木づかいフェスタ もの作り・体験・ パネル展示		
参加者数	県内	350人	14人	401人	765人
	県外	90人	5人	135人	230人
	計	延べ440人	19人	536人	995人
実施場所	佐賀県 鳥栖市				

SDGs を学び体験してみよう

特定非営利活動法人薩摩ワンダー村

〒 899-2701 鹿児島県鹿児島市石谷町 2703-23

1. 活動の概要

SDGs という言葉さえ知らない人が多い。そこで、まずは SDGs を体験をしながら学び、実施することで疑問に思っていた「なぜ？」に気づかせ行動へのプロセスを明快にする。

1. SDGs とは何なのかを理解してもらい間伐方法を学びながら間伐体験
2. 木の活用方法を学んだあと、木や竹などを使った木工体験
3. 森との接し方・楽しみ方を学び、ネイチャーゲームを取り入れてのトレッキング
4. 森を守り育む方法を学びクヌギ・櫻等を植樹体験

学びと体験を組み入れた 4 つの活動を行ったことにより SDGs とはどういったことなのかを学ぶ機会になった。

2. 活動の成果

参加した子ども達は、SDGs ということを経験を通じて学ぶ事が出来たのではないかと考えている。また、森を守るためにできることはたくさんある。しかし、なぜそれが必要なのかを理解し納得することにより活動への理解度は深まった。森を楽しむ事と同様に森を守る・育むことの重要性を理解してくれたものだと考える。

今後の活動としては、自然の遊びや体験を通じて学ぶということも取り入れて活動していきたい。また、自然を守る為にはどのような事をした方がいいのか子ども達自ら考え、企画させ、それをサポートしていくことによる自立心を育てていきたい。

3. 参加者の声

- ①体験を通じて初めて SDGs という言葉を聞いた。友達にも教えてやりたい。
- ②森を歩きながら木や草の名前や森の歴史など学ぶ事ができた。
- ③木や竹のものづくりが楽しかった。部屋に飾って家族や友達にも見せたい。
- ④間伐はどれでも切ればいいのかは木の成長を助けるためにやるものだと初めて知った。

実績報告とりまとめ表

実施時期		11月29日	12月13日	3月30日	4月25日	計
事業量 又は 事業内容		間伐方法を学 びながら間伐 体験	竹の活用方法 竹や木を使っ た木工体験	森を守り育む 方法 クヌギや櫻の 植樹	森との接し方 トレッキング しながらネイ チャーゲーム	
参加者数	県内	18人	21人	18人	20人	82人
	県外	0人	0人	0人	0人	0人
	計	18人	21人	18人	20人	82人
実施場所		鹿児島県鹿児島市春山・寺脇				

企業研修における森林の持つ複合的な効果について

期間：2020年7月～2022年6月（コロナ影響にて延長）

東京大学 未来ビジョン研究センター ライフスタイルデザイン研究ユニット

客員研究員 田畑夏子

森林空間のもたらすリフレーム促進効果

様々な先進的な取組事例の調査研究と実践者との研究会の議論を通じ、研修における森林の「リフレーム促進効果」の仮説を持つに至った。場となる「森林」といってもその在り様、活用の仕方は多様であり、研修・プログラムを実施する組織の理念、対象とテーマ等によって異っており、森林の活用により研修ニーズが限定されることはなく、現代の幅広いニーズに対応その価値を発揮していた。実施者のニーズにあわせ研修プログラム自体をカスタマイズしていた。その効果を最大化するために空間の特徴も活かしていた。着目すべき効果として、リフレームの各プロセスにおける森林の促進効果について記したい。

① 異なる前提を受け入れる準備

多くの研修において、森林のもつ空間の快適性と非日常性は「気持ちいいのでご機嫌に始められる」「ふだんの仕事の現場とは違った気持ちで受け止められる」といったリフレッシュ効果が観察され「新しい前提を受け入れる準備」として効果を発揮していた。研修では、どのような趣旨目的であれ、日常生活とは異なる学びや気づきを得てもらうことがゴールになっている。研修の導入時の森林によりスムーズに変化を受け入れる気持ちの切り替え、またチームビルディング等を目的とした際に「組織内での上下関係を離れてフラット

トに取り組む」「業務を離れた人間関係の構築」などの、その設定を受け入れやすいという効果の活用がなされていた。そのコンディションをつくるための工夫としては、研修の冒頭に五感で違いを実感する、五感を開くプロセスを入れている例が多かった。

② 認知フレームの自覚を促す

多くのビジネスパーソンは、人間が定義し、役割・システムを付与し、人間のルールや時間軸により管理される都市空間・組織活動を日常としている。森林は自然環境であり、天候をはじめとしてコントロールできる要素は相対的に少ない。オフィス内の施設での研修であれば、「暑くも寒くもないように温度調節しておく」ことは、提供側の仕事である。しかしながら、屋外で「暑いから室温調節をしる」という人はいない。実際には、そのような環境に怒る方もいるが、それが、そのまま「気づきのプロセス」につながっていくという話も散見された。「本来、外部環境はコントロールができない」という中で、「何が当然で何が当然でないのか」といったことに対して、自分たちの認知フレームの気づき、また、ともすると過去の否定にもつながる事象について森林を経緯したことで受け入れやすいという特性があるという意見を多く聞くことができた。

「人（自分たちが）が決めているだけのこと」であるという気づきは、「フラットな関係性をつくる」

	五感を開くプログラム例
嗅覚	・土の匂いを嗅ぐ、木の枝を折り匂いを嗅ぎ、違いを発見するなど
触覚	・土を触る、木を触る、森のものを触ってみることを推奨する ・寝転ぶ、座るといった体制をとり、手以外でも触感を刺激する
聴覚	・森の中で耳を澄ませて種類をあてる、川のせせらぎ・虫・鳥の声の種類、どちらの方向から聞こえるか等を参加者に尋ねる
視覚	・視界に多く緑が入る（景色のよい）ポイントからスタートする ・集中して観察する、変化に対して注意を促す
味覚	・深呼吸をする ・森のものを使用したスイーツ、野草茶などを用意する

といった際にも、もともとの関係性についての評価が相対化されるため、効果的に作用する。フラットな関係の前提をスムーズに受け入れることは、人として向き合い強いチーム・組織をつくる際にも、立場を入れ替えてリーダーシップや異なる立場の視点を学ぶ際にも、大きな効用を発揮する。

③ 自分自身の相対化・客観化の補助

森林での時間は、個人深い内省機会につながり自分自身の認知のリフレームを促進する事例も共有されてた。「森へ」のプログラムでは、「個人が森で一人になる時間」を設けており、個人からは深い学びと内省と気づきについての効果が語られた。内省的なプログラムについては「何もしないこと」が一番の誘因になるという興味深い意見も聞かれたが、その前後の意識づけや内省について語りあう時間などプログラム上の工夫も多い。また、深い内省機会から、自己肯定感の向上や「そこはかかない不安」に対しての安心感の醸成といったことも言及された。大きく視野を広げ、今までの悩みを相対化する、また、次に述べるシステム思考で社会を捉え直すことにつながるといった声もあった。

④ 新たなフレームを学ぶモチーフ

森林自体と向き合う時間を持つ研修で聞かれた成果の中で言及されていた。森林生態系は人間が管理できるものではなく、多様性を前提として、気候・気象の外部要因の影響を受けつつ、多様な動植物等が共存・共栄するエコシステム（生態系）である。このため、「森林での観察」を通じ、多様性・複雑性・変動性がありつつ、相互扶助の関係性にある森林等の自然生態系の特性を感じ活かすといったものである。捉え方としてはシステム思考に通じ、組織の在り様としてはティール組織などの議論に通じる。

学びとっているものは様々であったが、参加者の（意識・無意識にかかわらず存在する）「前提としている枠組み」を自発的に外した上で、自ら「何をすべきか」に思考がスムーズに移行していくことが大きな特徴として指摘された。

⑤ 立ち戻るためのサードプレイス

研修の効果が一過性で終わってしまうことは、研修一般の大きな課題である。森林の、都市と比較した際の非日常性は研修の効果を高めると共に、再度、日常に戻った際に「変わらずに存在する、立ち返れる共通の場所」としての機能を発揮していた。特に、保有する社有林の活用であるTDKラムダにおける活用では、新人研修にて活用していたケースだが、研修での共同創作を通じて学ぶとともに、その森への保全や記念物を作る等の作業を行った。その「潜在の記憶」が「社員共通の記憶」となる点、また新人が精神的に辛い時期があった場合に「もう一度あの森に行くとき（研修）まで頑張ろう」と戻るべき「場所」としての役割を担い、研修の目的である「組織づくり」の目的に沿って大きな役割を担っていた。

「働き方改革実行計画」に合わせた、森林空間を活用したメンタルヘルス 対策推進の仕組みづくり・プログラム開発・効果検証

Momo 統合医療研究所

〒162-0816 東京都新宿区白銀町 2-1-406

1. 活動の概要

今年度はプログラム開発の1つとして、心身の健康増進、予防において注目が大きい「睡眠」改善プログラムを実施し、その効果検証を行った。2泊3日の保養プログラムを2020年11月に山梨県山梨市（森林セラピー基地）の保養施設において、2021年3月に静岡県朝霧高原の保養施設において実施し、その後8週間、2週間に一度の睡眠コーチを行った。保養プログラム前後、睡眠コーチプログラム終了時（2か月後）の精神健康状態、睡眠状態を比較した。保養プログラムにおいては、森林浴／森林セラピー、マインドフルネスに関するレクチャーと実践、座禅やヨガなどを取り入れ、概日リズムを体感しながら規律を整えることやリラックスした状態を体感することを意識したプログラムとした。また、保養プログラムに参加せず8週間2週間に一度の睡眠コーチのみを実施した非参加群との比較も行った。

2. 活動の成果

睡眠改善保養プログラム参加群においては、自覚的健康状態（VAS）、POMS2 TMD 得点、主観的回復感尺度（Restorative outcome scale）、抑うつ不安尺度（K6）などにおいて保養プログラム後に概ね改善の傾向がみられ、2か月後にもプログラム前と比較すると改善している傾向が認められた。睡眠においては、自覚的不眠尺度（アテネ不眠尺度）得点において保養プログラム前後での改善、2か月後においても特に総睡眠時間、睡眠の質に関する項目得点において改善が持続していた。客観的な睡眠状態については帝人製睡眠測定計を用いて測定し、参加者においては保養プログラム中の睡眠においてリラックス度が向上の傾向を示しており、2か月後において総睡眠時間が平均16分延びる傾向がみられた。

3. 参加者の声

- ・自然の中でゆるめる体験、心がリラックスしている状態を体験し、日常生活でも思い出すことができるようになった。
- ・日常生活でも近くの公園などに散歩に行くようになった。
- ・睡眠についての考え方が大きく変化した。夜中に目覚めても不安に思わず楽観的にとらえられるようになった。
- ・五感が開くという感覚を味わい、感情のコントロールに役立てるようになった。

実績報告とりまとめ表

実施時期		11月27日～29日	3月20日～22日	計	備考
事業量 又は 事業内容		森林セラピー×マインドフルネス睡眠改善プログラム	森林浴×マインドフルネス睡眠改善プログラム		
参加者数	県内	0人	0人	0人	
	県外	10人	12人	22人	
	計	10人	12人	22人	
実施場所		山梨県山梨市	静岡県朝霧高原		

宮城県沿岸部の在来植物を活用した屋敷林と沿岸植生の再生活動

特定非営利活動法人山の自然学クラブ
〒160-0015 東京都新宿区大京町 25
高橋ビル 402

1. 活動の概要

宮城県気仙沼市の、津波被災後の地域の新しい資産として屋敷林農地林を育成することを主体目標に植樹・補植と種子採取～苗の育成、土壌改良などを行なうと同時に森や海岸の観察会を実施する。2021年から継続して関係を深めている地域の団体、参加者のみなさんと地域外からの参加者が協力した活動として、森林づくり活動を通じた農山村と都市住民等との交流促進をはかる活動でもある。年間を通じて、春季・植樹／夏季・草刈り／秋季・種子採取など、季節や現地事情に合わせた適応的な活動（募集人数や年齢設定、作業内容・場所）を検討する。活動地を所管する協力団体・海べの森をつくろう会（宮城県気仙沼市）と事前打ち合わせの上現況調査・調整を行いながら活動する。

2. 活動の成果

今回事業を開始する、2020年春から影響が拡大した新型コロナウイルス感染症の影響により、予定していた活動はできなくなった。特に東北地方では当初の感染者が少なかったこともあり、他地域からの参加を検討することが難しく、現地と相談の上、当面現地での活動は、無理のない状態となるまで見合わせることを申し合わせた。そのかわり、遠方へ行かなくてもできる研修活動として、種子採取、森づくりの活動を担うスタッフや活動を希望する方が参加できる首都圏での現地講座をいくつか実施し、動画を撮影して研修用の教材資料を作成した。また、活動時期を1年間延長していただき、2021年に（まだイベント等の企画はできないものの）現地海岸植物の調査、地域スタッフとの打ち合わせ、次年度以降に行いやすそうな自然観察会等見学地の視察や現地ミーティングを数回実施した。

3. 参加者の声

（気仙沼市・海べの森をつくろう会のスタッフから、現地打ち合わせにて）ここ数年の活動が地域の子どもたちを主な参加ターゲットとしてきたことから共催イベントが難しくなってしまったが、関係を継続して、可能な形で企画したい。また、以前に採取して育成している海岸植物がそのままになっており、今後の活用を相談したい。

実績報告とりまとめ表

実施時期		月日	月日	計	備考
事業量 又は 事業内容	1. 現地調査・ 打合せ	2021年5月、9月			2. は都内にて実施
	2. 講演会研修会		2020年8月、9月 2021年		
参加者数	県内	人	5人	5人	
	県外	50人	5人	55人	
	計	50人	10人	60人	
実施場所		宮城県 気仙沼市（講習は都内実施）			

総合的な環境学習・研究・ESDのフィールドとしての 「ソフィアの森」の整備

上智大学大学院地球環境研究科
〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町 7-1

1. 活動の概要

コロナ禍のために、前年度に引き続いて研修旅行等のフィールド学習機会への学生の参加が行えない状況が続いたため、毎回公募に応じた地域住民約 20 名を主たる対象として、計 7 回ソフィアの林内を歩く散策イベントを実施した（令和 2 年が 2 回、令和 3 年が 5 回）。本イベントによって収集したアンケート調査等のデータについては、上智大学学術研究特別推進費重点領域研究：「森林環境の生態系サービスの実現のための革新的手法と戦略についての研究：持続可能な地域づくりをめざして（イノフェスプロジェクト）」のケーススタディの一環として、調査分析を行った。

また、整備済みの歩道の維持管理および、新規ルートの整備については、従来学生の体験活動としても実施していたが、コロナ禍のために行えなかったため、イノフェスプロジェクトの資金および本基金を活用して主として委託により実施した。一方、歩道に設置する看板や案内表示、付帯するウェブサイト等の整備については、職員が自ら実施した。

2. 活動の成果

上智大学大学院生、教員、環境専門家、地域 NPO、森林管理署職員、森林組合職員と共同で、自然生態系の観察、生物多様性の増進活動、森林体験活動など総合的な環境学習・ESD を目指しフィールドの整備を長野県軽井沢町浅間山国有林で行った。具体的には、歩道・広場の整備、森の観察昆虫生息調査、地域の NPO との協働による自然観察イベントの実施、森林保全の教育活動などを行った。実施した 7 回のイベントや現地におけるその他の活動には、延べ 120 名程度が参加した。

3. 参加者の声

参加者からは、地元の森林を改めて体験する貴重な機会となったと共に、森林保全について実地で学ぶ機会にもなったという声が聞かれた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	2020年 10/25	2020年 11/15	2021年 5/16	2021年 6/5	2021年 7/24	2021年 10/31	2021年 11/20	他	合計	
事業内容	散策イベントの実施 ※イベント当日の活動以外に、現地の管理や準備作業などその他の活動がある。									
参加者数	県内	15人	2人	5人	18人	15人	15人	6人	3人	79人
	県外	2人	17人	2人	2人	2人	3人	3人	10人	41人
	計	17人	19人	7人	20人	17人	18人	9人	13人	120人
実施場所	長野県軽井沢町（浅間山国有林）									

能登半島の中山間地域における住民グループと都市住民の連携による 地域活性化・グリーンビジネスのモデル構築事業

早稲田大学地域・地域間研究機構
〒359-1192 埼玉県所沢市三ヶ島 2-579-15

1. 活動の概要

石川県能登町当目（とうめ）地区を対象に、地域資源としての林産物・農産物の生産・販売を通じた森林・農地の保全を、住民グループと大学生等（都市住民）が協働で進めた。また、事業を通して農山村地域のレジリエンス（頑強性）の強化を進め、『新たな農山村地域のあり方をモデル化』、さらにそれを面的展開することを目的とした。

2. 活動の成果

- (1) 住民参加型の資源管理システムの構築・強化：年間2,000束のマキ生産だったが、ドローン空撮によりコナラ等の過密地帯を特定しうることから年間2,500束に拡大した。また、従来の古参だけの活動から若手を交えて体制強化し、資源管理システムを発展・強化した。
- (2) 住民間の交流増加による生活の質の向上：当目地区で生産される源流水栽培『のと 当目の米』の生産・販売を強化した。具体的には、女性や高齢者が生産・販売システムに関わることから（生産・販売を参加型で進めることから）、地域における住民交流を促し、社会関係資本を強化することから地域のレジリエンスの向上に取り組んだ。
- (3) 林産物・農産物の販売によるグリーンビジネス化（モデル化）：地区外の住民も含めた広域ネットワークを強化した。2022年4月には地域資源である山菜をターゲットとし、地区外からの約50名が参加する「山菜ツアー」を開催した。山菜を通して地域の森林資源への関わりが増すことで、森林保全とグリーンビジネス化の両面に効果があった。その他、一連の成果はエコプロ展2021で発表を行う等、外部発信に努めた。

3. 参加者の声

上述の「山菜ツアー」を通しての関係人口・交流人口との関わりは、地区に新たな人的資源を導入することとなり、地域の伝統的生態学的知見の復活・伝承・活性化にもつながった。以上から、モデル構築への期待が高まると同時に、それを面的展開することへの期待も高まった。

実績報告とりまとめ表

実施時期		2021年 11月4～8日	2021年 12月7～10日	2022年 4月28～30日	計	備考
事業量 又は 事業内容		マキ生産及び地域資源の活用等	エコプロ2019に出展・発表	山菜ツアー及びグリーンビジネスの強化		
参加者数	県内	20人	15人	70人	105人	なし
	県外	12人	25人	15人	52人	
	計	32人	40人	85人	157人	
実施場所		石川県能登町	東京都江東区	石川県能登町		

蒼いウランバートル緑化技術等交流促進事業

蒼いウランバートル技術支援実行委員会

〒060-0004 札幌市中央区北4条西5丁目林業会館
(公社) 北海道森と緑の会内

1. 活動の概要

【10月26日(水)】

- 11:00 新千歳空港でモンゴル参加者5名と合流
- 14:00～15:00 (有)大坂林業北広島営業所(北広島市)視察
- 16:00～16:30 苫東・和みの森(苫小牧市)視察

【10月27日(木)】

- 13:00～14:30 北海道立林業試験場道東支場(新得町)視察

【10月28日(金)】

- 9:30～11:00 (有)大坂林業(幕別町忠類)視察
- 14:00～15:00 uralaapark(浦幌町)視察

【10月29日(土)】

- 10:00～11:30 真鍋庭園(帯広市)視察
- 13:00～14:30 帯広の森(帯広市)視察
- 15:00～17:30 「緑化技術セミナー」リハーサル(幕別町札内)

【10月30日(日)】

- 13:00～16:30 「緑化技術セミナー」開催(幕別町札内)

【10月31日(月)】

- 9:00 新千歳空港でモンゴル参加者5名と解散

2. 活動の成果

日本とモンゴル両国の緑化技術者、特に道内種苗関連事業者との技術交流により、乾燥寒冷地における防風林造成技術の向上と飛砂被害の低減、防風林管理による生物多様性の保全、住民参加による緑化活動、特に防風林造成の取組の活発化に向けたノウハウを交換し、互いの技術力の向上に資することができた。

また、両国の外交関係樹立50周年の節目に、技術協力、経済協力の継続の重要性について改めて認識を共有することができた。

3. 参加者の声

[モンゴルからの参加者]

- ・北海道の苗木生産現場や林業に関する施設見学により、知見が広まった。
- ・モンゴルと気候の似ている十勝地方で、実際の苗木生産現場を体験でき、いろいろな問題点の気付きがあったので、戻って改善につなげたい。

[セミナー参加者]

- ・飛砂防止のための防風林の重要性が判った。
- ・遠いモンゴルでの壮大な緑化事業の取組の現状が理解できた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	R4. 10. 26	R4. 10. 27	R4. 10. 28	R4. 10. 29	R4. 10. 30	計
事業量	○大坂林業北広島営業所視察 ○苫東・和みの森視察	○北海道立林業試験場道東支場視察(TV取材同行)	○大坂林業視察 ○uralaapark視察(TV取材同行)	○真鍋庭園視察 ○帯広の森視察(TV取材同行)	○「緑化技術セミナー」(TV取材同行)	
参加者数	8名	12名	14名	13名	41名	88名
実施場所	○北広島市 ○苫小牧市	○新得町	○幕別町忠類 ○浦幌町	○帯広市	○幕別町札内	

連続セミナー「森林火災と地球温暖化－燃える森から地球の未来を守れるか」開催事業（国際交流）

一般財団法人地球・人間環境フォーラム
〒111-0051 台東区蔵前 3-17-3
蔵前インテリジェントビル 8F

1. 活動の概要

2019年以降、世界各地の森林火災は深刻度を増している。日本の国土の半分に相当する面積が焼失したといわれるオーストラリアを始め、ブラジルのアマゾン、インドネシア、ロシア、北米などで極めて深刻な森林火災の発生が続いている。背景には地球温暖化による乾燥・干ばつがあるが、商業作物のプランテーション開発や、森林伐採が直接の要因となっているところもある。森林火災と地球温暖化に対して、どのような対策が可能なのか、インドネシアとオーストラリア、日本の専門家から、森林火災の現状、原因と対策を学び、参加者と議論することを目的に、3回のオンラインセミナーを開催した。

日本では森林火災はそれほど深刻な状況ではないが、日本が木材、紙パルプ原料やパーム油を購入しているオーストラリアやインドネシアでは、これらの森林産物の生産と森林火災は密接な関係にある。インドネシアでは、森林火災のほとんどは人為的に発生し、アブラヤシ農園企業などが規制を守らないことで起きていたが、近年の規制強化や政府の連携強化、法的措置の実施により森林火災の発生は減少傾向にあるとの報告があった。オーストラリアの講師からは、森林火災後の衛生伐採により、老齢樹が伐採され森林が若齢化することで、森林火災が再び起きやすくなること、生物多様性に壊滅的な被害を与えること、日本を含む輸入向けのパルプ材の多くが老齢林を伐採して生産されていることが報告された。

2. 活動の成果

セミナーの内容の報告はWebサイトに掲載し、セミナー参加者以外にも広く共有し、普及啓発のために活用している。

3. 参加者の声

- ・泥炭地管理の重要性が良くわかった。
- ・現地の森林火災の状況、要因、政策の課題や日本企業の関係が良くわかった。
- ・もっとマスコミにこういった問題を取り上げてもらいたい。
- ・北方林の森林火災についてはほとんど聞く機会が無かったので、詳しく知れて良かった。
- ・自分たちにできる対策について知りたかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	6月3日	6月9日	6月16日	計	備考
事業内容	連続セミナー	第1回	第2回	第3回	
参加者数	計	191人	86人	88人	365人
実施場所	全てオンライン開催				

令和3年度「緑と水の森林ファンド」公募事業 実行簿

普及啓発事業 54件

番号	申請者	事業名	都道府県	採択額 (千円)	実行額 (千円)	備考
A1	黒松内ぶなの森自然学校運営協議会	添別ブナ林を活用した森林環境教育活動(森のようちえん)	北海道	250	194	
A2	青森県緑の少幼年団連盟	青少年への緑を通じた環境教育推進事業	青森	800	800	
A3	沖館地域緑の募金推進協力会	眺望山自然休養林を活用した健康増進活動	青森	200	7	
A4	特定非営利活動法人 おどろ木ネットワーク	五感で楽しく学ぶ里山 SDGs	青森	600	300	
A5	岩手県立大野高等学校	里山整備に若い力をへきのこプロジェクトへ	岩手	350	73	
A6	特定非営利活動法人 水守の郷七ヶ宿	森から学び、行動しよう!ESD for 2030・SDGS	宮城	250	250	
A7	特定非営利活動法人 SCR	自然にふれよう(山のがっこう)	宮城	400	393	
A8	横手山岳協会	横手の山30座 選定報告書作成事業	秋田	400	392	
A9	ガールスカウト 山形県連盟	フォレストサポート・2021	山形	200	200	
A10	一般社団法人 子育てネットワーク ままもり	木のおもちゃ広場の開催	茨城	850	850	
A11	特定非営利活動法人 やみぞの森	地域材による木工技術の普及と木材利用の普及促進事業	茨城	900	900	
A12	くまの木里山応援団	高原山麓の森林の保全再生と利活用促進	栃木	600	600	
A13	ぐんま森林インストラクター会	森はともだち 楽しくまなぼう 森友 楽校	群馬	350	350	
A14	ちば里山・バイオマス 協議会	竹林整備によって作られる竹炭活用のサカキ(ヒサカキ)栽培。	千葉	650	650	
A15	特定非営利活動法人 観照ボランティア協会	子どもと森をつなぐためのリーダー養成講座(第5回)	千葉	400	400	
A16	一般社団法人 キッカケスクエア	新宿区内における既存の環境を利用した森林環境教育および森のようちえん活動実施の基盤づくり	東京	850		期間延長
A17	一般社団法人 産業環境管理協会	森林の利用等によるSDGs達成のための普及啓発活動	東京	800	589	
A18	International Society of Nature and Forest Medicine	「医師と歩く森林セラピーロード」	東京	1,000		期間延長
A19	特定非営利活動法人 森づくりフォーラム	森づくり体験による森林・林業に関する普及啓発と、森づくり団体の活動支援事業	東京	1,000	1,000	
A20	公益財団法人 Save Earth Foundation	「森から学ぶ」森林の生多様性と生態系を考える	東京	700	696	
A21	「森づくり政策」市民研究会	森林と人との関わりから、持続可能な社会の実現を市民協働で考える連続講座・意見交換会	東京	850	850	
A22	一般社団法人 TOBUSA	「つくって、つながる」木の魅力発見プログラム2021	東京	500		期間延長
A23	一般社団法人 木のいえ一番振興協会	建築設計者等に対する木材・木質建材セミナーの開催	東京	1,000		期間延長
A24	NPO 法人 くにたち農園の会	身近な森林で自然遊びを体験し、森への関心を深めよう	東京	900	900	
A25	「森林・林業・山村問題を考える」シンポジウム実行委員会	シンポジウム『森林へのまなざしー異分野共創・未来への投資ー』	東京	1,000	1,000	
A26	一般社団法人 文化遺産を未来につなぐ森づくり会議	「木造文化遺産補修用材の持続的な確保について」	神奈川	650		事業辞退
A27	森のようちえん 風のいろ	森の恵み自然の恵みを体験しよう	福井	200	169	
A28	特定非営利活動法人 なかまフィールド うじゅうの森	気遣いの森づくりプロジェクト	山梨	550	426	
A29	のいちごの会	森のようちえんボランティアリーダー養成講座	長野	650	650	
A30	NPO 法人 調和の響き エコツーリズムネットワーク	新時代における財産区有林の役割	長野	350	350	
A31	minop	身近な森を活用した自然教室の新しいカタチ「ふもとっ子クラブ」運営事業	岐阜	650	516	
A32	(公社) 静岡県林業会議所	街中公園でのツリークライミング体験を通じて森と木が大好きになるプロジェクト	静岡	800	800	
A33	特定非営利活動法人 水とみどりを愛する会	小学校授業での森林体験学習	愛知	500	399	
A34	公益社団法人 日本山岳会東海支部	猿投の森音楽祭2021「猿投の森を体験しよう」	愛知	600		事業辞退

A35	特定非営利活動法人 京都森林・木材塾	地域産木材利用促進啓発事業	京都	250	250	
A36	やまぐに（林業女子会@京都）	木育 森の恵み発信プロジェクト 森へのパスポート	京都	700	676	
A37	一般社団法人 森のようちえんどろんこ園	森を楽しむワクワク育児！『森のようちえん体験会』と『おやこまつり』	京都	200	200	
A38	フィールドソサイエティ	未来につなごう、都市近郊林～寺林の保全と利用を目指して～	京都	400	400	
A39	大阪森林インストラクター会	箕面国有林勝尾寺園地「箕面ふれあいの森」の「郷土の森」整備活動～植栽木の調査および散策路整備～	大阪	250		期間延長
A40	NPO 法人 サウンドウッズ	木づかい社会の定着を次世代の森づくりにつなぐ「木材コーディネートオンライン講座」運営事業	兵庫	600	598	
A41	奈良教育大学附属中学校裏山クラブ	森林生態系から身近な自然を考えるESDワークショップ～持続的な活用と地域住民の「親」林空間の形成に向けて～	奈良	700	700	
A42	森のようちえん全国交流フォーラム奈良	第16回森のようちえん全国交流フォーラム in 奈良	奈良	1,000	940	
A43	日本伐木チャンピオンシップ in 鳥取実行委員会	第2回日本伐木チャンピオンシップ in 鳥取の開催	鳥取	650	650	
A44	特定非営利活動法人 コアラッチ	森林環境教育～木の一生を見る・聴く・体験する～	島根	650		未提出
A45	特定非営利活動法人 隠岐しぜんむら	森林を活用したプレーパーク活動	島根	250	250	
A46	公益社団法人 島根県緑化推進委員会	保育園・幼稚園等における森林環境教育の推進	島根	1,000	1,000	
A47	NPO 法人 倭文の郷	里山保全の普及啓発	岡山	400	400	
A48	特定非営利活動法人 徳島県森の案内人ネットワーク	少年少女里山マイスター養成講座	徳島	600	600	
A49	筑豊の自然を楽しむ会	飯塚いきものマップ作成事業	福岡	500		未提出
A50	NPO 法人 九州森林ネットワーク	第26回九州森林フォーラム, in 耶馬溪～九州における小規模林業の役割と課題～	熊本	900	900	
A51	鹿児島県森林ボランティア連絡会	日本三大砂丘「吹上浜」の白砂青松再生事業～「森林ボランティアの日」森林づくり活動～	鹿児島	1,000	1,000	
A52	特定非営利活動法人 らんらんらん	森を知り森に親しむ事業	鹿児島	600	458	
A53	特定非営利活動法人 薩摩ワンダー村	SDGsの学びと体験	鹿児島	350		未提出
A54	特定非営利活動法人 みどりの風かんかん	森での学びと体験を楽しむ事業	鹿児島	350	101,398	

調査研究事業 6件

B1	仙台大学 柴田研究室	幼児のストレスに及ぼす森林環境の生理学的効果 計測と自然保育啓発	宮城	1,000		期間延長
B2	郡山女子大学 短期大学部	幼児期における学習環境としての森林の教育的効果に関する研究	福島	1,000		期間延長
B3	一般社団法人 全国森林レクリエーション協会	森林空間を活用した健康活動と森のアクティビティの融合による森林での活動習慣の定着化に関する調査	東京	650	650,000	
B4	一般財団法人 林業経済研究所	コンテナ苗の普及が、林業用苗木生産と再生林の労働力需給に及ぼす影響の把握	東京	1,000	1,000,000	
B5	Momo 統合医療研究所	「働き方改革実行計画」に合わせた、森林空間を活用したメンタルヘルス対策推進の仕組みづくり・プログラム開発・効果検証	東京	700		期間延長
B6	上田女子短期大学	養成校と地域が連携した自然保育の人材育成・確保に向けた実証的研究～農山村地域における幼児期からの森林環境教育の推進に向けて～	長野	1,000		期間延長

基盤整備事業 20件

C1	大沼エデュケーションパーク準備室	まるごと大沼ラムサール探検隊	北海道	500	500	
C2	特定非営利活動法人 遠野エコネット	森のようちえん活動基盤の整備・推進事業	岩手	550		期間延長
C3	学校法人 尚綱学院	森でコミュニケーションしよう「里山再生プロジェクト」	宮城	450	450	
C4	なか自然の会	手入れされていない森林の再生整備と活用事業	茨城	300	300	

C5	倉淵ヤマアジサイの会	森のボランティア育成とヤマアジサイの調査	群馬	500	494	
C6	秩父フォレスト	開発跡地での都市部と秩父の植樹・森林活動と交流促進	東京	950	950	
C7	特定非営利活動法人 Peace Field Japan	大学生を対象とした森林環境教育プログラム	東京	300	300	
C8	子ども樹木博士認定活動推進協議会	子ども樹木博士認定活動を活用した森林環境教育の推進	東京	800	800	
C9	上智大学大学院 地球環境研究科	ソフィアの森の整備	東京	500	500	
C10	モリダス	安全で楽しい森林の保全・利用を指導できるリーダー養成事業	東京	750	750	
C11	森のかっこう	森林空間を活かした不登校児のための居場所と学び舎「森のかっこう」	岐阜	450	439	
C12	一般社団法人 びわ湖の森のようちえん	森のようちえんと小規模特認校の連携による、保幼小中一環の「森と自然を活用した保育・教育」実践モデル構築事業	滋賀	550	550	
C13	奈良県森林ボランティア連絡協議会	陀羅尼助（だらにすけ）の郷で森林づくり in 天川村洞川 Part2	奈良	500	462	
C14	森林ボランティア団体 もりゆう	里山・自然体験リーダー・インストラクター人材育成@東広島	広島	700	700	
C15	とくしま森林づくり県民会議	徳島県森林づくりリーダー養成講座	徳島	600	600	
C16	緑の少年団愛媛県連盟	緑の少年団活動発表大会開催事業	愛媛	750	750	
C17	情報交流館ネットワーク	令和3年度 森林ボランティアリーダー養成講座	高知	600	471	
C18	宮崎県みどりの少年団連盟	宮崎県みどりの少年団総合研修大会	宮崎	800	800	
C19	特定非営利活動法人 もりびと	山村地域の森の循環を学ぶ体験事業	鹿児島	450	450	
C20	NPO 法人こどものけんちくがっこう	こどものけんちくがっこう	鹿児島	1,000	1,000	

国際交流事業 1件

D1	公益財団法人 オイスカ	「自然の力を活用した課題解決」による持続可能な社会づくりを目指すための国際シンポジウムの実施	東京	1,000	1,000	
----	-------------	--	----	-------	-------	--

令和2年度「緑と水の森林ファンド」公募事業（事業期間延長分）

普及啓発事業 11件

番号	申請者	事業名	都道府県	採択額 (千円)	実行額 (千円)	備考
A2	青森県立五所川原農林高等学校	学校演習林（大東農園）を活用した林業教育の推進	青森	550	296	
A12	一般社団法人 子育てネットワーク ままもり	木のおもちゃ広場の開催	茨城	800	800	事業内容変更
A17	埼玉県立浦和第一女子高等学校麗風会	生物多様性のある里山の森づくり	埼玉	500	400	
A21	特定非営利法人 森びとプロジェクト委員会	日光ふるさとの森づくり	東京	850	369	
A23	International Society of Nature and Forest Medicine	「医師と歩く森林セラピーロード」	東京	800	800	
A24	公益財団法人 オイスカ	健全な海岸林を将来に残すための啓発活動	東京	1,000	1,000	
A29	特定非営利活動法人 自然文化誌研究会	身近にあるエネルギーとしてみる森林資源の活用と森林環境教育	東京	400	376	
A32	特定非営利活動法人 こがねい環境ネットワーク	都市部における若者による森林環境教育の実践	東京	550	500	
A63	特定非営利活動法人 徳島県森の案内人ネットワーク	少年少女里山マイスター養成講座	徳島	650	650	
A65	四国の森づくりネットワーク	将来木施業の理解を深めるためのシンポジウムと現地研修会	愛媛	800	800	
A70	特定非営利活動法人 とす市民活動ネットワーク	人と森をつなぐ木材利用と木育事業	佐賀	600	600	

調査研究事業 2件

B2	東京大学未来ビジョン研究センター ライフスタイルデザイン研究ユニット	健康経営における森林サービスの活用：企業研修における森林の持つ複合的な効果についての研究	東京	700	700	
B5	Momo 統合医療研究所	「働き方改革実行計画」に合わせた、森林空間を活用したメンタルヘルス対策推進の仕組みづくり・プログラム開発・効果検証	東京	700	700	

基盤整備事業 3件

C3	特定非営利活動法人 山の自然学クラブ	宮城県沿岸部の在来植物を活用した屋敷林と沿岸植生の再生活動	東京	900	328	
C5	上智大学大学院 地球環境研究科	「フォレストィング・ベース」としての「ソフィアの森」の整備	東京	500	500	
C6	早稲田大学 地域・地域間研究機構	能登半島の中山間地域における住民グループと都市住民の連携による地域活性化・グリーンビジネスのモデル構築	東京	600	600	

国際交流事業 2件

D1	若いウランバートル技術支援実行委員会	若いウランバートル緑化技術等交流促進事業	北海道	700	700	
D2	一般財団法人 地球・人間環境フォーラム	国際セミナー「森林火災と地球温暖化－燃える森から地球の未来を守るか」（仮題）開催	東京	850	850	

令和 3 年 度

「 緑と水の森林ファンド 」

公 募 事 業 募 集 要 領

公益社団法人 国土緑化推進機構

〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-7-4 砂防会館別館（B棟5F）

TEL 03-3262-8457 FAX 03-3264-3974

令和3年度「緑と水の森林ファンド」公募事業募集要領

はじめに

社会環境の変化に伴い、国民の森林・みどりに対する関心はますます高まっており、具体的な「国民参加の森林づくり運動」を一層推進することが課題となっています。

平成24年12月「国際森林デー」の制定、平成25年11月「国連持続可能な開発のための教育10年（ESD）」世界会議等の意義、平成27年9月の国連サミットで採択された17の国際目標（SDGs：持続可能な開発目標）、人生100年時代におけるライフステージに応じた健康・教育・観光等への森林空間利用の促進を念頭に、森林の重要性に対する理解の推進を図るとともに、森のようちえんなど新たな森林の利用や森林環境教育の推進を具体的に図っていくことが重要となっています。さらに、東日本大震災では海岸林が多大な被害を受け森林復興への支援が引き続き求められています。

このような中、公益社団法人国土緑化推進機構では、「緑と水の森林ファンド」の基本課題である森林資源の整備及びこれらを通じた水資源のかん養や森林の利用等に関する総合的な調査研究、普及啓発、基盤整備等の推進を図るため、幅広い民間団体の参加による国民運動として展開することを目的に、「緑と水の森林ファンド」公募事業を実施します。

以下に定める事項に基づき申請して下さい。

〔重点項目の設定〕

「緑と水の森林ファンド」公募事業による助成は、以下の重点項目に沿った4分野（普及啓発、調査研究、活動基盤の整備、国際交流）の事業に対し、重点的に助成を行うこととします。

≪重点項目≫

- 1 「森林環境教育（森のようちえんを含む）」、「震災復興支援」、「地域材の利用」、「地球温暖化防止と森林」、「森林と水」等の課題にポイントを置いた総合的・効率的な普及啓発
- 2 地域材、森林空間の利用促進等山村資源の有効活用等による山村地域の活性化
- 3 リーダーの養成等の森林ボランティア活動支援
- 4 学校林活動や緑の少年団活動の推進など森林環境教育（森のようちえんを含む）等による次世代の育成
- 5 森林の公益的機能、木質バイオマス、森林環境教育等に関する調査研究

〔1〕助成対象者

(1)民間の非営利団体（次の①又は②のいずれかに該当する団体や地域の自主的な活動組織）

①「特定非営利活動促進法」（平成10年法律第7号）に基づく特定非営利活動法人

②以下の要件を満たす団体等

ア 規約等により適正な運営が行われることが確実であると認められること。規約等には、名称、事務所、会員、役員構成、事業運営、会計年度等について規定されていること。

イ 営利を目的としないこと。

(2)非営利の法人

(3)個人（調査研究に限る。）

〔2〕助成対象事業

1 普及啓発

(1) 森林・緑・水に対する国民の認識を深めるための普及啓発

(2) 青少年を対象とする森林ESDの推進（森のようちえんを含む）など森林環境教育の促進

- (3) 森林づくり活動や森林の総合的利用を通じた山村地域の活性化・地域づくり運動の推進
- (4) 地域材の利用・木材需要の拡大、古紙利用推進に関する普及啓発

2 調査研究

- (1) 森林の保全・公益的機能の増進等に関する調査研究
- (2) 青少年を対象とする森林ESDの推進（森のようちえんを含む）など森林環境教育に関する調査研究
- (3) 学校林や学校周辺林の教育的活用のための調査研究
- (4) 地域材・山村資源の有効活用等山村地域活性化に関する調査研究

3 活動基盤の整備

- (1) 森林ESD（森のようちえんを含む）や緑の少年団活動など森林を活用した環境教育等の青少年の育成に関するもの
- (2) 森林ボランティアリーダーの養成・ネットワーク構築等
- (3) 森林づくり活動を通じた農山村と都市住民等との交流促進

4 国際交流

- (1) 国内で開催される森林に関する国際会議への支援
- (2) 森林・林業に関する海外との情報交換

ただし、上記〔1〕、〔2〕に該当するものであっても次の各号に該当する場合は、助成の対象となりません。

- ① 専ら特定の事業者の利益のために行われるもの
- ② 他の団体等への資金の助成等を内容とするもの
- ③ 事業が申請者の負担において行うべきものと認められるもの
- ④ 事業内容が一般に広く波及効果があると認められないもの
- ⑤ 事業が自主的・組織的な活動と認められず、適切に完遂できると認められないもの

〔3〕事業期間

令和3年7月1日から令和4年6月30日まで

〔4〕助成対象経費

(1) 助成の対象となる経費は、次のとおりです。

項 目	区 分	摘 要
講師・指導者・学識経験者への謝金等	謝 金 等	外部からの招請者に限る。 (旅費：実費、宿泊費：ビジネスホテル程度。)
調 査 研 究 費	労 賃 等	外部の技術者等（旅費実費・宿泊費ビジネス）
会 場 費	借 上 料	設営費を含む。
事 務 費	用 品 費	
	印 刷 費	報告書・パンフ・チラシの作成
	通 信 費	
	そ の 他	
資 材 費	器具・用具代	購入（事業実施に必要な簡易なもの）、借上げ
森林づくり活動等のボランティア活動	受入れ施設費	公共施設等を宿舍として一括借上げる場合の宿泊費
	交 通 費	事業場所最寄り（公共交通の最終地点）の集合・解散場所から事業場所までの交通実費（チャーター料等）
	保 険 料	ボランティア等傷害保険料

(2) 助成の対象とならないもの

①食糧等飲食費。

②汎用性があり資産の形成につながる資材の購入。

③森林ボランティア活動の ア 労賃

イ ホテル、旅館、厚生施設等の宿泊費

ウ 居住地から事業場所最寄り（公共交通の最終地点）の集合・解散場所までの交通費

[5] 助成金の限度

団体100万円、個人70万円

[6] 応募方法（助成申請書の提出）

申請者は、[様式1]「緑と水の森林ファンド」公募事業助成申請書を（公社）国土緑化推進機構へ郵送して下さい。

[送付先] 公益社団法人 国土緑化推進機構 基金業務部あて

〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-7-4 砂防会館別館（B棟5F）

TEL 03-3262-8457 FAX 03-3264-3974

[7] 募集期間

令和3年2月1日から令和3年3月15日まで（消印有効）とします。

[8] 助成申請書に対する採択・不採択の決定及び通知

助成申請書に対する採択・不採択については、森林ファンド業務検討会及び森林ファンド運営審議会の審議並びに当機構の理事会を経て決定します。

また、助成金額は、その適正な交付を行うため、当機構理事長が当該助成申請書を審査して決定し、7月上旬申請者に[様式2]により通知します。

[9] 実績報告書等の提出

事業採択を受けた申請者は、事業の開始前に「別紙1」のスケジュール表を提出して下さい。

また、事業完了後2ヶ月以内に[様式3]の「緑と水の森林ファンド」公募事業実績報告書と「別紙2：報告要旨」を当機構に提出して下さい。なお、[別紙2：報告要旨]は、報告集として取りまとめ公表致しますので、電子データでの提出もお願いする予定です。

[10] 領収書の添付

実績報告書の提出に当たっては、同報告書の2決算報告(2)の支出欄の森林ファンド助成金支出内訳の決算額に対する領収書（明細書を含む。）を添付して下さい。

[11] 助成金の交付

(1) 助成金の交付は、事業実績報告書を助成申請書の事業計画等に即して審査を行い、適当と認められた経費を確定し、その旨を通知した後、指定の口座に送金します。

(2) 事業着手後に助成金の一部が必要な場合は、助成交付決定額の1/2以内の額を[様式4]により、概算請求をすることができます。

[12] 事業計画に当たっての注意事項

事業の計画に当たっては、新型コロナウイルスに関する基本的なガイドライン（国土緑化推進機構）等を参考に予防対策等を十分に考慮して下さい。

「緑と水の森林ファンド」公募事業 報告集 Vol.13

令和5年6月発行

発行 公益社団法人 国土緑化推進機構

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-4 砂防会館別館

TEL.03-6362-8457 FAX.03-3264-3974

電子メールアドレス : info@green.or.jp

URL : <https://www.green.or.jp>



緑と水の森林ファンド



SKY キッズレンジャー養成塾
大沼エデュケーションパーク準備室（北海道）